

平成 29 年度

北
広
島

ふるさとゆめプロジェクト

事業報告書



平成 30 年 3 月

北広島ふるさとゆめプロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	平成29年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 実施計画	2
3.	4年生「北広島 お宝発見・体験ツアー」	
	(1) 実施計画	4
	(2) 活動の様子	7
	(3) 児童アンケート結果	15
	(4) 児童作文	17
4.	5年生「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～	
	(1) 実施計画	36
	(2) 活動の様子	40
	(3) 児童アンケート結果	54
	(4) 児童作文	58
5.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	
	(1) 実施計画	91
	(2) 活動の様子	95
	(3) 講演会	98
	(4) 児童アンケート結果	102
	(5) 児童作文	111
6.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って	132
7.	おわりに	138

はじめに

北広島町は、平成19年3月に第1次長期総合計画を策定し、企業立地や定住政策に取り組んでまいりました。今、日本全体が少子高齢化・人口減少に転じ、本町もこの渦中にあります。人口減少による中山間地域の地域コミュニティの崩壊は喫緊の課題で、この状況に歯止めをかけるために、本町ではこれからの10年間を見据えた「第2次北広島町長期総合計画」を策定しました。この中で、「郷土を愛し地域を担う人材の育成」を大きな柱とし、ふるさとに愛着を持ち、ふるさとに貢献したいと考える若者の育成を強化することを目的とした「北広島ふるさと夢プロジェクト」に取り組んでいます。

この「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施することで、町の宝である子供達の「ふるさとを思う気持ち」をより深く醸成し、将来の定住や北広島町を誇りに思う気持ちに繋げたいと思っています。この事業実施より、数字や結果がすぐに出るものとは考えていませんが、子供達が大きくなった数年後、あるいは数十年後に北広島町を大切に思ってくれることを期待するものです。そのために、まずは今、北広島町に住む子供達が少しでも本町を好きになってもらえるように事業を展開しています。地域の皆様のご協力をいただきながら、同一学年の地域・学校間の垣根を越えて様々な体験をすることで、仲間意識を高め、多くの地域の大人との出会いや感動が生まれています。地域の大人もまた、子供達との出会いや活動により将来への希望や元気をもらっています。

そして、何より大切なのは、私たち自身がこの地域に誇りを持ち、いきいきと暮らしていくことだと思います。その姿を子供達はしっかり見ているのではないのでしょうか。「子は親の後ろ姿を見て育つ」と言われますが、親は勿論ですが、地域の大人達も見られています。私達も、子供達と一緒に、共感し、感動し、心豊かな暮らしを実現できるよう、この町で生きていくべきだと思うのです。

町民の皆様、地域の皆様の益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

平成30年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
隊長 箕野 博司
(北広島町長)

平成29年度 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊設置にあたって

事業目的: 「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町では昨年度から箕野町長がすすめる若者定住を主要施策として、全庁あげて定住対策に取り組むことにした。教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的とし、定住対策の関連事業として「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町で「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力ある事業を行い、子供たちに町の魅力を再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。事業を通して全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体 北広島町
主 管 北広島町教育委員会
組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・企画課・商工観光課の職員、教育委員会の職員。

(本年度については、教育委員会事務局及び校長会が主体となって事業を行う)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	中原 健 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	古川 達也 (総務課長)	畑田 正法 (企画課長)
	沼田 真路 (商工観光課長)	藤田 典生 (中学校代表)
	佐々木 昭典 (小学校代表)	教育委員会職員
事務局	石坪 隆雄 (事務局長)	西村 豊 (事務局次長)
	三宅 克江 (事務局員)	沖中 満春 (事務局員)
	落合 かるな (事務局員)	

【学校】

4年以上で学年ごとに実施する3つの事業を、9小学校が分担して諸計画を作成し、中心となって企画・準備・運営をする。

■ 4年「北広島 お宝発見・体験ツアー」担当校

◎山根 (大朝小) ◎寄実 (新庄小) ◎仲野 (本地小) — 責任校長・事務局担当<大朝小>

■ 5年『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」担当校

◎板倉 (芸北小) ◎松島 (壬生小) ◎神川 (八重小) — 責任校長・事務局担当<芸北小>

■ 6年「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

◎佐々木 (豊平小) ◎栗栖 (八重東小) ◎上本 (川迫小) — 責任校長・事務局担当<豊平小>

※ 事業全体に関わる連絡調整 (町教委・学校)・事務局担当 (報告書作成を含む) <豊平小>

2 H29年度の基本方針・具体的な取組について

町内の同学年が一堂に会して北広島町の「ひと・もの・こと」のすばらしさを学んだり、感動ある同一体験をすることで、ふるさとに誇りを持たせたり、町内には多くの友達がいることを認識させ仲間意識の醸成をさせたりする「夢・感動体験事業」と、各学校・地域ごとに、地域と一体となったふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育 (ふるさとへの愛着)」と、その基盤の上に自らの人生の指針を描く「キャリア教育 (夢や目標、勤労・職業観)」を融合させた「ふるさと・キャリア教育事業」を展開する。

ふるさとキャリア教育については、各学校で計画を立てて、実施していく。

「夢・感動体験事業」の概要について

町内の4年以上の学年について、次の事業を実施する。

	4年			5年			6年			総計
	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	
芸北小	6	10	16 (5)	2	8	10	6	7	13	39 (5)
大朝小	6	6	12 (1)	4	7	11 (1)	6	7	13 (1)	36 (3)
新庄小	3	5	8 (1)	10	6	16	6	4	10 (2)	34 (3)
川迫小	2	3	5	1	4	5 (1)	0	2	2	12 (1)
八重小	13	10	23 (1)	11	13	24	20	16	36	83 (1)
八重東小	10	9	19 (1)	10	13	23	8	8	16	58 (1)
壬生小	19	17	36 (1)	13	13	26 (1)	18	17	35 (2)	97 (4)
本地小	9	2	11 (2)	5	2	7	7	15	22	40 (2)
豊平小	7	10	17	7	13	20 (2)	6	15	21	58 (2)
合計	75	72	147 (12)	63	79	142 (5)	77	91	168 (5)	457 (22)

() の数は引率者数

【4年生－「北広島 お宝発見・体験ツアー」＜9月22日〔金〕＞

《目的》

- 町内のお宝（ひと・もの・こと）を発見・体験する学習を計画し、北広島町の自然・文化財・文化等のすばらしさを学ばせることで、ふるさとへの愛着と誇りを持たせる。
- 近隣の学校でいっしょに学習をしたり、交流会を持ったりすることで、児童間の親睦を図る。
- 公共施設の利用など校外における集団行動を通して、一人一人に社会（集団）の一員としての自覚を持つとともに、社会における基本的な生活態度（マナーやルール）を身に付けさせる。

《主な活動内容》

- 町内のお宝を発見・体験するツアーの計画を立て、近隣の学校でいっしょにバスを利用して、4グループに分かれて現地に行き、体験・交流学习を行う。昼に、参加児童が、大きく2つに分かれて児童の交流会を行う。「テングシデ群落（大朝）」「芸北民俗保存芸能伝承館（千代田）」「どんぐり庵（豊平）」「芸北高原の自然館・ジップライン（芸北）」等、具体的な見学・体験学習の場所等については、昨年度大筋を決定済み。

【5年生－「『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」事業＜7月＞

《目的》

- 町内の自然を生かした体験活動や民泊での田舎生活体験、地域の方とのふれあいを通して、ふるさとの良さを実感させる。
- 町内の同学年児童による自然の中での共同体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。
- 養魚場でのつかみ取りや調理体験・登山等の活動を通して、町内児童間の親睦を図る。

《主な活動内容》

- ＜期日＞（学校を3つのグループに分けて実施－3泊4日〔初日は学校泊、残り2日は民泊〕）
 - Aグループ：八重小(24)・本地小(7)・豊平小(20)
7月4日(火)～7日(金)
 - Bグループ：芸北小(10)・八重東小(23)・大朝小(11)
7月11日(火)～14日(金)
 - Cグループ：新庄小(16)・壬生小(26)・川迫小(5)
7月18日(火)～21日(金)
- ◆1日目－※学校等へ宿泊（授業終了後に活動開始）－防災体験・食事作り・星空の観察等
- ◆2日目－開会式（学校紹介・交流）人間関係作り（レクリエーション等）
対面式（民泊受入れ家庭と）・民泊家庭で田舎生活体験
- ◆3日目－登山体験（大潰山）・民泊家庭で田舎生活体験
- ◆4日目－大暮養魚場で川魚体験・お別れ式（民泊受入れ家庭と） 閉会式

【6年生－「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」＜10月19日〔木〕＞

《目的》

- 植松電機 植松努先生の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

《主な活動内容》

- ◆学校紹介をして児童交流を行う。
 - ◆講演を聞き、夢と感動のある生き方について考える。
 - ◆一人一機のロケットを製作し発射させる。
- ＜日程案＞
- | | |
|----------------------|---------------------|
| ■9:20～10:50 開会行事・交流会 | ■10:00～11:00 講演会 |
| ■11:00～12:30 ロケット作成 | ■13:30～14:30 ロケット発射 |

4年生 北広島 お宝発見・体験ツアー



北広島ふるさと夢プロジェクト事業（４年生）実施要項

～「北広島 お宝発見・体験ツアー」～

- 1 日 時 平成29年 9月22日（金） （雨天決行）
- 2 目 的
 - 各学校の4年生が、町内のお宝（ひと・もの・こと）を見学・体験する学習を立て、北広島町の自然・文化財・文化等のすばらしさを学ばせることで、ふるさとが好きになり誇りを持たせる。
 - 近隣の学校でいっしょに学習をしたり、交流会を持ったりすることで、児童間の親睦を図る。
 - 公共施設の利用など校外における集団行動を通して、一人一人が社会（集団）の一員としての自覚を持つとともに、社会における基本的な生活態度（マナーやルール）を身に付けさせる。
- 3 見学場所及び日程
※別紙参照
- 4 参加予定児童と引率職員
※別紙参照
- 5 事前・事後の取組
 - (1) 事前指導と連携
 - ①プロジェクトの趣旨を踏まえて、見学・体験学習の内容を決定する。また、見学先と目的について事前学習を行い、目的意識を持って参加させる。
 - ②車中・見学先でのマナーについて指導しておく。
 - ・さわらない さわがない 走らない ・単独行動をとらない。
 - ・説明者の話をよく聞く。 ・必要な場合はメモをとる。
 - ・見学先でのあいさつ（はじめとおわり）と丁寧な言葉づかいをする。
 - ・車中では、「立たない」「騒がない」の指導をしておく。
 - ※学校間で連携して、座る場所等について協議しておく。
 - ③特別な支援を必要とする児童については、学校間で連携して事前の指導・対応を考えておく。
 - ④安全で効率のよい見学・体験学習にするために、事前に下見をしたり学習の内容について連携をとったりしておくようにする。
 - (2) 事後指導と事後の取組
 - ①実施後にアンケートを実施する。見学・体験したこと、学んだこと等を作文に書き、原稿用紙（3枚程度）にまとめる。
 - ②集団行動や見学のマナー、安全について振り返らせ、今後の生活に生かしていく。
 - ③次の内容の報告書を作成する。
 - 【内容】プロジェクトのねらい
 - 各グループの計画・実施の様子
 - ＜各グループ写真入りでA4・2枚程度にまとめる＞
 - 作文＜各学校2～3人＞
 - 実施後のアンケート結果
- 6 役割分担
 - 見学・体験先との渉外（各グループごと） ○バス会社と連携（町教委）
 - 「見学のしおり」又は「見学ノート」（各グループで必要に応じて作成）
 - 教育委員会届出（各学校） ○保護者通知（各学校）
 - 会計（バス、見学・体験費用等）（大朝小＜山根＞・町教育委員会）
 - 見学・体験先での進行・児童指導、健康管理・救急対応（各グループごとに担当者を決めておく）

- 昼食・交流会での指導（大朝小・新庄小・本地小）豊平ウィング・美和東文化センターの2会場
 - ・全体指導（豊平小 林教諭）
 - ⇒ 交流会 事前に打ち合わせと準備をしておく。
 - ① 学校ごとの「学校紹介〔3分〕」（各学校で事前指導しておく）
 - ② 交流ゲーム〔14分〕（新庄小 尾崎教諭）
 - ③ 記念写真
 - ・報告書作成
 - ⇒ プロジェクトのねらい（豊平小）
 - 各グループの計画・実施の様子
 - 各グループ写真入りでA4・2枚程度にまとめる。
 - ※写真担当を決めておく
 - ＜全体の記念写真担当：大朝小 小原教諭＞
 - ※様式は、事前に各学校へ送付
 - 作文＜各学校2～3人＞
 - ※学校ごとに指導して作成－10月中に作文を選んで豊平小へ送付
 - 実施後のアンケート結果
 - アンケートの作成（豊平小）－事前に各学校へ送付
 - 学校ごとに集計して、10月中に豊平小へ送付
- 全体総括（大朝小－山根校長）
 - ⇒各グループの管理職と緊急連絡が取れる体制を作り、円滑で安全なプロジェクトが実施できるようにする。

7 安全指導

- 教職員は、児童の安全を確保できるように細心の注意を払う。特に、マムシや蜂、マダニ等の被害を受けないように児童へ指導をするとともに、見学地の状況を事前に把握し必要な措置をしておく。
- 随時、人数確認を行い、健康状況を把握する。
- 見学先で、単独行動をさせず、グループで行動させる。
- 不審者に声をかけられたり、連れ去られたりしそうになったら、大きな声を出すなど、具体的な行動の仕方を実態に応じて指導しておく。
- 緊急事態発生の場合は、直ちに児童の安全を確保し、グループの管理職に連絡し指示を受ける。管理職は、必要な対応をするとともに、町教委・該当児童の学校（校長）へ迅速に報告する。学校ごとに救急バッグを携帯し、軽傷についてはその場で処置をする。
- 見学地等を考慮し、グループごとに判断して必要に応じて、緊急対応車を手配する。

8 その他

- 雨天実施であるが、台風などの接近により荒天が予想される場合は、町教委と連携して中止とする。中止が決定され次第、保護者に迅速に連絡を入れる。
- 雨天の場合、雨の影響を受ける内容については、事前に対応を考えておく。

H29年9月22日（金）実施予定 北広島ふるさと夢プロジェクト事業 4年生「北広島 お宝発見・体験ツアー」見学・体験場所

グループ	芸北小・豊平小	大朝小・新庄小	八重小・八重東小・本地小		壬生小・川迫小
見学場所等	○芸北民俗芸能保存伝承館 北広島町有田 1234 ○ユートピアサイオト ジップライン 北広島町才乙 144	○ユートピアサイオト ジップライン 北広島町才乙 144 ○芸北民俗芸能保存伝承館 北広島町有田 1234 ○古保利薬師 北広島町古保利 224	○テングシデ群落 北広島町田原灰谷 ○オオアサ電子株式会社 北広島町大朝 3817-10 ○どんぐり荘（そば道場） 北広島町都志見 2609		○戦国の庭歴史館（豊平） 北広島町 海応寺 255-1 ○どんぐり荘（そば道場） 北広島町都志見 2609 ○オオアサ電子株式会社 北広島町大朝 3817-10
日程	8:20 豊平小出発（大型バス） 8:30 芸北小出発（公用車等） 9:00 サイオト・ジップライン [12:00 まで] 12:30 美和東文化センター （昼食・交流会） [13:30 まで] 14:00 伝承館見学 伝承館： [15:00 まで] 15:00 移動 15:30 豊平小着 15:50 芸北小着	8:20 大朝小出発 8:30 新庄小出発 9:00 伝承館見学 伝承館： [10:00 まで] 10:15 古保利薬師見学 生涯学習課： [11:15 まで] 12:00 美和東文化センター （昼食・交流会） [13:00 まで] 13:30 サイオト・ジップライン [15:40 まで] 16:20 大朝小着 16:40 新庄小着	【1号車】 8:25 八重小発（集合 8:15） 09:05 テングシデ群落 [9:45 まで] 10:10 オオアサ電子株式会社 [11:10 まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 （昼食・交流会） [13:30 まで] 13:45 どんぐり荘 （そばうち体験） [15:30 まで] 16:10 八重小着	【2号車】 8:15 本地小発（集合 8:00） 8:20 八重東小発（集合 8:10） 15:50 本地小着 16:00 八重東小着	8:15 壬生小発（集合 8:00） 8:35 川迫小（集合 8:25） 9:00 戦国の庭歴史館 10:00 生涯学習課： 10:30 どんぐり荘 12:00 （そばうち体験） 12:15 豊平どんぐり運動公園 （昼食・交流会） [13:30 まで] 14:15 オオアサ電子株式会社 [15:15 まで] 15:35 川迫小 16:00 壬生小
経費	サイオト・ジップライン使用料 33,000 円<一人 1,000 円>	サイオト・ジップライン使用料 20,000 円<一人 1,000 円>	そば打ち体験代（児童 52 名）※1名そばアレルギーの為不参加 44,200 円<一人 850 円>		そば打ち体験代（児童 41 名） 34,850 円<一人 850 円>
児童数 （在籍）	芸北小 16 名 豊平小 17 名 計 33 名	大朝小 12 名 新庄小 8 名 計 20 名	八重小 23 名 八重東小 19 名 本地小 11 名 計 53 名	壬生小 36 名 川迫小 5 名 計 41 名	
引率者	<芸北小> ・高槻雄志（教頭） ・梅尾龍治（4年生担任） ・細田充裕・高杉千賀子（特支担任） ・清見和美（養護教諭） （ 5 ）名 <豊平小> ・佐々木昭典（校長）緊急対応車 ・林利昭（4年生担任） （ 2 ）名 計 [7]名	<大朝小> ・山根 昌美（校長） ・小原 義史（4年生担任） ・上川 邦子（養護教諭） （ 3 ）名 <新庄小> ・寄実富美枝（校長）緊急対応車 ・尾崎 恵（4年生担任） ・梅田雪絵（特支担任） （ 3 ）名 計 [6]名	<八重小> ・立川智子（教頭）緊急対応車 ・鍵谷聖子（4年生担任） ・岡田依美（特支担任） ・佐柄加代美（養護教諭） （ 3 ）名 計 [4]名	<八重東小> ・出元永子（教頭）緊急対応車 ・川原典子（4年生担任） ・山下真矢（特支担任） （ 3 ）名 <本地小> ・仲野 泰二（校長） ・武本圭子（4年生担任） ・大谷公治（特支担当） （ 3 ）名 計 [6]名	<壬生小> ・松島尚志（校長）緊急対応車 ・松田江里子（4年生担任） ・大丸鏡子（特支支援員） （ 3 ）名 <川迫小> ・藤本康男（4年生担任） ・田中悦子（養護教諭） （ 2 ）名 計 [5]名
バス利用	33+[6]名 大型バスを利用（総企バス）	20+[5]名 中型バスを利用（大朝交通）	23+[3]名 中型バスを利用（八重タクシー）	30+[5]名 大型バスを利用（八重タクシー）	41+[4]名 大型バスを利用（八重タクシー）

「北広島 お宝発見・体験ツアー」の活動の様子

【芸北小・豊平小グループ】

芸北小・豊平小グループは、サイオトスキー場でのジップライン体験と芸北民俗芸能保存伝承館の見学をしました。このツアーでは、普段なかなかできないジップラインの体験を通して、地域の自然のよさを感じることで、芸北民俗芸能保存伝承館の見学を通して、ふるさとに伝わる花田植や神楽の歴史や先人の知恵を知ること、自分達の地域のすばらしさを学ぶことがねらいでした。

ジップライン体験では、安全に活動を行うために、体に装着するたくさんの器具を指導員の方が準備してくださり、装着の仕方・滑走する際の体勢・止まり方など、分かりやすく説明をしてくださりました。始める前は、恐いと感じていた子供達もいましたが、周りの友達に励まされ、だんだんと思いつつスタートができるようになりました。また、体験を通して、他校の同級生と話をすることが増え、多くの笑顔が見られました。体験をしながら山道を歩き、高いところからの景色を楽しんだり、虫や木の実を見てはしゃいだりと、自然も満喫しました。児童にここで見つけた宝は何か問うと、「友達」や「大自然」という答えがかえってきました。

芸北民俗芸能保存伝承館では、最初に花田植について説明をしていただきました。今と違い機械がなかったことで、耕運機の代わりに牛が使われていたことや、隣近所の人たちで協力しながら田植えをしていたこと、そして、その営みの中から花田植が誕生したことなどを知ることができました。また、豊作を神に祈り、祈りを捧げる儀式の一つとして神楽が生まれ、現代まで引き継がれていることや、稲のわらを使って生活用品をいくつも作り出してきたことなど、米作りと伝統的な行事や生活との繋がりを感じることができました。児童にここで見つけた宝は何か問うと、「伝統」や「昔の人の知恵」という答えがかえってきました。

【ユートピアサイオト ジップラインの体験】

短いコースで1回練習を行い、5つのコースを体験しました。大自然の中でのアトラクションはスリルがあり、景色もよかったので、とてもいい思い出になりました。

サイオトスキー場の指導員の方に、ジップラインのやり方をていねいに教えてもらいました。とても分かりやすく教えてもらってうれしかったです。





ジップライン楽しむぞー！
「スリー、ツー、ワン、ゴーッ！」



北広島町が世界に誇る『壬生の
花田植』をはじめ、稲作にまつわ
る伝統行事を学びました。

【芸北民俗芸能保存伝承館の見学】

神楽は豊作を神様に伝えるための奉納の
舞いとしておこなっていること、また神楽
団がたくさんあることを知りました。



体験コーナーでは、使った
ことがない『とうみ』に挑戦
したり、たいこをたたいて音
を出したりしてみました。



【壬生小・川迫小グループ】

壬生小・川迫小グループは「戦国の庭歴史館」「そば打ち体験」「オオアサ電子株式会社」に行きました。このグループの「お宝発見ツアー」の目的は、町内の歴史、食文化、工業について知り、そのすばらしさを学ぶことで、ふるさとを好きになること、近隣の学校と交流することで親睦を図ること、公共の場での集団行動を通し、社会における基本的な生活態度を身につけさせることなどでした。

「戦国の庭歴史館」では、吉川元春や当時の戦国武将について、いろいろなものが展示してありました。特に館跡には、いろいろなものが出土しており、病気のときには、ツルやカワウソを食べていたこともわかり、それを聞いた壬生・川迫小の4年生もびっくりしていました。

どんぐり庵では、そば道場で「そばうち体験」をしました。そばをねるところから切るところまで実際に体験させていただきました。自分で作ったそばはとてもおいしかったようです。

昼ごはんは、どんぐり運動公園の体育館で食べ、そこで八重小、八重東小、本地小学校とも合流して交流会を開きました。学校紹介では、一人一人が大きな声で紹介できました。その後のレクでも、5校みんなで体を動かして楽しみました。

午後のオオアサ電子では、「エグレッタ」という全方向から音が出るスピーカーの音を聞かせてもらいました。その美しい音に「すごい！」と感動していました。

町内のお宝を知り、他校の人と仲良くできた「お宝発見ツアー」となりました。

【戦国の庭歴史館の見学】

戦国武将のよろいを着ることができたよ。吉川元春の気分が味わえたよ。



館跡の模型を見たよ。この館跡からは、いろいろな土器や食材などの出土品が出ていて、昔の生活を知ることができました。

「戦国の庭歴史館」で吉川元春やその館跡から、この北広島町にも戦国時代に名を残した戦国武将がいたことがわかったよ。



【そば打ち体験】



豊平の特産物のそばを作ったよ。粉に水を入れてこね、棒で引き伸ばし、包丁で細く切っていったよ。講師の先生にお手本を見せていただき、班の人と協力しながら作りました。

自分達で作ったそばはとっても美味しかったよ。そばがこんなに美味しいとは知らなかったよ。今度、家でも作ってみたいと思いました。



【オオアサ電子株式会社の見学】



オオアサ電子で作っている「エグレッタ」という名前のスピーカーを組み立てているところを見せてもらったよ。大人には聞こえない高い音も聞かせてもらったよ。

「エグレッタ」の音を聞かせてもらったよ。360度全方向から音が出ていることがわかったよ。テレビのスピーカーと比べると、エグレッタのスピーカーの音の良さがわかったよ。



【新庄小・大朝小グループ】

午前は、教育委員会生涯学習課の沢元さんの案内で「芸北民俗芸能保存伝承館」「古保利薬師」を見学しました。

「芸北民俗芸能保存伝承館」では、北広島町の民俗芸能である花田植や虫送り、神楽といった稲作を中心とした昔の祭りについて説明を聞きました。新庄小学校の児童は、自分たちが受け継いでいる「新庄のはやし田」と「南条踊り」の展示を見ることができ、その大切さに改めて気付く事ができました。その後2階の展示を見学し、昔の道具のほか、冬期に行われていた染物や機織りなどを見学しました。実際に見たり触ったりすることで昔の生活や文化について知ることが出来ました。

「古保利薬師」では、収蔵庫の仏像を見ました。本尊の薬師如来坐像をはじめ平安時代に作られた12体の仏像が国の重要文化財の指定を受けていることについて説明を聞きました。たくさんの仏像をじっくりと見て表情やポーズを観察し、自分が気に入った仏像をまねしたり、描いたりしました。その後、収蔵庫横の古墳跡を見学して、古保利古墳群について説明を受けました。昔は土葬していたことや、50基あまりの古墳があること、北広島町が昔から栄えていたことなど、初めて知ることもありました。

午後から小雨が降り心配しましたが、予定通り「ユートピアサイオト」でジップラインを体験しました。大朝小と新庄小混合の2チームに分かれて活動しました。あいさつの後、インストラクターの方々がハーネスと呼ばれる器具を説明して下さり、体に装着しました。いよいよ始まるという緊張もあってか表情の硬かった人もいましたが、基本動作の練習の後、3コースを回り、体験を終えることができました。はじめは怖いと感じていた人もいましたが、やってみると楽しく、グループの友達と仲良くなったり、北広島町の自然を楽しんだりでき、活動を楽しむことができました。

【芸北民俗芸能保存伝承館の見学】



「新庄のはやし田」「南条踊り」「本地の花笠おどり」など、いろいろな説明があったよ。受け継ぐって、すごく大切な事なんだな。

北広島町のいろいろなところに伝統芸能があるんだな。初めて知ることいっぱいあるなあ。



神楽で使う大太鼓や昔の道具を見たよ。使い方を調べたり手に取って動かしたりして、勉強になった。見たことのない道具がいっぱいあったよ。大切に残していきたいな。

布を作るのって、綿を集めて、織って、色を染める草を集めて、染めてと、たくさんのお仕事をしなくちゃいけないんだな。苦労して作られていたんだな。昔の物が残っているのは、いいことだな。



【古保利薬師の見学】



よく見ると、いろいろな仏像があるな。表情やポーズが違っているぞ。おにを踏んでいる仏像があった。はじめて見たので、びっくりしたよ。仏像のおでこの所にくぼみがある。石が埋められていたけど、無くなっているんだって。盗んだ人は悪すぎる。



重要文化財の指定を受けている仏像が12体もあるなんてすごいな。北広島町のお宝だ。1本の木からできていることや大昔のものが今も残り続けていることにとても感動したよ。



【ユートピアサイオト ジップライン体験】



サイオトスキー場の指導員の方に、ジップラインのやり方をていねいに教えてもらったよ。とても分かりやすく教えてくれてうれしかったよ。



高さや長さが違う6つのコースがあったよ。最初は怖いと思ったけど、滑っていくうちにだんだん慣れて楽しくなってきたよ。

インストラクターの方のいろいろなミッションを達成できたのがとてもうれしかったよ。やってみたら、気持ちがすっきりしたよ。楽しすぎて、こわい気持ちを忘れていたなあ。



道中、車窓から見える地形や紅葉の様子、太田川と江の川の水系の違い、牛の放牧、藁葺き屋根等、見学地の以外の北広島町の「お宝」を発見して楽しみました。

【本地小・八重東小・八重小グループ】

本地小・八重東小・八重小グループは、午前は、「テングシデ群落」と「オオアサ電子株式会社」を訪れました。このツアーでは、北広島町の植物を観察し、地域の自然の素晴らしさを知ることや、世界に誇れる電子機器が、小さな町北広島町が世界につながっていることを知り、町内の素晴らしさを実感し、ふるさとが好きになり誇りを持たせることがねらいでした。

【テングシデ群落（大朝）】

世界で唯一、北広島町田原に自生している国の天然記念物「大朝のテングシデ群落」の見学をしました。テングシデの由来や生態について説明を聞き、間近で木の幹の形や葉、テングシデの由来となったシデの実を観察しました。最後は、グループで、テングシデをイメージするポーズやキャッチコピーを考えました。

ぐにゃぐにゃ曲がりくねったテングシデの間近に見ることができました。

地域の人に大切にされている、世界にここだけのテングシデに癒されました。



【オオアサ電子株式会社】

オオアサ電子株式会社では、360度全ての方向から音が出る「エグレット」という名前のスピーカーを組み立てている様子を見せて頂きました。実際に普通のスピーカーとオオアサ電子製の「エグレット」スピーカーの音の違いを聴き比べてみると、「エグレット」は、高音の伸びと部屋いっぱいに広がる臨場感が大変素晴らしく感動しました。また、オオアサ電子株式会社の製品は、宇宙飛行士のストレスを軽減するための“音”を流すスピーカーとして、宇宙船にも搭載されているそうです。北広島町の製品が全国へ、世界へ、宇宙へと進出していることに驚きました。



部屋のどこにいても、部屋を包み込むような臨場感あふれるサウンドが聴こえてきました。

【そば打ち体験（豊平）】

午後からは、北広島町豊平にある「どんぐり庵」でそば打ちの体験学習をしました。この体験では、豊平で有名な「そば」を実際に自分の手でまぜ、こね、のぼし、切る体験をしました。本地小・八重東小・八重小の3校合同のグループを編成し、学校間の交流を深めながら活動しました。体験を終えた後は、自分達で打ったそばをその場で茹でてもらい味わいました。自分達で作ったそばは見た目は少し不恰好でも、とてもおいしかったようです。

この体験を通し、北広島町の素晴らしさに触れることができました。



そば打ち職人の方々に、とても丁寧に優しく教えて頂き、地域に伝わる文化を体験することができました。



手でこねるのは、結構な力がいり、グループのみんなで順番に代わりながら協力してこねました。

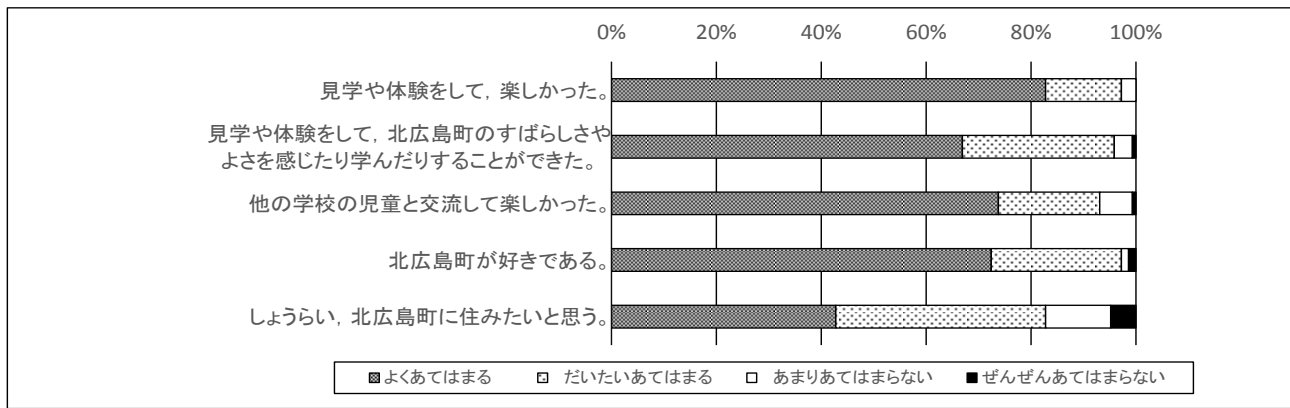


自分達で作ったそばは格別でした。少し太いそばもありましたが、「ぼくが切ったそばだー！」と楽しみながらみんなで食べました。



「おいしかったです。ごちそうまでした。」感謝の気持ちもしっかり伝えました。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（4年）



今日一日で、特に心に残っていることは、どんなことですか。

芸北小学校	大朝小学校
<ul style="list-style-type: none"> ①ジップラインをして、最初は怖かったけど楽しかった。(15) ②伝承館で昔の人のくらしがわかり興味を持った。(9) ③みんなで楽しく話しながらお弁当を食べた。(8) ④バスの中で豊平小の人とたくさん話して楽しかった。(5) ⑤交流会でもうじゅう狩りをしている人々と友達になった。(5) ⑥伝承館の体験コーナーが楽しかった。(3) ⑦ジップラインの始めの会で挨拶をしてみんなからすごいといわれてうれしかった。 ⑧学校発表で緊張せずに言えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ジップラインが楽しくて心に残っている。(8) ②他の学校の人と仲良くなれて楽しかった。(4) ③古保利薬師で仏像を見れて楽しかった。(3) ④芸北民俗芸能保存伝承館で昔のものをたくさん見ることができて楽しかった。(3) ⑤ジップラインでたくさんの技に挑戦できて楽しかった。(2) ⑥ジップラインが最初は怖かったけど、やっているうちに楽しくなった。(2) ⑦間近で仏像を見て、1200年前のものが今も残っていることに驚いた。(2)
新庄小学校	本地小学校
<ul style="list-style-type: none"> ①古保利薬師で、仏像の顔の絵をかいたことが心に残った。(2) ②交流会で遊んだり、いろいろな人と話したりして楽しかった。(2) ③ジップライン。くるくる回って進んで、楽しかった。(2) ④伝承館で、太鼓をたたいたのが楽しかった ⑤伝承館。まだ知らないことを知ることができた。 ⑥古保利薬師。昔からずっと残っていると知ってびっくりした。 ⑦古保利薬師。すごいひみつがあったので、わくわくした。 ⑧お弁当がおいしかった。 ⑨交流会で、いろいろな学校のよさを知ることができた。 ⑩交流会の学校紹介が、53名の人の前でも練習どおり大きな声でできた。 ⑪友だちが4人できた。友達ができるとうれしい。 ⑫同じバスの大朝小学校の人と仲良くなれた。 ⑬ジップライン。景色がよかった。 ⑭ジップライン。スリル満点でこわかったけど、がんばることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①テングシデ(10) 不気味だった。ふしぎな形。あんなにぐにやぐにやしてる木を初めて見た。実際に見たり触ったりできる。テングシデは1本しかないと思ったけど、たくさん見ることができた。枝の重なりがハートに見えるのを探した。幹が石みたいに硬くてすごい。名前の理由(由来)が分かったから。普段見ることができない木が見れた。 ②そば打ち体験(9) 初めてやったから。そばを切るのが楽しい。やってみたら結構楽しかった。上手にできた。友達ができて仲良くなったから。 ③交流会(6) 他の学校と一緒にゲームができた。新しい友達もできた。知っている友達に会えた。他の学校の発表が聴けた。 ④オオアサ電子(3) スピーカーが迫力があって面白かった。いろんな場所に工場があることがわかったから。

八重東小学校	八重小学校
<p>①そば打ちで自分たちで協力して打って食べたこと。(14)</p> <p>②オオアサ電子のスピーカーを聞き比べて、普通のスピーカーと音がぜんぜん違ったこと。(13)</p> <p>③交流会で他校の友達と一緒に遊べて仲良くなれたこと。(8)</p> <p>④テングシデは普通の木と違ってぐにゃぐにゃやして面白かったこと。(6)</p> <p>⑤テングシデという名前の由来や意味を知ることができたこと。(5)</p> <p>⑥テングシデを初めて見て感動したこと。(2)</p> <p>⑦天然記念物に指定されているテングシデを見ることができたこと。(2)</p> <p>⑧テングシデを実際に触ってざらざらしていることが分かったこと。(2)</p> <p>⑨オオアサ電子は世界でも販売されるスピーカーを作っていてすごいと思ったこと。(2)</p> <p>⑩そば打ちは難しかったけれど、おいしかったこと。</p> <p>⑪学校紹介で他校のいいところやすてきなところを知れたこと。</p>	<p>①交流会で他校の人と遊んで楽しかった。一緒にそばうちをしたり交流会で他校の人と話したり名前を知ることができ、たくさん友達ができた。(14)</p> <p>②テングシデの名前の由来や意味を知ることができた。(6)</p> <p>③どんぐり荘でそばをうって食べることができた。おいしかった。(5)</p> <p>④テングシデは、いつも入れない場所まで入って見学できた。(4)</p> <p>⑤オオアサ電子では、スピーカーのいい音やきれいな音が聞けた。(4)</p> <p>⑥テングシデの木がぐにゃぐにゃやしてすごかった。(3)</p> <p>⑦オオアサ電子は、すごいスピーカーを作っていてすごい。(3)</p> <p>⑧テングシデは、日本にはここしかないのすごいいと思った。北広島の魅力が伝わった。(2)</p> <p>⑨テングシデの木をさわることができた。(2)</p> <p>⑩テングシデのハートを見ることができた。</p> <p>⑪オオアサ電子では、メーターがどんなふうに使われているかわかった。機械を全てオオアサ電子で発明していて、びっくりした。(2)</p> <p>⑫オオアサ電子のスピーカーが北広島から宇宙まで使われている。</p> <p>⑬どんぐり荘で初めてそばうち体験ができ楽しかった。切ったりのぼしたりして作って楽しかった。(12)</p> <p>⑭どんぐり荘で指導者の方がそばを細かく切っていてすごいと思った。</p> <p>⑮どんぐり荘のそばうちは、むずかしかった。</p> <p>⑯交流会でうまく学校紹介ができた。</p>
川迫小学校	
<p>①そばうちたいけん〔そばを作るのが楽しかった、他の学校の人と作れた〕(3)</p> <p>②戦国の庭〔いろいろな昔の道具があった、歴史を知れてよかった〕(2)</p> <p>③スピーカーの工場〔スピーカーの音が聞けたから〕(2)</p> <p>④そばがおいしいのは知らなかった。</p> <p>⑤交流をして、他の学校の事がわかった。</p>	
豊平小学校	壬生小学校
<p>①ジップラインがドキドキワクワクして楽しかった。(15)</p> <p>②バスの中や昼食で、芸北小学校の人と話したことが楽しかった。(10)</p> <p>③芸北民俗伝承館で昔の道具を見ることができて良かった。(8)</p> <p>④他校の児童と交流し、他校の特徴を知ることができたことが心に残った。(2)</p> <p>⑤学校紹介がバッチリできたから達成感があった。(2)</p> <p>⑥ジップラインの人がやさしかったから楽しくできた。</p> <p>⑦住みたいと思う人が増えるから、もっと夢プロジェクトが増えたらいいと思う。</p> <p>⑧大朝小学校のラジオ体操がすごかった。</p> <p>⑨花田植で使うものを生で見ることができて良かった。</p> <p>⑩ジップラインは、色々なコースがあって楽しかった。</p>	<p>①そばうちはむずかしかったけれど、やり方がわかってたのしかったし、とてもおいしかった(26)</p> <p>②オオアサ電子でエグレッタの音がきれいで、360度に聞こえるのはすごいと思った。(23)</p> <p>③戦国の庭歴史館で昔の物がたくさん展示してあって、北広島の宝物だと思った。(23)</p> <p>④交流会で他の学校の人とふれあってなかよくなれたから楽しかった。(16)</p> <p>⑤北広島町がすごいと思った。</p> <p>⑥オオアサ電子のエグレッタは北広島の宝物だと思った。</p>

4年生での夢プロジェクト

芸北小学校 上新 美咲

9月22日に、夢プロジェクトがありました。

私は豊平小学校の友達が5人できました。友達の1人目は、ジップラインの1コース目の時にできました。グループ内で、なかなか会話がはずまなかったのので、自分から

「ジップラインやったことある。」

「こわくない。」

など話しかけてみました。すると、

「このジップラインはやったことないけれど、ジップラインはやったことあるよ。」

と答えてくれて、そこから友達になることができました。実はわたしは、ジップラインをやったことがなくて、「最後まですべれるかな。」とか、「と中で金具が外れたらどうしよう。」など、とても心配で『へなりん』になっていました。でも、新しく友達ができただけでもあり、思い切ってやってみると、自分が想像していたのよりうんと楽しかったです。2コース目から4コース目では、いろいろなミッションがあり、楽しみながらすべっているうちに2人目の新しい友達もできました。5コース目のジップラインは、自分の中で一番きんちょうしました。理由は、一番長いコースだったからです。でもやってみると、とても気持ちのいいコースだったので、楽しかったです。

3人目の友達は、美和東文化センターに移動するバスの中でできました。バスでとなり同士で座った人でした。なぜか自然といろいろな話をすることができました。

4人目の友達ができたのは、学校しょうかいの後にやったレクの「もうじゅうがり」の時です。3人1組で自己しょうかいをした時になかよくなりました。そして、その新しく友達になった人とたくさんおしゃべりをしながら、楽しくお弁当を食べました。

午後からは、芸北民俗芸能保存伝承館へ行きました。5人目の友達ができたのは、この時でした。私が神楽の所を見ていたら、

「神楽ってすごいよね。」

と話しかけてきてくれました。

芸北民俗芸能保存伝承館で私が勉強になったことは、昔の人の生活がどれだけ大変だったのかが分かったことです。わらを使ってぞうりや長ぐつを作ったり、自分の力で動かすはたおり機で着物を作ったり、部屋を明るくするためにランタンを使ったりしていました。今はミシンがあって布を動かすだけで服ができたり、スイッチ1つで明かりがついたりするのに、それを全部自分たちでやっていたことがすごいと思いました。そして、今の自分たちの生活がどれだけ幸せなのかということも知ることができました。

今年の夢プロジェクトではいろいろな経験ができました。ジップラインでは、まず、「ジップラインは楽しい。」という経験ができました。そして、このジップラインを楽しむために、たくさんの方が芸北に遊びに来てくれたらいいなと思いました。また、芸北民俗芸能保存伝承館では、郷土芸能の歴史も学びました。昔の人がきずいてきた伝統を私たちが受け継いで、そしてまた次の世代に伝えていくということが必要なんだと思いました。

そして何より、私たちと同じ北広島町に住んでいる他の学校の友達といっしょに勉強で

きました。他の学校の友達とかかわり合うことで、今回5人の友達ができました。また、他の学校の友達と話すことで、自分の知らなかったことをたくさん知ることができました。

5年生では民泊があります。今回友達になれなかった人とも友達になれるよう、もっと自分から多くの人と関わって楽しみたいと思います。

楽しかった「夢プロジェクト」

芸北小学校 後藤 多恵

私は、夢プロジェクト「北広島お宝発見ツアー」に行きました。

芸北小学校は、豊平小学校とペアになって体けんしたり、見学したりしました。サイオトスキー場で、豊平小学校の人に出会ったときには、とてもきんちょうしました。はずかしくって、なかよくなれるかなあ、と不安でした。

私は、きんちょうしたままジップラインのコースに行きました。ジップラインをしていると、豊平小学校の人たちとだんだんなかよくなっていきました。さいしょはドキドキしたけれど私からも話しかけることができたし、豊平小学校の人もお話をしてくれました。ジップラインの体けんがおわったときには、ずっと同じ学校にいたみたいになかよくなっていました。

次に、美和東文化センターで交流会をしました。大朝小学校と新庄小学校も合わせて、4つの小学校が集まって、それぞれの学校のしょうかいやゲームをしました。ちがう小学校の学校しょうかいを見て、どの学校もおもしろそうな学校だと思いました。大朝小学校と新庄小学校がジップラインに出発した後、豊平小学校の友達といっしょにお弁当を食べました。

「今、学校でどんなことがはやってる？」

「好きな食べ物は何？」

「担任の先生は、どんな先生？」

など、たくさんお話をしながら食べました。ジップラインが終わった時よりも、もっとなかよくなれたように感じました。

午後からは、芸北民俗芸能保存伝承館に行きました。私が一番きょう味をもって見学したのは「神楽」のことでした。私のお父さんも、神楽団で神楽をしています。北広島町の中に神楽団がたくさんあることは知りませんでした。豊平小学校の友達が、体けんコーナーでたいこをたたいていました。神楽のたいこがとてもじょうずで、私もじょうずにたいこをたたけるようになりたいと思いました。

芸北民俗芸能保存伝承館の見学が終わって、豊平小学校にバスが走っていく時、豊平小学校の友達とたくさんお話をしました。バスが豊平小学校に着いて、お別れをする時にはさみしくなってきました。友達がバスからおりる時には

「また会おうね。」

と言って、お別れをしました。

夢プロジェクトは、とても楽しかったです。新しい友達できて、その友達とたくさんお話できて、なかよくなれたことがうれしかったし、楽しかったです。

大自然こそ、北広島町の宝

芸北小学校 林 実穂

今日は、待ちに待った「夢プロジェクト」でした。というのも、「ジップラインを体験できる。」ということが、とても待ち遠しかったからです。公園などにあるジップラインはやったことがあったけれど、それよりもっとスリルがあって、楽しそうでワクワクしたからです。だから、しおりをもらった時、「ドキドキラインってどんなのだろう。」とか、『イーグルラインのとおき』って、どんなとおきが待っているんだろう」といろいろと想像していました。

最初は、3mほどの短いコースを練習しました。その時は、着地の時におでこを金具のところにぶつけてしまいました。痛かったです。これから先どうなるんだろうと思いました。

次はついにドキドキラインです。しおりで見ていたドキドキラインのスタート台に実際に立ってみると、高いしこわいし、足がつま先しか届かなかったので、体が勝手に前に飛び出そうになりました。

いよいよ空の大冒険の始まりです。

「スリー、ツー、ワン、ゴー！」

グループの友達みんなで言ってくれたこのかけ声で、私は空へ飛び出しました。きんちようはすぐにふき飛んでいきました。「少しこわくて、すごく楽しい！」その感じがたまりません！

次のダントツ！スリルラインは、谷の上にジップラインがあり、ワクワクとドキドキがとまりません！

イエティラインでは、森から草原に出るスッキリ感が気持ちいいです！このイエティラインで私は、初めて手をはなすことができました。体が少し回転しそうになったので、こわかったです。こわさ半分楽しさ半分のコースでした。

ビートルラインでは、生き物には出会えませんでした。でも、「森の中を走っていると、木が私をよけてくれる」そんな感じが今でも忘れられません。

最後のイーグルラインでは、スタートした後に大声で何かをさけぶミッションがありました。「しおりに書いてあったとおきって、もしかしてこれのことかな。」と思いました。私は「実際に走り出した時に思ったことをさけぼう。」とっていました。そうしたら回転することに夢中になって、さけぶのを忘れてしまいました。ビュンビュンスピードが上がって行ってこわかったです。風も強くて、目をつぶっていてもすごく速いのが分かりました。でも最後はスピードが落ちたので、上手に着地することができました。

私にとってのユートピアサイオトは、「自分の家の近くにあるスキー場」という場所であり、これまで3、4回スキーに行ったことがあるというぐらいの場所でした。スキー場も自然を利用していますが、自然の利用の仕方を少し変えるだけで、ジップラインというすてきな遊び場ができ、だれもが楽しめる夢のような場所に変えることができるんだと思いました。

私は、ジップラインをしたその場所にある大自然こそ、北広島町のお宝だと思います。

北広島はいいところ！

大朝小学校 妹尾 和哉

一番大きな仏像の前に立ち、ぼくはすごくきん張りました。並んでいる仏像を一体ずつ見ていくと、だんだん心が落ち着いてきました。

9月22日、ぼく達は「北広島お宝発見・体験ツアー」に参加しました。バスで芸北民俗芸能保存伝承館、古保利薬師、ユートピアサイオト・ジップラインなどに行きました。

伝承館では、神楽で使う楽器や新庄のはやし田の衣しょう、壬生の花田植の模型などがありました。ぼくはどれも本物を見たことがありませんでした。でも、よく聞く有名なものばかりだったのできょう味がわきました。牛の衣しょうはたくさん色でかざられてとてもはなやかでした。なぜ牛にはなやかな衣しょうを着せるのか不思議に思いました。また、稲が育つ様子が季節ごとの部屋に展示してありました。模型が本物みたいでびっくりしたのを今でも覚えています。

古保利薬師では、仏像は一本の木をほって造られるのだと教えてもらいました。座っているのにぼくの身長位ある大きい仏像や、立っているのにぼくより小さい仏像がたくさんありました。なぜ色々な身長の仏像があるのかとぎ問に思いました。仏像は体のつくりや顔の表情が一体ごとに違っていました。目がたくさんある仏像は、この世を見張って守っていて、千年以上前に造られたそうです。建物の真ん中にある一番大きい仏像は、目をつむって何か考え事をしているような感じがしました。迫力がありかっこよかったです。

このツアーで今まで知らなかった北広島町の事がたくさん分かりました。家族と一緒に見に行きたいと思いました。また、行く先々で町の人がとても親切に説明して下さったので、ぼくもやさしい気持ちになりました。北広島町はとてもいい所だなあと思いました。

夢プロジェクトにいったよ！

大朝小学校 佐々岡 美琉

9月22日、わたし達は、北広島ふるさと夢プロジェクト「お宝発見・体験ツアー」に参加しました。北広島町内の4年生は、町内の名所めぐりを行ないました。大朝小学校は、新庄小学校と合同のバスです。

バスの中ではあまり話ができなかったけれど、友達になりたいと思っていたので、お弁当を食べる時に新庄小の人に声をかけて一緒に食べました。どんな遊びをしようかと話しながら食べました。食べた後ランドのような所でおにごっこをしました。遊び終わった後、これから学校しようかいかがあると思ったら、ドキドキが止まらなくなりました。

夢プロジェクトで一番心に残ったのは、ほかの学校との交流会でした。学校しようかいの時、学校の自まんを大きな声を出して発表しているのを聞いて、ますますドキドキが強くなりました。わたし達大朝小学校はラジオ体操アレンジバージョンをやりました。これは、3年生の時の学習発表会でおどったときのダンスでした。みんなで1年前のことを思い出しながら練習をしました。いよいよ大朝小学校の出番です。わたし達はラジオ体操の

ことについて自まんしました。次が、ラジオ体操アレンジバージョンです。音楽が鳴り始めました。いよいよ、おどる時が来ました。始まる前は、他の学校の前でおどるのがはずかしいと思ったし、うまくできるかなとドキドキしていました。でも、ほかの学校のみんなが一生けん命見てくれたので、とてもうれしくなり、えがおで一生けん命おどる事ができました。

発表がおわったあとは、ゲームをしました。そのゲームの名は「もうじゅうがりに行こうよ」です。練習と本番を各1回だけやりました。ゲームのやり方を忘れていたので新庄小の人に聞き、やり方がわかったので楽しくできました。交流会で新庄小だけでなく他の学校の人とも仲良くなれて、ゲームも発表もとても楽しかったです。

その他には、ユートピアサイオト・ジップラインや古保利薬師の見学に行きました。夢プロジェクトで他の学校の人と仲良くなれたり、色々な体験ができたりしてとても良かったです。

わくわくな1日

大朝小学校 島田 理央

あと2人、あと1人、ついに自分の番だ。

9月22日、わたし達は、北広島ふるさと夢プロジェクトに参加しました。北広島町の4年生は、町内の名所めぐりをしました。大朝小は、新庄小学校といっしょに合同でバスに乗り、名所を回りました。

その中でも、一番心に残ったのは、ユートピアサイオト・ジップライン体験でした。

バスから降りると、目の前に高い山がありました。そこは、「ユートピアサイオト」というところでした。

わたしは、以前テレビでジップラインのことをやっているのを見て、「こわいのかな？それとも楽しいのかな？」とっていました。今回の「お宝発見・体験ツアー」でジップラインを体験することが分かり、今までやったことがないからわくわくしていました。

ユートピアサイオトに着いて、そう具を身に着けました。初めて着けたので歩きづらかったです。でも、このそう具を着けていないと、何かあったとき命がどうなるかなと思いました。

初めに、指導員の方にジップラインをする時のそう具の使い方や姿勢や止まり方など教えてもらいました。練習は低いコースだったけれど、本当のコースは高くなるんだと思ったらこわくなりました。

第1のコース。わたしは終わりから3番目。前の人を楽しそうにすべっていったので、わくわくしながら待っていた。ついに、わたしの番が来た。ジャーとすべった。軍手をはめていたので持ち手がすべり、思わず「キャー」と声が出てしまった。でも、すべっていると顔に風が当たって気持ちがよかった。

第2のコース。指導員のウォーリーさんが、「両手を放してすべってみよう」と言われた。かた手を放すのはかんたんにできそうと思った。でも、すべっている時に手を放そう、無理かなとまよってしまい、一瞬だけかた手を放せた。

第3のコース。ウォーリー指導員は「回転しながらすべろう」と言われた。やってみよ

うと思ったけれど、着地の時後ろ向きになっていたらどうするんだろうと思ったら、こわすぎてできなかった。

3つのコースをまわると終わりの時間になりました。「まだ他のコースも行きたかったなあ」と思いました。続きは、次の機会で行ってみたいと思います。大人の人も楽しく遊べる場所だと思えました。

その他に、芸北民俗芸能保存伝承館や古保利薬師、美和東文化センター（元美和東小学校）などにも行きました。どこもわくわくしてとても楽しかったです。ふだんなかなかできない体験をいっぱいすることができて本当にうれしかったです。

たくさんの人たちの協力でわくわくな体験がたくさんできて本当に良かったです。この体験を通して、新しく北広島町のいい所を発見することができました。

わくわくドキドキの夢プロジェクト

新庄小学校 河野 美咲

わたしは「北広島ふるさと夢プロジェクト～北広島お宝発見・体験ツアー～」に行って、とてもいいお宝を見つけることができました。それは、友達です。

お弁当を食べる時の事です。大朝小学校の女の子が、「ねえ、いっしょにお弁当食べよう。」と言ってくれました。声をかけてもらってとてもうれしかったです。みんなとお弁当を見せ合いこしたり、「これ、おいしそう。」と言ったりしてとても楽しかったし、友達になれてよかったです。学校しょうかいになった時、「とってもはずかしいな。」と言うわたしに、大朝小学校の友達が「だいじょうぶよ。」と言ってくれました。それでわたしは、安心して発表することができました。新庄小学校は、大きな声を出せていたかどうか分からないけど、わたしは大きな声であいさつや学校しょうかいなどができたと思います。みんながはげましてくれたからだと思えました。大朝小学校のみんなもはずかしいはずなのに、どうどうとしていたので、わたしもまねしたいと思えました。

お昼からは、サイオトスキー場のジップラインに行きました。みんな「こわいなあ。」と言って不安そうでしたが、おぎき先生が「わたしの家族が行ったけど、こわいのは最初だけだって言っていたよ。」と話しておられるのを聞いて、ほっとしました。サイオトスキー場に着いたら、リナティ先生がわたしたちのグループを教えてくださいました。ハーネスをつけて、約束を聞いたら、コースに行く前に練習をしました。私は、できるかなあと、ドキドキしました。練習が終わって初めのコースをすべりました。おぎき先生が言っておられたとおり、こわいのは最初だけ、とても楽しかったです。山を登ってコースへ行くのでしんどかったけど、ジップラインをしたら気持ちがよかったので、登ってきたかいがあったなと思えました。

バスで帰る時、みんなは「ねむたい。」と言っていました。わたしはがまんしていました。がまんしなくてもいいのに、と思えました。わたしは、となりにいた優里ちゃんとしりとりをしたり牛を見たりして、なるべくねないようにしました。ずっと起きていて、楽しめたかったです。でも、やっぱりちょっとねてしまいました。起きてみると、大朝小学校の人は起きていてしりとりをしたり話したりしていました。ねるんじやなかったと思っていたら大朝小学校の人が、「美咲ちゃん、しりとり一緒にしよう。」と言ってくれまし

た。わたしは、ねむ気もいっぺんにさめて、楽しくしりとりをしました。大朝小学校の人がバスをおりるときちょっとさびしかったです。

わたしが一番うれしかったのは、みんなが初めて会った人にやさしくしていたことです。もし、けんかやいじめがあったらうれしくないと思います。みんなが会う人それぞれにやさしさをあげていたからいいなと思いました。楽しかったり、うれしかったりする気持ちをもっとふやしていきたいと思いました。

本当のお宝は、北広島町全体なのかもしれません。でも、それは、ツアーに参加したわたしにしか分からないことなのだと思います。「北広島ふるさと夢プロジェクト～北広島お宝発見・体験ツアー～」に行くと、とてもいいお宝を見つけることができました。みんなにも知ってもらいたいです。

北広島お宝発見・体験ツアーに行ってみよう

新庄小学校 小笠原 大智

9月22日金曜日に、ぼくたち4年生は、「北広島ふるさと夢プロジェクト～北広島お宝発見・体験ツアー～」に行きました。

1番目に見つけたお宝は、古保利薬師です。そこでは、十体以上もの仏像が展示してありました。教育委員会の沢元さんが、平安時代初期やかまくら時代のものすごい昔に作られたと説明してくださいました。ぼくはとてもびっくりして「えっ。」と言ってしまいました。そんな昔の仏像が北広島町にあるとは、知りませんでした。この古保利薬師は昔からあるお寺で、吉川元春が大切にしていたそうです。それから、古保利薬師に一番近い古ふんも見に行きました。そこで、昔はなくなった人を土にうめて、はかにしていたと聞いて、びっくりしました。

2番目に見つけたお宝は、交流会の学校しょうかいです。最初の発表は、豊平小学校でした。豊平小学校は「とよひら」の4つの文字を使って、学校でがんばっていることを発表していました。次に芸北小学校の発表でした。芸北小学校は、交通安全子供自転車全国大会で優勝したことを発表していました。ぼくは、「ええっ！」と言いました。全国大会で優勝するなんて、すごいなあと思いました。それから、大朝小学校の発表がありました。大朝小学校はラジオ体操に日々取り組んでいるそうで、自分たちで作ったオリジナルラジオ体操を見せてくれました。それを見てぼくは、すごいな、と思いました。ふつうのラジオ体操でもきちんとやるのは大変なのに、オリジナルのラジオ体操もがんばっているんだなと思いました。最後にやっと新庄小学校の発表になりました。ぼくたちは、新庄小学校の自まんをしょうかいしました。ぼくは、とてもきんちょうしていたけれど、大きな声で練習通りにうまくできてよかったです。大朝小学校の人が「声でかっ。」と言っていたので、声はいつも通り大きかったんだなと思い、ほっとしました。

3番に見つけたお宝は、芸北のサイオトスキー場でジップラインをしたことです。そこで見つけたお宝は、イエティラインというコースから見えた景色です。このコースの下は、本当はスキーやスノーボードをするときのイエティコースでした。今は草原で、北広島町の自然を感じられる絶景でした。そこで、ぼくは思わず「アアア。」と言ってしまいました。とてもいい気持ちになりました。このジップラインに、またいつか行きたいと思い

ます。

ぼくは、「北広島ふるさと夢プロジェクト～北広島お宝発見・体験ツアー～」に行って、北広島町にはお宝がいっぱいあることを知りました。

北広島夢プロジェクト

新庄小学校 濱田 穂香

「行ってきまあす。」

わたしたちは、「北広島ふるさと夢プロジェクト～北広島お宝発見・体験ツアー～」に行きました。

最初に、大朝小学校の4年生と一緒に芸北民俗芸能保存伝承館へ行きました。そこには、国の無形民俗文化財に指定されている「新庄のはやし田」のこともてん示されていました。わたしは、初めて知ったのでびっくりしました。お母さんにもこのことをビッグニュースとして教えてあげたいなあと思いました。おかあさんは、「えっ、そうなの、知らなかった。」と言うかもしれません。

お昼のお弁当を食べたら、交流会の学校しょうかいがありました。ほかの学校の人がみんながんばって発表したので「わたし達もがんばらないと。」と思い、練習どおりの声を出しました。わたしたちの声をほかの学校の人が「えっ、声でかつ。」と言っていたので、「えっ、これくらいふつうじゃないの。」と思いました。おもしろかったのは、大朝小学校の発表です。わけは、楽しそうなラジオ体操だったのでわたしもやってみたいと思ったからです。お父さんやお母さんにも教えてあげたいと思いました。

午後からはジップラインへ行きました。わたしが一番楽しみにしていたのは、ジップラインです。わくわくしながら行きました。びっくりしたことは、はじめの会でジップラインの先生がおどりだしたことです。「えっ、何？何してるの。」と思いました。でも、楽しい感じではじめの会が進んだので、もりあげてくださったんだなと思いました。ジップラインの本番はとてもこわかったです。なぜかという、練習もしたし、命づなもあるのだけど、コースは高いところだったので足がきゅっとすくんでしまい、ハンドルを持っていないとぜったい死んでしまうと思ったからです。でも、2回目は、片手をはなせました。3回目は、と中で両手をはなしました。両手をはなした時、着ていたかっぱがふくらみましました。「なんで？」と言っていると、あっという間にゴールについていました。「ええっ、もう着いたんか、速あ。」と言ってから、気がついたら、車によった感じがしました。みんな自分よりうまかったのでいいなあ、上手だなあと思いました。ちなみに教えてもらった先生はリナティ先生でした。他にもウォーリー先生やたくさん先生がいました。とても楽しかったので、また来たいなあと思いました。今度行った時は、「北広島ふるさと夢プロジェクト～北広島お宝発見・体験ツアー～」のお礼を言って、また鳥みたいに飛びたいなあと思いました。

わたしはみんなに、「北広島町にしかないお宝がたくさんあるんだよ。」と教えてあげたいと思いました。また、「北広島お宝発見・体験ツアー～」に行ってみたいと思います。

夢プロに行って

川迫小学校 藤井 穂佳

私は、北広島町の夢プロに行けてよかったですと思いました。なぜかと言うと、れきしを学べたり、そば打ち体験ができたりしたからです。

私たちは、最初に、戦国の庭歴史館に行きました。そこでは初めに毛利氏や吉川氏のことをビデオで見ました。その次に、館内を回って昔の人が何を食べていたのか分かる物を見ました。ブドウやナスなどの他にも、しゃもじなどがありました。次に吉川元春が戦場で着ていたよろいのレプリカがおいてありました。刀などもありました。吉川元春の館のもけいや、そこから出たちゃわんのかげらや大きなつぼなどもありました。特におどろいたのは、病気などになった時に、ツルやカワウソを食べていたことです。それが分かる絵がありました。

次に行った所は、どんぐり庵です。そのどんぐり庵でそば打ち体験をさせていただきました。まず最初にこなに水をふりかけました。こなに水をふくませるところをちゃんとやらないと、切れて短くなるそばができると教わりました。他に、きじをのぼしたり、切ったりしました。そして出来上がったそばを食べました。わさびとねぎと大根おろしをつゆに入れて食べました。ちょっとワサビのピリツとしたところがおおいかったです。

お弁当を食べ終わった後は、大きな体育館で他の本地小や八重小の人たちと一緒に交流会をしました。まず最初に、学校紹介をしました。川迫小学校は最後でしたが、とても大きな声でどうどうと発表できてよかったです。次に私たちの反応をためすゲームをしました。とてもおもしろかったです。次の体じゃんけんも一回しか勝てなかったけどおもしろかったです。次の班たいこうの体じゃんけんも、ほぼ負けてしまったけど、他の学校の人と交流がたくさんできたのでよかったです。

最後にバスで行った所は、オオアサ電子です。オオアサ電子といえば、外見が黒で、白いサギが書いてある建物の所です。このオオアサ電子はスピーカーを作る会社で、そのスピーカーの名前は「エグレッタ」というそうです。「エグレッタ」は、イタリア語で白サギという意味だそうです。まず最初にビデオを見ました。次にスピーカーを組み立てる組とスピーカーの音を聞く組に分かれました。わたしは、まずスピーカーを聞く方の組に行きました。そこで音楽の音や自然の音をスピーカーで聞いた後にテレビの音をテレビのスピーカーと「エグレッタ」のスピーカーとで聞きくらべました。スピーカーで聞いた方がリアル感があってとてもびっくりしました。それが終わると次にスピーカーを組み立てる方を見に行きました。このスピーカーを組み立てる所は、組み立てる時に、音がちゃんと出るか確かめる機械から、「ピー」と耳鳴りが聞こえるような音が聞こえてきました。この音は子どもしか聞こえない音だと教えてもらったときには、大人には聞こえないんだと思い、ものすごくびっくりしました。見学が終わるとオオアサ電子の方々にあいさつをして学校に帰りました。

家に帰ったとき、家でもそばが作れたらいいのになあ、と思ったり、あのエグレッタのスピーカーがほしいなあ、と思ったりしました。また今度時間があるときに、ゆっくり夢プロで行ったところに行きたと思いました。

北広島のお宝発見ツアー

八重小学校 松原 海斗

9月22日に北広島「夢プロジェクト～お宝発見・体験ツアー～」がありました。目的は、北広島町のお宝を発見することと、他の学校の友達と仲よくなることです。

まず一つ目のお宝は、「テングシデ群落」です。とつぜん変いによって、くねくねしたイヌシデが100本以上生えているのは、世界で大朝だけだそうです。シデという名前が付いたのは、しめなわに付いている、ひらひらした紙の「しで」とテングシデの実がにているからということを知っておどろきました。テングシデ群落は、自然に包まれていて、テングシデの伝説になっている天狗が出てきそうな感じがして、神び的なふんい気を感じました。

二つ目のお宝は、「オオアサ電子」です。日本でえきしょうパネルを作っている会社は少なく、その中の一つがオオアサ電子でした。「エグレッタ」というスピーカーは、音が出る部分が上向きに付いていて、360度、どの角度からも同じ音をきくことができるようになっているすばらしい発想のスピーカーでした。実さいに「エグレッタ」のスピーカーで砂あらしの音をきいてみると、ふつうのテレビの音と全然ちがい、まるで自分がさばくの中にいるようですごかったです。スピーカーを作るための機械も全てオオアサ電子で作っていることにさらにびっくりしました。

三つ目のお宝は、「豊平のそば」です。そば打ち体験はぼくにとっては初めての体験でしたが、他の学校の友達と力を合わせてがんばって作りました。こねたり、のぼしたり、切ったり、班のみんなで交代しながらやりました。自分達で作ったそばは、太すぎてうどんのようになってしまったのもあったけど、ゆでたてのそばはとてもおいしかったです。

最後のお宝は「友達」です。交流会には、たくさんの学校から4年生が来ていて、最初はとてもきんちょうしました。交流会では、学校しょうかいをしたり、ゲームをしたりして他の学校の友達と交流を深めることができました。

夢プロジェクトお宝発見ツアーでは、ぼくたちの住んでいる町、北広島町のお宝をたくさん見つけることができました。このツアーのおかげで、新しい友達もたくさん作ることができました。今回見つけた北広島の「お宝」を大切にしていこうと思います。

いいところいっぱい北広島

八重小学校 大上 壽姫

9月22日に北広島ふるさと「夢プロジェクト～お宝発見・体験ツアー～」がありました。初めて体験したことや発見したことがたくさんありました。

一つ目は、大朝の「テングシデ群落」です。テングシデは、い伝子のとつぜん変いによって、イヌシデからテングシデになりました。い伝子のとつぜん変いするとすぐかれてしまうのに、テングシデはかれずに、しかも1本ではなく100本以上ものこって今も成長しているのですごいと思います。ふだんは入れない所にも入らせていただき、木を近くで見たり、さわったりしました。葉をさわってみると、さらさらとしたさわり心地で形はギザギザになっていました。テングシデの実も初めて見ました。この実の形がテングシデの

由来にもなっていることを初めて知りました。北広島町のお宝である国の天然記念物「テングシデ」を大切に守っていきたいと思います。

二つ目は、「オオアサ電子」です。「エグレッタ」というスピーカーは、とても小さいパーツから作られていました。実さいにスピーカーで森の音をきいてみると、はく力があって、まるで本当に自然の中にいるようでした。全国各地や世界、宇宙でも使われていることにおどろきました。自分達が住んでいる北広島町に世界に通用するこんなすごい会社があるなんてびっくりしました。

三つ目は、「そば打ち体験」です。初めてそば打ち体験をしたけれど、そばを作るのはとても手間がかかることが分かりました。ていねいにあつかわないと、そばの生地がやぶれてしまいます。特に大きな包丁でそばを切るのは想像以上にむずかしかったです。教えて下さる先生のように太さをそろえて細く切るのはむずかしく、なかなか上手に切れませんでした。自分で切ったそばは、そば打ちの先生の切ったそばと太さが全くちがいました。だけど、わたしの中では、上出来でした。ゆでてもらって食べたそばは、ふだん食べるそばよりもとてもおいしかったです。

北広島町には、きれいな自然がたくさんあり、世界にほこれる会社があります。たくさんの人に北広島町の「み力」を教えてあげたいと思います。

ふるさと自まんを見つけた夢プロジェクト

八重東小学校 山根 紀杏

私の夢プロは、どきどき、そしてわくわくからのスタートでした。

まず、テングシデ群落では、テングシデについての話をしてもらいました。テングシデの名前の由来については、テングの伝説が残っていることから来ているということが分かりました。その後は、近くで見られるテングシデのスケッチをしたり、友達と、テングシデの葉の形や木の形について話をしたりしました。ふしぎな形をしているテングシデも北広島町の豊かな自然の一部だと学ぶことができました。

次に、オオアサ電子株式会社では、主にスピーカーのことについて社長さんの話を聞きました。オオアサ電子株式会社で作っているエグレッタというスピーカーは、360度どこにいても同じ音量できれいな音が聞こえるスピーカーなのだそうです。しかも、そのスピーカーがアメリカでも売られていることにびっくりしました。社長さんの話の最後にあった、「北広島から世界へ」という言葉については特に印象に残り、友達ともたくさん話をしました。その後、スピーカーの中の部分を実さいに見せていただきました。とても大きな部品から小さな部品まで全てが大切な役目を果たしていることがよく分かりました。それに、そういった部品のほとんどが人の手で作られていたり、自分たちの会社で作った機械によって作られていたりすることがわかり、北広島から世界へ飛び出すための一步一步がとてもたくさんの工夫や苦勞によってできていることを知りました。

最後の「どんぐりあん」でのそば打ち体けんでは、他の小学校の友達が5人もできました。みんながせっきょくてきに手をあげて役わりを決め、てきばきと作業をしたことで、おいしいそばになりました。とっても太いめんをわざと作って、「当たり」としておいしく食べました。私は、つゆにわさびを入れて食べました。からくないかみんなに心配されな

がら食べました。みんなと話しながら食べる手作りそばは、想ぞうしていたよりもずっとおいしかったです。

私は、夢プロに参加して、北広島の自まんや良さを再かくにんしたり新発見したりしたことを大切にしていきたいと思います。そして、これからもいろんなところに行って、北広島のことを知っていききたいと思います。

たくさん学んだ夢プロジェクト

八重東小学校 宮本 美紀

「北広島町についてたくさん学ぼう。」4年生になって、初めての夢プロなのでわくわくしながら学校に行きました。

まずは、テングシデを見に行きました。そこでは、先生から話を聞いたり、名前にもついている「シデ」をさがしたりしました。自分では「シデ」を見つけることはできなかったけれど、最後に先生から「シデ」を見せてもらってうれしかったです。テングシデを見に行ってみて、心に残っていることは「くねくね」していたことです。木をさわってみると、つめたくてかたかったです。葉っぱがぎざぎざでした。ここでは、北広島町の自然を感じることができました。

次に、オオアサ電子株式会社に行きました。オオアサ電子株式会社では、140人の方が働いているそうです。作った機械は全て人がけんさするそうなので、大変だなあと思いました。スピーカーの聞きくらべをしましたが、テレビだけの音とはく力がちがったのでびっくりしました。そのスピーカーが東京やニューヨークでも売られていることを知ってすごいと思いました。北広島町にもすごい会社があることを知りました。

その後に、豊平のどんぐり村に行って交流会をしました。他の学校の人と仲良く遊べたのでよかったです。

最後に、そば打ち体けんをしました。そば打ち体けんでは、まず生地をこねました。次に、生地を丸めてうすくのぼしました。最後に、細く切ってめんをゆでました。大変だったけど楽しかったです。できたそばを食べてみると、太いものもあったけれど、おいしかったです。また、そば打ち体けんをしたいなあと思いました。

ふるさと夢プロジェクトを通して、今までより北広島町のよさを知ることができたのでよかったです。5・6年生になっても、ふるさとのよさを知っていききたいです。

すごい物たくさん北広島町

壬生小学校 雪田 璃乃

「おいしい～」

今回、私は、北広島町おたから発見、体験ツアーでどんぐりあんというところにそばをうちに行きました。そばうち体験をするのは初めてでした。そばうちは、こな（そばこ）を手で水をくわえながらまぜたり、きじをこねたり、めんを切ったりしました。そばうちでむずかしかったのは、めんを細く切ることです。私は、毎日りょうりをしているので、細く切れると思っていただけ、いつも野菜やお肉を切るほう丁とちがって、とても大き

なほう丁だったのでびっくりしました。それで、しょく人のように細く切ることは、できなかったけれど、細くは切ることができました。ゆでるだけのそばと作りたてのそばは、かおりがちがいました。それは、口の中に入れると、口の中にそばのかおりが広がって、いつも食べているそばよりもかおりがよくなりました。とてもおいしく感じました。

戦国の庭れきし館にもいきました。れきし館には、初めて行きました。戦国の庭と書いてあったから、どんな庭なのかなと思いました。実際に行ってみて、私が予想したことは、ぜんぜんあっていませんでした。れきし館はすごい所でした。それは、昔、吉川もとはるがとよひらにすんでいて、この戦国のれきし館のよこに吉川もとはるが作った館があったということです。それに、昔つかわれていた、われた皿や食べていたなすのたね、うめのたねや他にもたくさんものがあるということです。その他にも、よろいやひなわじゅうなどもありました。戦国の庭れきし館で学んだことは、昔は台所から家をはなれていたので、台所から家までご飯を運ぶと、ご飯がさめてしまうから、どこかにろうかがあったはずだけれど、さがしてもなかったということです。ろうかが家の中にあるのは今では当たり前だけれど昔はあたりまえではないことが分かりました。戦国の庭れきし館では、昔のことがたくさん勉強できました。

3か所行った中で最後に、オオアサ電子というところに行きました。オオアサ電子は、主にスマートフォンのほごガラスやスピーカーを作っているところです。私が一番心にのこった物は、スピーカーです。スピーカーの名前は「エグレッタ」です。私はこのエグレッタというちょうおんぱスピーカーはとてもすごいと思いました。わけは、ふつうのスピーカーは、ざつおんが入っているけれど、エグレッタはざつおんなくきれいなすきとおるような音でとてもきれいだったからです。このエグレッタを作っている所に行ってみると、そこには細かい部品がたくさんありました。私は細かい部品がなくなるのかなと思いました。エグレッタは世界でも、使われることが決まっています。すごいと思いました。北広島町の大朝の物が、世界で使われていることは、全国の会社の中から選ばれたので、「そんなことができるんだ！」と思いました。

これからも、北広島町がテレビにうつったり、世界のどこかで作ったものが使われることを楽しみにしています。お宝発見・体験ツアーで、北広島町のすごいところをたくさん知ることができました。

北広島町宝の町

壬生小学校 細田 くるみ

最初に言ったのは、「戦国の庭歴史館」です。行く前に、

「戦国の庭歴史館って戦った後をイメージしたところなのかな？」とっていました。でも、着いたときには、吉川元春さんたちが使っていたものや、暮らしについてがてん示してありました。

吉川元春の家の屋根は、「こけらいた」で作っていたそうです。ろうかはあったのかもしれないけれど、見つかっていないそうです。吉川元春のよろいや、ひなわじゅう、刀など、宝だなと思いました。理由は、戦などをする時のぶきだからです。吉川元春が病にかかった時、つるを食べたと聞いて、すごいなと思いました。げたをはいたり着物を着たりする

体験をしました。

次に行ったのは、「どんぐりあん」です。そば打ち体験をしました。そばの元になるのは、そばこと小麦こです。そばこに水が全体に行くように、ライオンの手でまぜました。最初はバラバラだったけれど、まぜていたらだんだんまとまってきました。切るときにこまいたをすって切る、すって切るという感じにして切るのがむずかしかったです。太くなったり、細くきりすぎたりという感じになりました。作ったのを食べると、めんが太くてなかなかかみ切れなかったけれど、とてもおいしかったです。

最後に行ったのは、「オオアサ電子」です。工場はいろんな所があります。江津・東京オフィス・石見があります。昔はメーターを作っていたけれど、今はスマートフォンにつけるガラスも作っています。スピーカーも作っています。それは、エグレッタです。

ふつうのスピーカーとはちがい、エグレッタはちょうどいい音で聞くことができます。実さいに聞いてみると、きれいな音でした。すなあらしの音が本当にあらしがきているみたいに聞こえました。エグレッタは、1つ1つていねいにぶひんを入れながら作っています。チャンネルも入っていました。いろいろな音にきりかえることができます。

オオアサ電子では、いろいろなものを作ったり、うちゅうこうくう研究開発きこうと協力して、機械の開発をしたりしているのですごいと思いました。

夢プロジェクトで、学んだことは、戦国の庭歴史館で、昔のくらしと今のくらしがどういう風にちがうのかを見つけていくことが大切だということです。そして、夢プロジェクトで分かったことは、そばうちで、ただそばをうつだけでなく、そばの打ち方にもいろいろな工夫がかくされているということです。

色々学んだお宝ツアー

壬生小学校 服部 泰斗

「古いものがいっぱいあるよ」

まず、とよひらにある、戦国の庭れきし館に行きました。僕は昔、戦った所なのかなと思いました。昔の人は、モモ・ウリ・サンショウ・タイ・ナス・ウメなど、色々なものを食べていたということがわかりました。理由は、その食べ物のほね、種などを見たからです。モモ・ウメ・ナス・タイなどは食べたことがあるので、昔から食べられていることがわかりました。

おだのぶなががしんだ場所のよく年に吉川元春が館をたてたそうです。吉川元春の館の家の屋根は、かわらを使わずに板を何枚も何枚もかさねてつくっていたそうです。僕は、

「われたお皿も全部宝なのかな。」

と思ったけれど、昔のものは全部宝だということがわかりました。

北海道、かご島県など遠いところから来る人がいるので、とても有名ですごいところなんだなと思いました。

「おいしすぎるー。」

次に、「どんぐりあん」にそば打ち体験をしに行きました。僕は、そばはだれでもつくれるかんたんな作業かと思っていました。けれど、体験してみると、だれでもつくれるかんたんな作業ではなくむずかしい、大へんな作業でした。それをお店の人はかんたんに作る

のすごいきな思いました。

むずかしかったのは、めんを細く切る所、ライオンの手みたいにして、そばこをこねる所、ねこの手みたいにしてめんぼうできじをのぼす所です。めんを細くなりすぎたりちょうどいい太さにならなかつたりしたからです。ライオンの手をこねることは、そばこが手について、気になりすぎて集中できなかつたからです。ねこの手をしてめんぼうできじをのぼすことは、すべってのぼしにくかつたからです。でも、お店の人は、それをかんたんにするので、すごいきな思いました。かべに「初段」などとかいてあつたので、「一番むずかしいのにちょうせんしてみたいな。」と思ひました。

「すごいき作り方だな。」

最後に、大朝にあるオオアサ電子株式会社に行きました。「エグレッタ」は、思つたよりも部品が多く使われていたので、細かい作業がたふさんあるんだなと思ひました。「エグレッタと書いてある横に、白さぎが書かれていたのではじめふしぎに思ひました。エグレッタは日本語で、白さぎだから、白さぎがよこに書いてあるということが分かりました。オオアサ電子では、セル切断機、セル面取り機、セル洗浄機など、自分達で使うものを自分達で作つていますのすごいきな思ひました。

僕も、オオアサ電子みたいに努力をしてあきらめないということを目指していきたく思ひました。

友達ができたお宝発見ツアー

本地小学校 広藤 克弥

9月22日にお宝発見ツアーに行きました。お宝発見ツアーでは、「大朝のテングシデ」「オオアサ電子」「どんぐり村の交流会」「そば打ち」の4か所に行きました。この4つについてこれから書きたいと思ひます。

ぼく達は、初めにテングシデに行きました。特別にテングシデのところに入らせてもらつて、いろいろと勉強をしました。テングシデがたふさん生えているところは、世界の中で北広島町にしかないと聞いて、ぼくは本当にお宝だと思ひました。他の木とくらべると、枝がぐねぐねしてたり幹が石みたいにくかつたりしました。葉っぱも作り物みたいに丈夫でした。テングシデを間近で見ると、小さなキノコが生えていました。その後、ぼくは木で頭を打つてすごく痛かつたです。

次にオオアサ電子に行つて、何を作つているのかを教へていただきました。オオアサ電子は主にスピーカーを作つていることが分かりました。そのスピーカーの音を聞かせてもらつて、テレビの音とくらべると、スピーカーの方が迫力があつて、ちよつと耳がジンジンしました。

次に交流会をしました。いろいろな小学校の人がいて、学校紹介をし合ひました。ぼくが一番すごいき思つたのは川迫小学校です。川迫小学校の人は4人なので、一人一人が長い文を言わないといけないうのに、それでも大きな声で言つていました。

その次にいろいろな人と遊びました。ぼくが一番楽しいと思つた遊びは体じゃんけんです。なぜかという、負けたら人が増えてちよつとでも息がそろわなかつたら、人がたおれた

り、手を引っ張られたりするからです。

最後にそば打ちをしました。ぼくは10班でした。同じ班の人とそばを打っていきましました。と中に名前を聞かれて答えると、どんどん話はずんできて、いろんな人と友達になれました。ぼくは生地を平らにするときに力を入れすぎて、中心に穴をあけてしまったけど、10班の人はぼくをせめなかったので、「やさしい人達だなあ。」と思いました。

最後にそばを食べました。わさびをちょっと入れただけなのに、すごくからかったです。でもすごくおいしかったです。

ぼく達はいろいろなことがあったけど、楽しく「お宝発見ツアー」ができてよかったです。もう1回行きたいと思いました。また、いろんな人と友達になってもっと仲良くなりたいです。

すごいところいっぱい北広島町

本地小学校 瀧本 優太

9月22日に北広島町お宝発見ツアーに行きました。テングシデ群落を見たり、そば打ちなどを体験したりしました。

初めにテングシデ群落に行きました。テレビでは1本の木しかうつってなかったから、大きくてぐにゃぐにゃした木が1本しかないのかと思ったら、何本もあってびっくりしました。小さいのもあれば大きいのもありました。大きい木で、枝の重なりがハートになっているのを見付けました。ぼくは、「どうしてこんなにぐにゃぐにゃしているのか。どうしてたくさん生えているのか。」と、とても不思議に思いました。

次にオオアサ電子のショールームに行きました。ショールームだけど、組み立てなどもやっておられました。

最近ではちょう音波の実験をしているんだそうです。ぼくは北広島にこんな工場があって自まんできるなと思いました。

次にとよ平どんぐり村の体育館で学校紹介と交流会をしました。

最初に学校紹介をしました。ぼく達は、人数は少ないけど人数の多い学校と同じくらい大きな声が出せました。特に、広ふじ君の声がとても大きくてすごい声でした。ぼくはきんちょうしてしまつてつまってしまつたし、大きな声も出せませんでした。川迫小学校はたった4人しかいないのに、大きな声で長い文章を発表していて、すごいと思いました。

その次に交流会でゲームをしました。一つ目のゲームは「落ちた、落ちた」です。いろいろなものが落ちてくるので、その落ちてくるものを受け止めたり、落ちてくるものからおなかなどを守ったりするゲームです。2つ目は体じゃんけんです。最初は5人ぐらいだったけど、負けたら相手の両はしに付かないといけないルールだったから、最後は20人くらいになりました。先頭の人が走つたので、後ろの方の人は全員転んでしまいました。

最後に、そば打ち体験をしました。初めはむずかしいイメージがあったけどやってみると簡単でした。そば粉を丸めるところだけでもやるのがたくさんありました。楽しかったから、時間が30分くらいだと思ったら、1~2時間くらいたっていました。切るとき、とても細く切れたので食べるのが楽しみだったけど、ぼくのところには細いのが全くなくて、太いのばかりだったので残念でした。

1日の中で一番楽しかったのはそば打ちです。理由はうまくこねたり切ったりしてとてもうれしかったからです。北広島町にこんなにすごいところがたくさんあってびっくりしました。

楽しかったジップライン

豊平小学校 住山 心暉

わたしがゆめプロで一番楽しかったのは、ジップラインです。全部で五コース体験することができました。

ジップラインを実際に体験する前は、少しこわい気持ちもありました。わたしは、高いところは好きだけど、高いところからすべっていくのはどんな感じなのか分からなかったからです。

私のグループのたんとうの人は、「りなティ」でした。とてもおもしろくて、やさしい人です。りなティには、色々なミッションを出されました。たとえば、両手をはなそうとか、一回転してみようとかです。

こわかったけど、やっているうちにだんだんこわくなくなってきました。それどころかスピードが出ることもだんだん楽しくなってきました。

わたしが一番楽しかったコースは、四コース目です。五コースの中で一番長くてスピードが出るコースです。そこでは、りなティに

「ちっちゃくなろう。」

と言われました。ミッションです。

体を小さくするとスピードが出ると言われたので、思いきり小さくしてみました。小さくしてみると、ものすごく速かったです。ドキドキ感もあったけど楽しかったです。スピードが出たのも良かったし、それを長く体験することができたので、四コースが一番楽しかったです。

やっているると芸北小学校の人とも話ができるようになってきました。まださいしょのころに、友達と

「こわいね。」

と話していると、芸北小の人が話しかけてくれました。少しずつ話がはずみはじめ、三コース目をすべるころには、なかよしになりました。

ジップラインのことだけでなく、おたがいの学校のこと話すことができるようになってきました。宿題のこと話しました。ほかの学校も宿題について思うことは同じなんだと思って楽しかったです。

ジップラインの体験を通して友達もできたし、すごく楽しかったです。次は、家族で行って、北広島町の自然をいっしょに楽しみたいです。

ムササビになったジップライン

豊平小学校 藤田 仁志

ついに夢プロの日がやってきました。ぼくは、夢プロが楽しみでした。芸北小学校の人

と会うことができるからです。どんな人がいるのかな、どんな話をしようかな、とワクワクしていました。

心配だったのは、天気です。前日まで、雨がふるかもしれないと天気予報で言っていました。大雨だと楽しみにしていたジップラインができないかもしれません。

朝、バスに乗るときはなんとか雨はふっていませんでした。ぼくは、なんとかふらないでくれといのっていました。

雨がふらないまま、ユートピアサイオトにつきました。ジップラインができそうなのでうれしかったです。

でも、やる前になると、すごくこわくなって、手足がびくびくしてきました。どんな速さが出るのかが分からないし、もしも落ちたらどうしようと思ったからです。ぼくがそう思っているうちにみんながどんどんスタートしました。思い切っていってみると、とても楽しくできました。

さいしょのコースでなれたので、どんどん楽しくなってきました。特に心にのこっているのは、イーグルラインです。それまでにいろんなことをさげんだり、いろいろなかっこうをしてすべったりしたけど、最後は好きなかっこうで好きなことを言っていたと言われたからです。

ぼくは、手足を大きく広げ、

「最高で一す。」

とさげびました。まるで、本物のムササビのようにうすい皮がついて、本当に空を飛んでいるみたいでした。ムササビになって空を飛ぶのはとても気持ちよかったです。風を体全体に受けて気持ちがよくなったので、ついカープの鈴木せいやの言葉が出ました。ぼくはこれでムササビのことが一つ分かったような気がしました。

心配していた雨も、ジップラインの間はぎりぎりふらなかつたので、良かったです。またジップラインに行つて、まだやっていない「ヒヤヒヤライン」をやってみたいです。

ソフトバンクとラブある子

豊平小学校 佐々木 鈴

わたしは、夢プロジェクトで強く心にのこっていることが二つあります。

一つ目は、ジップラインです。わたしは、ジップラインはこわいという気持ちはなく、楽しみでワクワクドキドキしていました。特に楽しかったのは最後のコースです。

わたしたちAグループでは、このコースまでにやってきた、両手をはなすことや、回るこつ、小さくなり早くすることのどれかをやりながら、何かをさげぶことになりました。

わたしは、小さくなることに決めました。前のコースでやってみて、スピードが速くなるのがとても気持ちよかつたからです。

だけど、何をさげぶかはとてもまよいました。「何さげぼうかなあ。なんかはずかしいなあ。」そう考えているうちにぱつと思いついたのは、野球のことです。わたしはカープが大好きだけど、芸北小学校の先生がカープのことについてさげんでおられたので、もつとまよいました。わたしは、決めました。

「ソフトバンクー！」

パ・リーグではソフトバンクが好きなのです。

大自然の中で大声を出すのは、とても気持ちよくて、スッキリしました。ゴールした後はみんなとハイタッチをしました。

いっしょにジップラインをしていた芸北小の子とも、すぐに仲よくなれて楽しかったです。

二つ目は、学校しょうかいです。わたしたちががんばっていることを知ってもらうために、何度も練習をしていました。

わたしは、大きな声で発表することと、「ラブある子」というセリフをみんなでそろえることに気がつけました。「ラブある子」は、みんなの声がそろっていないと、何を言ったのかが分かってもらえません。そろえるために、動きやセリフをテンポよく工夫しました。

その工夫のかいもあって、これまでに練習してきたことが出せたと思います。

芸北や大朝の同級生たちに自分たちのことや、がんばっていることを知ってもらうことができたので、とてもいい発表になったと思います。

また、他の学校の同級生たちと会って、遊んだり話したりしたいです。

5 年 生

「民泊体験」～北広島のおさを満喫しよう～



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔5年生〕実施要項

「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

1 目的

- 町内の自然を生かした体験活動や民泊等，地域の方とのふれあいを通してふるさとの良さを実感させる。
- 町内の同学年児童による自然の中での共同体験を通して，課題解決する力や協働する力を養う。
- 養魚場での川魚のつかみどりや調理体験・登山等の活動を通して，町内児童間の親睦を図る。

2 期日と対象グループ

- Aグループ：平成29年7月 4日（火）～ 7日（金）八重小・本地小・豊平小
 <変更－8月31日（木）～9月2日（土）>
 豊平小学校 20名 本地小学校 7名 八重小学校 24名 計 51名
- Bグループ：平成29年7月11日（火）～14日（金）芸北小・八重東小・大朝小
 芸北小学校 10名 八重東小学校 23名 大朝小学校 11名 計 44名
- Cグループ：平成29年7月18日（火）～21日（金）新庄小・川迫小・壬生小
 新庄小学校 16名 川迫小学校 5名 壬生小学校 26名 計 47名

3 主な活動場所

- Aグループ：芸北文化ホール，芸北大暮養魚場，芸北・豊平・千代田地域民宿等，八幡湿原
 Bグループ：芸北文化ホール，芸北大暮養魚場，芸北・豊平地域民宿等，八幡湿原
 Cグループ：芸北文化ホール，芸北大暮養魚場，芸北・豊平地域民宿等，八幡湿原

<大潰山登山は，八幡湿原トレッキングに変更>

〔芸北大暮養魚場〕 広島県山県郡北広島町大暮 85-3 TEL 0826-38-0734
 〔北広島町芸北 大潰山〕 広島県山県郡北広島町

4 日程

- (1) 1日目－各学校に宿泊（学校ごとに独自の活動を実施）
- (2) 2日目－各学校より交流会会場へ集合する。

時刻	内容	備考
10:00	児童交流開会式	
10:30	人間関係づくり	引率者が指導して行う
12:30	昼食	弁当（業者に依頼）
13:30	対面式	民泊のための受入家庭との対面式
14:00	受入家庭への移動開始	受入家庭の自家用車にて移動
	田舎暮らし体験	
	入浴，食事作り	
	夕食	受入家庭にて
21:30	就寝	民泊

(3) 3日目

時刻	内容	備考
6:30	起床	受入家庭にて
7:00	朝食	受入家庭にて

8:30	移動	受入家庭の自家用車でバス停へ移動後、バスで現地へ移動
9:15	湿原トレッキング	八幡湿原トレッキング
	昼食	弁当（業者に依頼）
14:30	受入家庭への移動開始	現地からバスでバス停へ移動後、受入家庭の車で移動
15:00	田舎暮らし体験	受入家庭にて
	入浴，食事作り	受入家庭にて
	夕食	受入家庭にて
21:30	就寝	民泊

(4) 4日目

時刻	内容	備考
6:30	起床	受入家庭にて
7:00	朝食	受入家庭にて
9:00	移動	受入家庭の自家用車でバス停へ移動後、バスで現地へ移動
10:00	川魚つかみ取り体験	大暮養魚場において
	○施設見学・炭おこし	
	○つかみ取り	
	昼食	アマゴ炭焼き（2匹）・おにぎり・味噌汁
13:15	閉会式会場への移動開始	バスで閉会式場へ移動
14:00	閉会式	
14:15	お別れ式	
14:45	各校へ出発	
	帰校	

5 引率職員

○ 各学校管理職，担任，養護教諭等が引率。

6 必要経費

○ 保護者負担金は，6，000円。食事代や民宿の宿泊代，体験料・バス代などは北広島町

7 提出書類

○ 民泊実施に関わって，事前に家庭から提出してもらう書類は以下の5種類

- ① 自己紹介カード（民宿提出用）・・・写真は学校で準備
- ② 健康カード（民宿提出用）
- ③ アレルギーアンケート調査票（民宿提出用）
- ④ ホームページ承諾書（北広島町提出用）
- ⑤ 保険証の写し

8 準備物

【服装】

- 〔1日目の服装〕 ○登校時の服 ○はき慣れた運動靴(4日とも)
- 〔2日目の服装〕 ○体操服（半袖・半ズボン） ○赤白帽子着用
- 〔3日目以降の服装〕 ○体操服あるいはTシャツ・ズボン等 ○赤白帽子着用

【持ち物】

<服装・着替え>

カバンの中に入れておくもの（1日目の服装以外）	
上着類（3日分）	シャツ（夏でも長袖要）
	ズボン（くるぶしまで隠れもの）
	防寒用
下着類（4日分） ※余分を含めて	シャツ
	パンツ
2日目以降の基本的な服装	体操服（半袖・半ズボン）
【川魚つかみどり用】	Tシャツ（半袖・半ズボン）
	濡れてもよい服
	濡れてもよい運動靴
【登山用】	長袖体操服（上下）
【農業体験等で使用】	長靴
【寝間着用】	Tシャツ・ジャージ
【活動用】 4日分）※余分を含めて	くつ下4枚

<日用品>

洗面用具	歯ブラシ
	歯磨き粉
	タオル
【1泊目就寝用】	タオルケットまたは毛布または寝袋等
【常時携帯用】	ハンカチ（4日分）
	ティッシュ（4日分）
【川魚つかみどりや登山時も使用】	タオル（5～6枚）
【田舎暮らし体験、つかみ取り、登山用】	軍手（滑り止めのない木綿のもの）1組
雨具（両方必要）	カッパ
	折りたたみかさ
【飲料用】	水筒（ペットボトル不可・大きすぎないもの）

<その他>

【持ち運び用】	リュックサック（水筒が入るサイズ）
【防虫・治療用】	虫除けスプレー
	虫さされ薬
【登山時等危険防止用】	熊よけ鈴（ある人） ※ない人は担任に事前に申し出る。
【登山時に使用】	敷物
【常時携帯用】 ※リュックに入れておく	体験活動のしおり
	筆記用具
【着替え入れ・ごみ用】	ビニール袋（5枚）
（必要に応じて）	常備薬（※内服薬は、学校や民泊家庭では出しません。）

9 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを

実施する。アンケート事前に各学校へ送付する。

(アンケートは、今年度も県教委に提出するようになるので、昨年度の様式を活用して各校で実施する。)

○次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

活動の内容・様子

<写真入りで、概要をまとめる。>

児童の作文<各学校3人程度－400字原稿用紙で5枚以下>

実施後のアンケート結果

10 役割分担

担当校長・教頭を中心に分担

○商工観光課との渉外（町教委<落合>）

○バス会社と連携（町教委）

○教育委員会届出（各学校）

○保護者通知（各学校）

○しおり（グループごとに協議→各学校）

○健康調査票・アレルギー調査表（各学校）

○会計（町教育委員会）

児童の費用納入は、実施後に町教委から各学校へ請求書が送られる。

○報告書作成

データ等は全共有フォルダー —教育委員会— ふるさと夢プロジェクト— 5年生民泊の中に入れてください。

◆プロジェクトのねらい（豊平小）

◆活動の内容・様子—写真入り，A4で4枚程度にまとめる。<各グループで担当を決めて>

◆記録用写真撮影<各グループで担当を決めて>

◆作文<各学校3人程度>

学校ごとに指導して作成—作文をパソコン入力して，データを共有フォルダーへ入れる。

◆実施後のアンケート結果・活動の様子・作文

学校ごとに集計・作成して，所定の期日までに共有フォルダーへ入れる。

◆夢プロだよりは，民泊担当3校で分担

○全体総括（芸北小—板倉）

11 その他

○プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにする。

○事前に保護者と連携して，児童の健康状態を把握したり，民泊受け入れ先との打ち合わせを丁寧に行い，健康管理に万全を期す。また，体験活動については，関係機関・団体と連携して安全確保に留意をする。不測の事態を想定して，関係機関・保護者等との緊急連絡体制を確立しておく。各学校においては，事前に安全指導を徹底しておく。

○保護者案内は，実施1月前を目安に学校ごとに作成して配布する。

○特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要がある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，引率職員体制について配慮する。

○持ち物には全て名前を記入させておく。

○荷物はできるだけ1つのカバンにまとめさせる。但し，水筒・タオル・しおり，筆記用具などの荷物はリュックに入れて移動する。

○お金，携帯電話，間食，ゲーム類は持ってきてはいけない。

○水筒のお茶は，2日目から毎日入れ替える。

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

【民泊体験活動 Aグループ】 (八重小・本地小・豊平小)

〈 第1日目 (7月4日) 〉

○ 1日目は、各学校に宿泊。

	活動内容	活動の様子 (写真)
八重小学校	<p>初日の午前中、家庭科の時間に夕食のカレー作りを行いました。カレーを煮て、サラダを作り、あとは盛り付けるだけという状態まで、協力して手際よく調理できました。午後からは「防災教室」として北広島町消防本部の方に来ていただき、広島で起きた土砂災害の様子や、自分達でもできる災害対策について教えていただきました。一度下校した後、各自で入浴を済ませ再び荷物を持って18時に学校に集合。開始式を行い、みんなで、作っておいた夕食のカレーやサラダを食べました。夜は、雲のすき間を縫って星空観察を行い、21時半に就寝しました。</p>	
本地小学校	<p>1日目の夕食はカレーとサラダを作りました。作る前には、手際よく作るために、グループごとに役割や手順を自分たちで考えました。その結果、お米を炊いている時間にサラダを作ったり、使った調理器具を洗ったりするなど、時間を節約することができました。1時間ほどで夕食づくりができたため、夕食の時間までプールに入ることができました。プールからあがったあとは、夕食の準備をし、先生方を呼んで、おいしくいただきました。先生方から「おいしかった。」と言ってもらい、大喜びでした。夜は、映画鑑賞をして21時に就寝しました。</p>	
豊平小学校	<p>民泊体験学習初日は通常通り学校生活を送り、16時に5年生以外が下校してから、多目的ホールで開会式を行いました。その後、豊平中学校の調理室で夕食のカレー作りを始めました。事前にカレーとサラダの作り方やご飯の炊き方を班ごとに調べて持ち込み資料を作成し、それを見ながら協力して調理を進めました。ご飯は初めて鍋で炊き、火加減や水加減の調整に苦労しました。サラダはレタスタっぷりで、きゅうりとトマトの切り方を工夫して飾りつけました。皆で力を合わせて作ったカレーは、とてもおいしく出来上がり、お腹いっぱいになるまで食べました。19時から、どんぐり村でシャワータイム。その後、星空学習を行い、夏の大三角形について学びました。1日目の振り返りを書いた後、21時に就寝しました。</p>	

〈 第2日目（8月31日）〉

○開会式（芸北文化ホール）

民泊Aグループ（八重小・本地小・豊平小）児童50名が芸北文化ホールに集合し、開会式を行いました。

八重小学校の神川校長先生から「ふるさとの良さを実感しよう」「課題解決する力や協働する力をつけよう」「他の学校の人と仲良くなろう」の3つの目標を聞き、活動への期待や意欲を高めていました。



【開会式での学校紹介の様子】

○人間関係作り（芸北文化ホール）

他校の児童と交流し、仲良くなるために、人間関係づくりを行いました。最初に、雰囲気を盛り上げるために「コール（call）づくり」や「ジャンケンゲーム」等を行いました。

その後、活動班に分かれて自己紹介ゲームをしました。ゲームを通して班のメンバーの名前や好きなものが覚えられると、親睦が深まり、その後の役割や目標を決める話し合いでも意見を伝え合えるようになってきました。最後は「ウルトラマンゲーム」で大いに盛り上がりました。



【コールづくりで団結】



【各班で目標の決定】



【ウルトラマンゲームで交流】

○対面式（芸北文化ホール）

活動班ごとに昼食をとった後、いよいよ受け入れ家庭の方々との対面式です。芸北地域15の民泊家庭の方と顔を合わせました。子供たちは、最初は少し緊張した様子で自己紹介や挨拶をしていましたが、受け入れ家庭の方の温かく優しい笑顔や言葉かけによって安心し、期待に胸を膨らませながら、元気よくそれぞれの民泊先へ向かいました。



【対面式での様子】

○民泊体験（各民泊家庭）

魚釣りや掃除の手伝いなど、各家庭で、普段はできない貴重な体験をさせていただきました。

自分たちが収穫した野菜で、夕食作りをした子供たちもいました。児童は「自分の家では夕食作りをした事が無かったが、今回の体験を経て大変さが分かった。」「自分たちで作った夕食がおいしくてたまらなかった。」等の声が聞かれました。



【民泊家庭での夕食作り】

○八幡湿原散策体験

八幡湿原散策体験では、3つのグループに分かれて散策しました。トレッキングガイドの方に、それぞれのグループに八幡湿原にある植物の名前をつけてもらいました。聞いたことのない植物の名前ばかりで子供たちは「どんな植物なのだろう。」とわくわくしながら出発です。歩き始めると右にも左にも名前の分からない植物がいっぱいでした。「この植物は何だろう。」と子供がつぶやくと、案内をしてくださるトレッキングガイドの方が花の名前やその由来など詳しく教えて下さいました。どんどん進んでいくと、「カラコギカエデ」という木に出会いました。「この木の実が落ちるときはプロペラのように回って落ちる。」とトレッキングガイドの方から教えてもらおうと、子供たちはさっそく落ちて



いる実を拾って、実際に飛ばしながら自然を楽しむことができました。他にも松の木の年齢の数え方など、知らないことをたくさん教えていただき、子供たちは「今度は家族と来て、教えてあげる。」と八幡湿原を満喫できた様子でした。昼食は、外で食べる予定でしたが、雨が降ってきたため、山麓庵という伝統的な建築方法で建てられた建物の中でグループごとにお弁当を食べました。



○田舎暮らし体験

田舎暮らし体験では、農作業をさせてもらったり、魚釣りをしたりと民泊家庭ごとに様々な体験をさせてもらいました。夕食作りも受け入れ家庭の方と一緒にしました。「たまねぎを切るのに目がしみて涙が出たけど、それだけがんばって作ったから表現しきれないぐらいおいしかった。」と感じた子供がいました。また、普段はお母さんがご飯を作ってくれているけれど、自分で作ってみて、その大変さを感じることができた子供もいました。子供たちは受け入れ家庭の方々との温かいふれあいを通して、人とのつながりのすばらしさや大切さを感じました。



そして、同じ北広島町内でも日頃なかなか体験できない活動をさせてもらったことで、改めて北広島町の良さを感じることができました。



〈 第4日目（9月2日）〉

アマゴのつかみ取り お別れ式

《アマゴつかみ取り体験》

大暮養魚場に集合し、アマゴのつかみ取り体験に臨みました。2つのグループに分かれ、炭火を起こす活動と魚や命の大切さについてのお話を聞くのを交代しながらやりました。火を起こす難しさや、自然の魚の繊細さ、命の尊さを学ぶことができました。

「魚をつかまえて食べる」ということは、子供たちにとってとてもわくわくする活動ですが、それはつまり、「生きている命をうばい、いただくこと」です。活動に入る前に、そのような「命」の話をしていただきました。話の内容は子供たちの心に強く残り、この後に続く調理や食事のときも、目の前にある「命」のことを考えているようでした。

《お別れ式》

楽しい時間はあっという間に過ぎ、お世話になった民泊家庭の方々ともいよいよお別れの時です。2泊という、限られた時間の中ですが、民泊先の方々の温かい心に触れ、充実した2日間を過ごしました。「(子供) はあ…帰りたいなあ。」「(教員) お母さんが恋しくなった?」「(子供) ううん…民泊先にもう1回帰りたい。」というやり取りが、何よりの証拠です。民泊先が、すでに第2の故郷となっていました。

お世話になった民泊先の方のところに集まると、自然とあふれる笑顔。「また会おうね。植えた大根、冬に取りにきんさいよ。」との声に、「はい!」と元気に返す子や、どんな表情をしたらいいか分からずうつむく子。様々な思いの表し方がありました。気丈に振る舞っていた子も、バスを最後まで見送ってくださった民泊家庭の方の姿に、そっと涙をふいていました。活動後の作文には、お別れ会で伝えきれなかった、思いがぎっしりと書いてありました。

学校での宿泊から始まり、夏休みをはさんで2ヶ月をかけて完結した「民泊体験」。初めて訪れた土地で民泊家庭の方や仲間と過ごし、協力することの大切さを学びました。また、豊かな自然の中で同年代の友達と出会い、友達の輪を広げる喜びを感じることができました。

諸々の活動を支え、温かく子供たちを見守ってくださった民泊家庭のみなさん。

本当にありがとうございました!



【民泊体験活動 Bグループ】 （芸北小・八重東小・大朝小）

〈 第1日目（7月11日） 芸北小学校 〉

1日目は学校に泊まるので、暑い中でかいた汗を流すところがありません。そこで、地元芸北オークガーデンの草取りをさせてもらうことで、その大浴場に入れてもらうというちょっとしたボランティアを体験しました。

グラウンドに生えた草をとるのは違い、アスファルトの間から生えた生命力の強い雑草を取るのは思った以上に大変！それでもお風呂のために、オークガーデンのために…と一生懸命草を取りました。

きれいに草を取り、草取りでかいた汗を流すお風呂は、普段入るお風呂とは一味違った感覚だったようです。

夕食作りでは、2グループに分かれてカレーとサラダを作りました。昨年まで頑張ってきた「挑戦科」で鍛えた知識と経験を糧に、どんどん調理を進めていきました。出来上がったカレーもきれいに食べきり、みんなの笑顔のはじける1日目の晩ごはんになりました。

「挑戦科」で、自分たちで泊まることにもずいぶん慣れてきた芸北小学校5年生。そわそわすることなくしっかりと先のことを考え、就寝時間が迫っても、次の日の学校紹介でする出し物の準備に余念がありませんでした。



草取りをするので
お風呂に入れてください！



オークガーデン、
きれいになったぞ！



働いた後の
お風呂は最高！



調理実習は慣れっこ！
今までの経験を生かすとき！



みんなで大いただきます！

〈第1日目（7月11日） 八重東小学校〉

いよいよ3泊4日の民泊体験学習が始まりました。始めの会の後、早速夕食作りに取り組みました。今年は、防災キャンプとしての側面も取り入れた学校泊を行いました。夕食メニューは、お湯を入れるだけでできる即席チャーハンとわかめスープ、野菜サラダ、ボイルウィンナーでした。災害時でも、お湯を沸かせれば温かい食事ができることを学ぶとともに、おいしくいただきました。



家庭科の学習を生かして



役割分担をして調理をしよう。

自分たちで作った夕食は最高！！

片付けの後は、これからの民泊体験活動に向けて、5年生の結束を高めるためにレクリエーションをしました。フラフープくぐりや新聞紙乗りゲーム等で時間を忘れて盛り上がり、夜の校舎に笑い声が響き渡りました。友達と思いを一つにしたときの楽しさや喜びを味わい、始まったばかりの体験学習への意欲がさらに高まりました。

人間知恵の輪



バランス、とれてる？

みんなの気持ちがそろわないとうまくいかないね。



手を離したらだめだよ。

手を離すと同時に素早く動かないと、棒がたおれるよ！



折りたたんだ新聞紙に班のみんなで乗ります。

どこまで小さく折りたためるかな？

〈 第1日目（7月11日） 大朝小学校 〉

午後から出発式を行って民泊体験活動がスタート。みんなで大塚ふれあいセンター（旧大塚小学校）に移動し、2グループに分かれて早速夕食のカレーとサラダ作りに取り掛かりました。野菜はそれぞれ家から持ち寄った新鮮な夏野菜たち。カレーの味見では、「いつもお母さんが作ってくれるカレーの味だ!」と大満足。サラダは、家庭科で学習したゆで卵を上へのせ、彩りもきれいに仕上げることができました。自分たちで作ったカレーとサラダは、どちらもとてもおいしく、これから始まる民泊体験活動への意気込みを語りながら楽しいひとときを過ごしました。



いよいよ始まるね。民泊でいろんな体験をするのが楽しみだな。



焦がさないように気をつけながら、グツグツ煮込むよ。まだかな～♪



後片づけもバッチリ!

夕食後は大朝運動公園のプールで泳ぎました。さっぱりしたところで、1日の振り返りをし、就寝の準備をして翌日からの活動に備えて寝ました。



おいしいね!自分たちだけでこんなにおいしい夕ご飯ができるなんてすごいよ。家でも作れるぞ!

〈第2日目（7月12日）〉【芸北文化ホール 開会式・人間関係づくり・対面式】

2日目は、民泊Bグループ（芸北小・大朝小・八重東小）の児童が集合し、芸北文化ホールにて、いよいよ交流会がスタートしました。

開会式後、まずはお互いの学校のことを知ってもらうための学校紹介です。それぞれの学校で頑張っていることを、劇や体操、ダンスにて披露しました。緊張が少しほぐれたところで、次は人間関係づくりです。活動班に分かれて自己紹介をし、先生が考えたゲームを行いました。内容は、フラフープくぐり、誕生日チェーン、じゃんけん大会、ホワイトシート列車、人間知恵の輪です。どれも大盛り上がりの中、一番の盛り上がりを見せたのはホワイトシート列車です。ホワイトシートの上に全員が乗り、シートを動かしながら前に進み、そのタイムを競うゲームです。どうやったら前に進んでいくのか、班の中で知恵を出し合いながら終えた一回戦。これに対抗し今度は先生チームが登場。圧倒的なタイムで勝利すると、「もう一度やりたい」と勝負を挑み、二回戦が行われました。この活動を通して、他校の友達との距離も自然と縮まり、自然体で楽しむ児童の姿が見られました。



みんなでタイミングを合わせ、
「いっちに！いっちに」



どうやったらタイムが縮まるん
だろう。よし、もう一回勝負だ！



あれ。なかなか解けないよ～！
早く解いて～！

昼食は、活動班ごとで食べました。和気あいあいとした雰囲気、他校の友達ともすっかり打ち解けている様子が見てとれました。

午後からは、民泊家庭の方との対面式です。「どんな方なんだろう」と不安と楽しみが入り混じる中、会はスタートしました。どの民泊家庭の方も、優しい笑顔であたたかく迎えてくださいました。「話をしたら、すぐに緊張がほぐれました。先生、行ってきます！」とはりきって民泊家庭へと向かう児童の姿が見られました。民泊先では、そうめん流しや花火なども準備していただき、民泊家庭の方とも話がはずみ、楽しい時間を過ごすことができました。



みんなで食べるとおいしい♪
ゲーム楽しかったね。



初めまして。よろしくお願いします！

【民泊体験】



児童は、それぞれの民泊家庭に向かいました。民泊家庭では、農作業や夕食作り、動物の世話など様々な体験をさせていただきました。これまでしたことがある活動も初めての活動も、民泊家庭の方々の思いのこもった“特別”の活動でした。笑顔で温かく迎えていただき、

忘れることのできない素敵な思い出をたくさん作ることができました。心から感謝いたします。

初めての陶芸に挑戦！



く 第3日目（7月13日） 【八幡高原 霧ヶ谷湿原の散策】

3日目は、八幡高原にある霧ヶ谷湿原などを散策しました。当初は大潰山登山の予定でしたが、7月上旬の豪雨によって登山ルート of 安全確保が難しくなったため、湿原の散策に変更することになりました。

八幡高原にある「芸北高原の自然館」に集合し、日程や諸注意を聞いた後、トレッキングガイドの皆さんと顔合わせをし、グループに分かれて出発しました。

高原の自然館では、大きなガマガエルやかわいらしいカスマサンショウウオの水槽、クマやキツネなどの剥製、野鳥の鳴き声など、八幡高原の自然が育んだ生物の様子を学習することができました。

湿原の散策では、高原で生き続けている珍しい高山植物や、形や生態から付けられたおもしろい名前の植物など、トレッキングガイドの皆さんから楽しくお話をいただき、興味深く聴くことができました。

また、八幡にこのような湿原が存在している理由や、湿原を守る工夫や努力についてもお話していただき、同じ町内に住むものとして「いつまでも守っていくために、自分たちにできることは・・・」と考えるきっかけにすることができました。

湿原を抜けてたどり着いた「おーいの丘」で、大きな声でやまびこを楽しんだり、柔らかい草の上に寝転んだりして、八幡高原を満喫することができました。

ヤッホーッ

おーいの丘



芸北 高原の自然館



霧ヶ谷湿原



〈第4日目（7月14日）〉【大暮養魚場 アマゴのつかみ取り】

4日目は、大暮養魚場でアマゴのつかみ取りをしました。

まずは、たくさんのアマゴが元気よく泳いでいる生け簀を見ながら、育てられている魚たちの説明を聞きました。アマゴだけでなく、ヤマメやレモンサーモンといった種類の魚がいるという説明を聞くと、みんな見分けようと必死！つかみ取りの前から興味しんしんでした。



どれがアマゴかな？

誤しながら何とか火をつけることができました。

続いてアマゴのつかみ取りです。逃げるアマゴ、すべるアマゴを一生懸命追いかけてました。友達と協力し、お互いに声をかけ合ううちに、違う学校の人とも自然に距離が縮まり、笑顔が出ていました。そんな努力も実を結び、人数分のアマゴを捕まえることができました。

火のついた班から割り箸でアマゴの内臓を取り、塩をまぶして炭火で焼きました。魚が焼けるいいにおいが広がっていました。おむすび、味噌汁と一緒に食べる焼きたてのアマゴの味は最高でした。



協力してつかみました！



アマゴ以外にも川魚がいるんだ！

次に、「命をいただく」ことについて話を聞きました。自分たちでアマゴの内臓を取る

ということで、命の重みに気付いて欲しい。そんな話をみんなで真剣に聴きました。

そして今回最難関だったのが火起こしです。慣れない炭火の火起こしは、早く食べたいという焦りと呼応するかのようによくいきません。もうみんな必死の形相で試行錯



火起こしに悪戦苦闘…！

焼きたてのアマゴは最高！
みんないただきます！



【民泊体験活動 Cグループ】 (新庄小・川迫小・壬生小)

〈 第1日 (7月18日) 〉

○ 1日目は、各学校に宿泊

	活動内容	活動の様子 (写真)
新庄小学校	<p>午後4時、教室で開会式を済ませ、さっそく夕食作りに挑戦しました。メニューはカレーライスに野菜サラダ。4つの班に分かれて手際よく調理をしました。「〇〇くん、じゃがいも切って。」 「わかった、〇〇ちゃんは食器を運んできて。」あちらこちらから素敵なかけ声が聞こえてきました。</p> <p>できあがったカレーを不安そうに見る子供もいましたが、口にすると不安が一気に吹き飛びました!!「うまいじゃん。」「味がいいよ。」すごく美味しくてみんなで喜びました。</p> <p>入浴は去年の学校シャワーと違ってバージョンアップ!大朝グリーンヒルに行きました。ここには浴槽があってみんなゆったりと入れました。とても気持ちがよかったです。</p> <p>寝る前に一日の振り返りをして寝ました。暑くてなかなか眠れませんでした。やがて深い眠りにつきました。クラスみんなが同じ場所で横になったことはいい思い出です。</p>	
川迫小学校	<p>5年生の5人は、午後から食材の買い物に出かけて準備を整えました。一旦下校した後、再び登校し、いざ宿泊体験のスタートです。夕食のメニューは、「肉じゃが、鮭の塩焼き、野菜サラダ、ごはん」でした。5人で分担をして、上手に作る事ができました。中庭のテーブルをみんなで囲んでおいしくいただきました。</p> <p>片付けもテキパキと行い、寝る準備をして、女子は保健室で、男子は多目的ホールで眠ろうとしました。しかし、女子のグループは、楽しくてなかなか眠れなかったようです。</p>	
壬生小学校	<p>午後1時20分から北広島町消防本部よりおいでいただいた署員の皆さんの指導のもと、「防災講習会」を行いました。</p> <p>ガラス片が散らばった床を安全に歩くための「新聞紙を使ったスリッパ作り」や2本の棒と毛布を使った「簡易担架でのけが人の救助体験」など、いざという時に役立つ貴重な体験をおとした講習会でした。また、非常食としていただいた「乾パン」と「水だけでできる炒飯」を朝食にいただきました。「防災意識を高める」ために、いい体験だったと児童が振り返りに記述しています。</p> <p>その後、アザレア千代田に交替で行き、入浴しました。食事代を節約して入浴代にしたのですが、同級生と一緒に入浴は、とてもうれしいひとときでした。</p> <p>パソコン教室と図書室に男女別に泊まりましたが、同級生と一緒に寝た初めての夜は、忘れられない思い出です。</p>	

〈第2日（7月19日）〉

開会式・人間関係づくり・対面式

19日（水）朝、壬生小学校・川迫小学校・新庄小学校の3校がバスで合流し、芸北文化ホールに向かいました。到着後すぐに開会式をし、各校の学校紹介をしました。



開会式後は活動班に分かれて人間関係づくりを中心に交流会をしました。自己紹介をし、「ビリーヴ」を歌ったり、人間知恵の輪をしたりしました。みんなが自然にさっと手をつなぎ、どうしたらうまく課題を解決できるかをみんなで考え、声を掛け合って活動しました。班の役割分担やめあてを相談して決め、プラカードに書く頃にはみんな仲良くなっていました。各班の発表では、発表のし方に班ごとの工夫が見られ、それぞれの違いや良さを感じることができました。

人間関係づくり後の昼食は、活動班ごとに食べました。様子を見てみると、同じ学校の友達だけでなく、他校の友達と話している子が多く、すっかり打ち解けている様子でした。お腹も心も満たされたひとときでした。



いよいよ受け入れ家庭の方々との対面式です。芸北及び豊平地域14の民泊家庭の方と顔を合わせました。「どんな人たちなのだろう。」とはじめは緊張していた子供たちも、受け入れ家庭の方々の温かい言葉かけですぐに馴染むことができました。「よろしくお願いします。」「行ってきます。」と元気な声で挨拶をし、民泊家庭の方といっしょにわくわくしながら民泊先へ向かって行きました。

これからお世話になります。
よろしくお願いします！

よろしくね。楽しみに
待ってたよ。

優しく教えてもらいながら、
手作りの梅干しに挑戦だ！



第3日（7月20日）

八幡湿原トレッキング

7月20日、民泊体験3日目。この日の活動は、八幡湿原のトレッキングでした。天気にも恵まれて、観察には絶好の日でした。トレッキングガイドの方から説明を聞いて、いよいよスタートです。



トレッキングは、3つのグループに分かれてスタートしました。人数確認の仕方など、みんなで確かめ合って、いよいよ観察に出発です。

芸北高原の自然館を出発して、向かう場所は霧ヶ谷湿原です。この湿原は、湿原を守るために色々な手を加えて、守られているところです。

高原の中を歩いていくと、イノシシが地面を掘って歩いた跡や高原の夏ならではの植物をたくさん観察する事ができました。

そして、長い距離を渡る蝶、「アサギマダラ」も観察する事ができました。



アサギマダラ！



おーいの丘では、大きな声で「ヤッホー！」と叫び、こだまが返ってくるのを体感しました。「気持ちいい〜！」

観察会を終えた後は、グループごとに反省会をしました。一人一人が感じたことを発表し、交流し合いました。とても楽しい観察会でした。ガイドをしてくださったボランティアガイドの皆さん、「ありがとうございました！」



〈第4日（7月21日）〉

川魚つかみ取り体験（大暮養魚場）

3日目は芸北の大暮養魚場へ集合し、川魚のつかみ取り体験を行いました。

大暮養魚場では、まず命の話をしていただきました。自然界に生息する生き物に感謝をしていただかなければならないことを話していただきました。



【アマゴのつかみ取りです】

そして、割り箸を使ってアマゴの内臓を取り出し、竹串に刺しました。その後炭火でじっくりと火を通し、焼いたアマゴとおにぎりとお味噌汁をいただきました。

「おいしいね。」仲良くなった友達とおしゃべりしながらたくさんいただきました。

【おいしそうなアマゴです】



今回、アマゴのつかみ取りを通して、普段できない体験ができただけでなく、生き物の命をいただいて生きている我々の心の在り方について「命の勉強」をすることができました。

大暮養魚場での体験活動は、貴重な体験となりました。

閉会式・お別れ式（芸北文化ホール）

芸北文化ホールに移動し、3泊4日にわたる民泊体験活動の閉会式を行いました。

そして、お世話になった民泊家庭の方とお別れ式をしました。

「3日間ありがとうございました。」と、みんなで心をこめてお礼の言葉を言いました。「また、おじさんの家に泊まりたいです。」

「おじさん、おばさんありがとう。楽しかったです。」そんな言葉があらこちから聞こえてきました。

壬生小学校、川迫小学校、そして新庄小学校。児童一人ひとりが貴重な思い出を作り、民泊活動を閉じました。



【大暮養魚場に到着】

次に、アマゴの生態や養殖について紹介していただきながら学習をしました。

その後、各グループごとに火おこしを行い、放流されたアマゴをいっせいに捕まえました。初めてのつかみ取り体験に子供たちは興奮した様子でした。



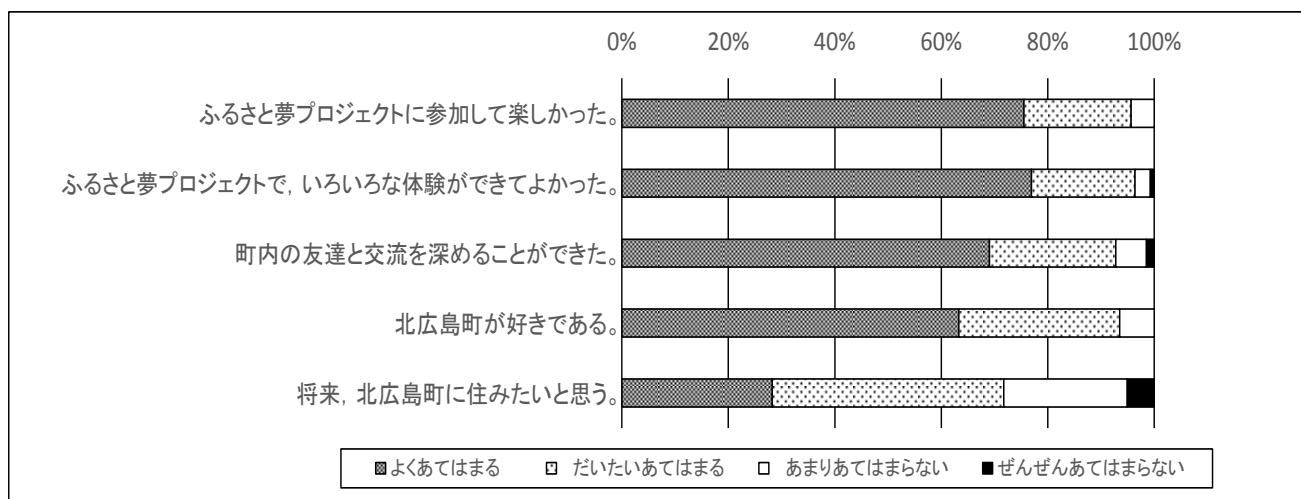
【みんなでいただきま〜す！】



【いよいよお別れ式です】



プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果(5年)



民泊体験・田舎暮らし体験をして、思ったこと考えたことを書いてください。

芸北小学校

- | | |
|---|---|
| ①いろいろな農業を体験して、とても大変なんだなと思った。(3) | ⑤民泊家庭の人に、とても気を遣ってもらったので申し訳ないと思った。 |
| ②民泊で自分が思っていた以上に田舎の暮らしの楽しさが分かった。『もう一回したい』と思った。 | ⑥前の自分より人と話せるようになった。 |
| ③人と関わる「力」ということを普段から意識していないといけないと思いました。 | ⑦普段やったことのない活動や、普段なかなかすることのない活動ができ、とても楽しく勉強になった。 |
| ④千代田の家庭でも、たくさん野菜を育てている人やあまり育てていない人もいたんだと思った。 | ⑧北広島で自然で育った野菜や魚を食べて、改めてすごい町だと実感できた。 |

大朝小学校

- | | |
|--|--|
| ①田舎暮らし体験で、畑仕事をして楽しかった。 | ⑦初めて行く家で、民泊先の方が優しく接してくれたのでうれしかった。 |
| ②田舎暮らし体験は楽しくてまた行きたいと思った。 | ⑧少しはお父さんお母さんと離れていても、不安が少なくなった。 |
| ③田舎暮らし体験をしてみて、昔の人達はたくさんの知恵をもっていたんだなと思った。 | ⑨私は人の家に泊まるとしても、友達のお家や、おばあちゃんおじいちゃん家だったけど、初めて知らない人の家に行かせてもらって楽しかった。 |
| ④田舎暮らし体験は、今もうすでに田舎に住んでいるので満喫している。 | ⑩町内の友達と交流がいっぱいできて楽しかった。 |
| ⑤北広島町の友達と仲良く楽しく交流することができた。 | ⑪もう一度行きたいと思った。 |
| ⑥民泊体験は、今までしたことがないので、よその家に泊まって手伝いをするのはいいことだと思う。 | |

新庄小学校

- | | |
|---|--|
| ①アマゴの塩焼きはとてもおいしかった。(3) | ⑦自分たちでとった、とりたてのアマゴを食べておいしかった。 |
| ②八幡湿原でのトレッキングでいろいろな生き物を見ることができてよかった。(3) | ⑧たくさんの自然を見つけ、自然を生かしてできたことがたくさんあってよかった。 |
| ③つかみ取りをもっとしたい。(2) | ⑨魚のはらわたを取るのが気持ち悪かったけど、いい経験になった。 |
| ④新しい友達と交流ができてよかった。(2) | |
| ⑤いろんな人と関わって活動できてよかった。(2) | |
| ⑥めずらしい植物や生き物の名前を知ることができて良かった。 | |

川迫小学校	
<p>①自分たちでとった野菜でカレーが作れたので楽しかった。(2)</p> <p>②夜、花火で遊べたのが楽しかった。</p> <p>③料理など家では全然やったことがなかったから経験できてよかった。</p>	<p>④知らない家に泊まるので、ドキドキしていたが、こんな経験ができてよかった。</p> <p>⑤他の学校の人たちと友達になれたので良かった。</p>
八重小学校	
<p>①農作物の収穫や種まき、木工、料理など、普段の生活ではしないことができた。(13)</p> <p>②民泊家庭の方に優しくしてもらい、花火やランプ、オセロなどして仲良くできた。(6)</p> <p>③とれたれの野菜が食べられるなど、田舎のよさが分かった。(4)</p>	<p>④大変だったけれど、料理など自分で自分のことができた。(2)</p> <p>⑤田舎ならではの工夫が分かった。(2)</p> <p>⑥芸北は朝晩が寒くて、自分の住んでいるところとの違いが分かった。</p>
豊平小学校	
<p>①普段お母さんがしてくれる食事の準備は大変だな、家でも手伝おうと思った。(3)</p> <p>②大きな木などを見て、この木は300年も生きているからすごいと思った。</p> <p>③北広島町の人はずごくやさしいと思った。</p> <p>④どちらかと言えば、僕の家の方が田舎だと思った。</p> <p>⑤様々な体験をして、ふるさとはいいなと思った。</p> <p>⑥民泊先でやったブルーベリーやぶどうの収穫が印象に残った。</p> <p>⑦豊平とほとんど同じ環境だと思った。</p>	<p>⑧みんなで作ったご飯は本当においしかった。</p> <p>⑨大勢で食べるご飯は、楽しく温かい気持ちになることに気付いた。</p> <p>⑩畑の草を一輪車で運んだのが楽しかった。</p> <p>⑪家の草抜きなど、めんどくさくても手伝おうと思った。</p> <p>⑫友達と一緒に風呂に入っってうれしかった。</p> <p>⑬北広島町にもこんなところがあるんだと思った。</p> <p>⑭北広島町の気候に合う野菜がたくさんあることを知れた。</p>
本地小学校	
<p>①スイカ割りや薪割りをして、昔ながらの伝統を味わえてとても楽しかった。友達がたくさんできたのがよかった。(2)</p> <p>②民泊体験でまきわりをして、民泊家庭の方に「早くできるからいいね」とほめていただき、役に立ってよかった。</p>	<p>③つりをして餌を一人で付けられるようになったのと友達と仲良くできたのがよかった。</p> <p>④民泊先で普段できないことをさせてもらったのが嬉しかった。</p> <p>⑤民泊体験をしたことで、前より北広島町のことを知ることができた。</p>
八重東小学校	
<p>①初めての体験がいろいろできて良かった。(9)</p> <p>②自分の家とは違う調理方法や、新しいことを経験できて嬉しかった。(6)</p> <p>③最初はさびしかったけど、優しくしていただいたので楽しく過ごすことができた。(5)</p> <p>④農業や自然に触れ合うことができるのでいいなあとと思った。(4)</p> <p>⑤家族とはなれて生活することがとても寂しいことと気づいた。(2)</p>	<p>⑥自分のことは自分でやることの大切さが分かった。</p> <p>⑦周りの人達が優しく接してくれて、緊張せずに生活することができた。</p> <p>⑧大雨で土砂が崩れているところがあった。被害のあった地域の人達はたいへんだったなあとと思った。</p> <p>⑨一緒に生活しているうちに、本当の家族みたいに親しみがもてるようになった。</p> <p>⑩民泊では、いつもと違って仕事がたくさんあるのに驚いた。</p>

壬生小学校	
①普段できない体験ができてよかった。(2) ②ご飯が作れて楽しかった。(2) ③畑仕事は大変だったけど楽しかった。(2) ④竹トンボ作りが楽しかった。 ⑤楽しかったけど大変な面もあった。 ⑥自分の家と違い、ルールも違ったから不安だった。 ⑦大変だった。 ⑧民泊家庭では少し緊張した。 ⑨民泊は自分たちで最初から最後までするので楽しかった。	⑩優しくしてもらったから、北広島町の人は優しいと思った。 ⑪もっと北広島町について知りたい。 ⑫いもほりや川遊びができてよかった。 ⑬これが田舎かと思った。 ⑭手伝いをするのがあまりなくて暇だった。 ⑮北広島町のよさをいろいろと教えてもらった。 ⑯普段は農作業をしないから楽しかった。 ⑰説教もあり、苦しかった。
川魚つかみ取り体験・登山をして、心に残っていることはどんなことですか。	
芸北小学校	
①登山で友達ができた。(3) ②一緒にすることで、関わりが深まり話しやすくなった。(3) ③みんなで協力して頑張っていくことを大切にしようと思いました。(2)	④魚の命に感謝しながら食べることができた。 ⑤つかみ取りの後のエラや内臓をとることなど、あまり体験することができない事ができた。
大朝小学校	
①魚のつかみどりでは、魚がとても速くて捕まえることが難しかった。(2) ②トレッキングでは、山の植物のことがわかって良かった。(2) ③魚のつかみどりでは、初めてアマゴを手で捕まえたことが心に残った。 ④魚のつかみどりでは、思った以上にアマゴが取れ、一緒に魚を捕まえる中で友達が増えてうれしかった。 ⑤魚のつかみどりでは、内臓を取り除いたり、火起こしをしたりなど、食べるのにこんな苦労が必要なのだと分かって良かった。	⑥もともと魚がきらいで一匹しか食べられなかったけど、魚が取れたときうれしかった。 ⑦トレッキングでは、知らない植物や生き物がいっぱいいて、びっくりした。 ⑧班の人達と一緒に活動できたことが心に残っている。 ⑨トレッキングでは、カキツバタと花ショウブの見分け方を教えてくれたので、いい経験になったと思う。 ⑩魚のつかみどりでは、魚の内臓をとるのが大変だった。
新庄小学校	
①民泊家庭の方が楽しかった。(3) ②普段できない体験ができてよかった。(3) ③民泊家庭の方といろいろなおいしい料理が作れてよかった。(2)	④北広島町のいいところがたくさんわかった。(2) ⑤民泊家庭でいもほりや川遊びができてよかった。 ⑥民泊家庭でのそうめん流しが楽しかった。
川迫小学校	
①トレッキングで色々な植物やめずらしい蝶などを知ることができて、よかった。(4) ②アマゴがヌルヌルしたけど、楽しくつかみ取りができた。(3)	③アマゴをつかむのは楽しかったけど、内臓を取り出すのは、気持ち悪かった。
八重小学校	
①アマゴをたくさん捕まえられてうれしかった。(8) ②花や木の名前や、かぶれる植物の特徴をしっかりと覚えることができた。(7)	⑥魚の命をもらっているのだから、残さず食べようと思った。(3) ⑦歩くのが大変だった。(2)

<p>③魚のことや、その命のこと、調理の苦勞を知れた。(6) 覚えておこうと思った。(5)</p> <p>④塩焼きがとてもおいしかった。(4)</p> <p>⑤トレッキングで、松の木の年の数え方など、自然のことを教えてもらったこと。(4)</p>	<p>⑧海釣りとは違って、アマゴをつるのはすごく難しかった。</p> <p>⑨ガイドの人がマムシをとってすごかった。(2)</p> <p>⑩川魚はぬるぬるして取りづらかった。(2)</p> <p>⑪トレッキングをしながら、他校の人と仲良くなれた。</p>
豊平小学校	
<p>①トレッキングをして、自然にはいろいろなものがあると知った。(4)</p> <p>②トレッキングでいろいろな植物を見たり匂いをかいだりした。(4)</p> <p>③川魚のつかみ取りが楽しかった。(4)</p> <p>④命の大切さを人にもアマゴにも教わった。(3)</p> <p>⑤ヤマメやアマゴの差が分かってよかった。(2)</p> <p>⑥アマゴの内臓を抜き取って、焼いて食べたことです。魚は嫌いだけど、食べられた。</p>	<p>⑦内臓の取り方がわかってよかった。</p> <p>⑧友達ができた。その友達と楽しく体験をすることができてうれしかった。</p> <p>⑨アマゴをさわったときのヌルヌルの感じが心に残っている。</p> <p>⑩北広島町にはたくさんの草や木、花があることを知った。</p> <p>⑪内臓をとっても動く魚がいて、少し切なくなった。</p> <p>⑫人がいっぱいいて魚がつかめなくて残念だった。</p>
本地小学校	
<p>①トレッキングで花や木の名前を知れた。(3)</p> <p>②トレッキング友達と仲良くなり、新しい友達があった。(2)</p> <p>③川魚つかみ取り体験で、ヤマメとアマゴの見分け方や内臓の取り方、火のつけ方を学んだ。</p> <p>④信頼関係が深まった。</p>	<p>⑤川魚のつかみ取りで友達と協力して魚をとれた。</p> <p>⑥川魚のつかみ取りで、内臓を自分で出せた。</p> <p>⑦川魚のつかみ取りで、命の大切さを知った。</p> <p>⑧トレッキングで自然の良さを知った。自然での工夫も知った。</p>
八重東小学校	
<p>①ぬるぬるしてつかみにくかったけど、つかみ取りは楽しかった。(14)</p> <p>②いろいろな植物の名前を知ることができてとてもよかった。(12)</p> <p>③友達と協力して活動することの楽しさが分かった。(9)</p> <p>④他の学校の人達と交流を深めることができた。(8)</p> <p>⑤魚の内臓を取り出すのがかわいそうだったけど、おいしく食べることで嬉しかった。(7)</p>	<p>⑥命に感謝することができた。(7)</p> <p>⑦協力して魚を捕まえることができた。(6)</p> <p>⑧命の大切さや仲間と協力することの大切さが分かった。(4)</p> <p>⑨北広島町の自然の豊かさや、いろいろな鳥の鳴き声を教わることで嬉しかった。(4)</p> <p>⑩火をおこすことができて、勉強になった。(3)</p> <p>⑪自分で捕まえた魚を自分で焼いて食べることで、とても嬉しかった。</p>
壬生小学校	
<p>①アマゴをたくさんつかまえたこと。(3)</p> <p>②アマゴがぬめぬめしていた。</p> <p>③塩焼きはとてもおいしかった。</p> <p>④つかみ取りをもっとしてみたい。</p> <p>⑤川魚にさわられてよかった。</p> <p>⑥アマゴは逃げ足がはやい。</p> <p>⑦トレッキングで、めずらしいチョウにあえた。</p> <p>⑧八幡湿原は暑かったけど、いろんな生き物や植物を見ることができて良かった。</p> <p>⑨さかなのことを知ることができて良かった。</p>	<p>⑩自分たちでとって、とりたてのアマゴを食べておいしかった。</p> <p>⑪めずらしい植物や生き物の名前を知ることができて良かった。</p> <p>⑫新しい友達があった。</p> <p>⑬いろんな人と関わって活動した。</p> <p>⑭魚はきらいだけど、食べてみるとおいしかった。</p> <p>⑮とった魚を取れてない人に譲ることができた。</p> <p>⑯おいしかった。</p> <p>⑰たくさんの自然を見つけ、自然を生かしてできたことがたくさんあってよかった。</p>

おどろいた一言

芸北小学校 山脇 歩子

「いっしょに探そう。」

とつぜん一班の白砂さんが私に話しかけてくれました。この言葉をかけてもらった時が、四日間で一番心が動いたしゅん間でした。

ついに、三泊四日の民泊体験の最終日になってしまいました。この日はアマゴのつかみどりでした。私は、同じ班の友達が一人しかいませんでした。その時に、その友達の体調が悪く私は一人でいました。このままだと私は、同じ芸小の人としか関わることができずに終わってしまいます。「今から友達を作るのは大変だ。」そう思いあせっていました。他の人たちはいろいろな人と関わっていて、私もその人たちのように、いろいろな人と関わりたいと思っていました。そんな中、

「いっしょにさがそう。」

と言われ、とてもおどろいたのです。この言葉をきっかけに、私は白砂さんと一緒に、どのいけすにどの魚がいるか考えることができました。二人で納得のいくように考えました。しかし、考えたものとは違い残念でしたが、一緒に活動ができ、とても印象に残っています。

一人ぼっちの私を救ってくれた白砂さんは、私にも話しかけてくれたし、他の人にも気軽に話しかけ、いつでも笑顔で話していました。このようなことは私は苦手です。たくさんの人に話すということは、とても難しいし大変なことだと思います。そのようなことができる白砂さんは同学年に思えませんでした。

私のふだんの生活と比べてみると、白砂さんのようにたくさんの人に話すことや笑顔で話しかけると言うことはあまりできていないと思います。初めて会った人の前だと緊張してしまうので、はずかしくてなかなか話しかけることができません。本当は自分から話しかけたいのに、どうしてもしゃべり始めることができません。そのため、話しかけられてから話す。そうして友達になる。ということが多いのです。今回も同じような事だったと思います。そう考えると白砂さんは、とてもがんばって友達を作ることができる人だということがわかります。

しかし、この作文を書きながら民泊の中で自分から話すということができた時もあることに気づきました。八幡湿原を歩いた時、大朝小の石浦さんに、

「中川先生はやさしい？」

「宿題はどのくらいでる？」

と、ふだんの学校生活の事などを聞くことができました。せっかくいろいろな学校の人と関わる事ができるのに、何も話さず歩くと楽しく交流ができないので、このようなことを話しかけたのだとふり返りをしながら思います。

今回の民泊活動は、とても成長した三泊四日になりました。できている自分もいる。だからこそ、白砂さんのように本当の力にしていきたいです。

助けてもらった民泊

芸北小学校 佐々見 愛結

「ありがとうございます。」と何度も思いました。

七月十一日から十四日まで、北広島町の友達と民泊体験をしました。八重東小学校と大朝小学校、そして芸北小学校の3つの小学校が集まって活動しました。

二日目に行われた人間関係づくりの後に対面式があって、今回お世話になる森崎さんに会いました。目が合ったとき、手をふってくださいました。森崎さんはとてもやさしく、夫婦でとても仲が良くていつも笑っておられます。車に荷物を積む時、手伝ってくださいるところから優しさは始まっていました。私はとてもうれしかったので、きちんとお礼を言いました。

お家は、豊平の長笹という所で、ながめが良くとてもすがすがしい気持ちになりました。家に上がらせてもらおうと、玄関に「ようこそ」と書かれていて、その下に私たちの名前を書いてくださっていました。私は、森崎さんにサプライズをしてもらった気がして、思わず声に出して、

「すごい。」

「うれしい。」

と言ってしまいました。森崎さんが、サプライズをしてくださるほど、楽しみにしてくださっていたことが伝わってきました。私はとてもありがたくなりました。そして楽しみにしてくださっているのだから、しっかりお行儀を良くしたり、ルールを守ったりして失礼がないように過ごして、森崎さんのご夫婦にも楽しんでもらおうと強く思いました。

二日目は、バーベキューをしました。にんにく・玉ねぎ・人参・ピーマン・キャベツ・ソーセージ・肉など、いろいろな材料を買っておいてくださいました。しっかり好き嫌いせずたくさん食べようがんばって食べました。ご飯を食べ終わってから、おばあちゃんとおじいちゃんが、

「手伝わんでいいけえ、おふろ入ったりカープ見たりしときんさい。」

と言ってくださいました。とても気をつかってくださっていることが伝わってきて、なんだか申し訳なくなってきました。だから、最後まで手伝えることに決めました。森崎さんは、

「ありがとう。すまんねえ〜。」

と言って喜んでくださいました。自分で考えて決めて動くことができたから、喜んでくださったのかなと思いました。

三日目の朝のご飯は、サケ・レタス・たくあん・みそ汁・ヨーグルトなど、たくさん出てきました。しっかり元気をつけるために、たくさん出してくださったのだと感じました。だから、しっかり食べて元気になってたくさん話したいと思い、全部食べ切りました。

そしていよいよ三日目の活動です。この日のことが私は一番心に残っています。理由は八幡湿原のウォーキングの時に、いちばん友だちをつくることができたからです。そして、たくさん勇気を出したし、出している人を見つけたか

らです。

私は A グループの「松チーム」でした。A グループは一班と三班と、四班の私と八重東小の沖野さんと大朝小の柏田君が集まった班でした。私は最初、沖野さんが同じ学校の友達のところに行ったので、一人で後ろにいました。話し相手がいなくなるととても寂しい思いをしていました。その時、先頭にいた柏原さんと大朝小の白砂さんが後ろと横に来ました。そして私がきんちょうしていると、白砂さんが、

「昨日、何食べた？」

と話しかけてくれました。私はすごくうれしくて、びっくりすると同時にすごいと思いました。それから白砂さんと仲良くなって友達になることができました。そして深井さんが後ろに来たとき、一緒に大朝小の林さんが来ました。四人で話していると林さんとも友達になれました。白砂さんが話しかけてくれなかったら友達になれていなかったのも、白砂さんのおかげだと感じました。

私は、白砂さんや、林さん、森崎さん、たくさんの方に話しかけてもらったり、気を遣ってもらったりしてたくさん助けてもらいました。私は今回助けてくれた人ほどできていません。だからこそ、今度は自分がその人たちのようになれるようにがんばっていきたいです。

活動班の班長は・・・

芸北小学校 岡本 夏津

「しーん・・・。」

活動班の班長を決める時、誰も手が上がりませんでした。僕はその時、気まずいと感じていました。

この日は、民泊体験の二日目。この静寂は芸北文化ホールで行われた人間関係づくりの時の出来事でした。学校紹介でやった劇が終わるまでは順調でした。しかしその後、班で丸くなり班長を決める時、まさにこういう状況でした。ぼくを含め、みんなが班長になろうとしていなかった理由は、たぶん同じです。それは、班長になってみんなをまとめる力はあったとしても、班長にすすんでなる勇気がなかったり、恥ずかしかったりしたから手を上げることができなかったのだと思います。当たりさわりのないことしかしゃべってなくて関わりを深めていませんでした。だから、まだみんなのことを信頼することができず、恥ずかしかったり勇気がなくて班長になれなかったりしたのだと思います。

そんな中、動きがありました。八重東小の石田君です。石田君は、みんな班長になりたくないと思ってしーんとしていた時に自分からすすんで、

「じゃあぼくが班長やる。」

と言ってくれました。その後、みんな班長にならなくてすんでほっとしたのか、急に人が変わったかのようにしゃべり出しました。ぼくも正直に言うとはっとして、「よかった～。」

と思ってしまいました。

実際に石田君は、並ぶ順番を考えている時に、
「じゃあ、しおりに書いてある名前順でならんで。」
という指示をかけてくれました。他にもシェアリングの時にぼくが、
「どういう順番で言っていく？」
と、班長の石田君に聞いてみると、
「時計回りでいこう。」
という声かけをしていました。

石田君のように班長を決める時、手を挙げていればぼくもこんな風にできていたかもしれません。でも今、石田君の気持ちを考えてみると、みんな最初手を挙げていなかったのも、石田君も最初は班長になる勇気もなくためらっていたと思います。だからその後、石田君が班長になると決まった時、ぼくが「ほっとした。」と「よかった～」とと思っていたことは申し訳ないと思いました。そしてその石田君は、勇気がない・恥ずかしいという妨げをのりこえ、そして人に言われてやらずに自分からすすんで

「ぼくが班長をする。」
と言ってやったのです。ぼくにとっては百点です。石田君はそれができていたうえに、さらに声かけで、
「時計回りにいこう。」

というような臨機応変さを見せていました。それをふり返って、ぼくは改めてすごいと思いました。同じ五年生だけど、石田君のようになれるように努力します。

こうして、二学期がんばること、自分に足りないことを見つけることができたので次の機会に生かそうと思います。

民泊で成長した私

大朝小学校 橋渡 空

1日目は、大塚ふれあいセンターに泊まりました。まず、カレー作りをしました。わたしは米とぎ担当でした。みんなの分を合わせると14合なので、7合7合に分けてとぎました。7合もとぐのは初めてでしたが、おいしい米が炊き上がるようにとぐのをがんばりました。野菜の皮をむいたり、切ったりもしんちょうにやりました。出来上がりはとてもおいしかったです。わたしの的には他の班よりもおいしくできました。その後は、プールに汗を流しに行きました。わたしは5年生のみんなと夜にプールに行ったことがないので、みんなと泳いだり、ミニゲームをしたりすることでより良い思い出作りができたと思います。夜、たたみで寝るのはとても痛かったですが、それも良い思い出です。

2日目が始まります。この日は他校の5年生と顔合わせをします。ドキドキしながらバスに乗ると八重東小学校の5年生がいました、バスはとてにぎやかでした。芸北小学校の5年生も乗り、バスはもつとにぎやかになりました。芸北小学校から芸北文化ホールまではバスで一分ほどでした。人間関係づくりが始まりました。学校紹介で、芸北小学校は、学習した内容が伝わるように、実際にヘルメットを使って紹介していたのが心に残りました。わたしが一番心に残ったゲー

ムは「人間知恵の輪」というゲームです。5班の歩乃佳さんたちと協力してやりました。他の班の人たちに解けないような、ふくぎつな輪を作りました。班のみんなとの距離も縮まって、みんなが笑顔になりました。

いよいよ対面式です。わたしたちのグループは、千代田の吉見さんの家に行きました。荷物を置いてトランポリンで遊びました。その後、吉見さんのお孫さんとかき氷をつくって食べました。わたしはブルーハワイ味を食べました。夜はそうめん流しをしました。吉見家はわたしの家とちがってそうめんだけでなく、トマトやきゅうり、ゼリーも流すことにびっくりしました。近所に住んでいるお友達もいっしょに、そうめん流しやおにごっこなどをしました。楽しかった夜は、もう終わってしまいました。

3日目は八幡湿原トレッキングでした。わたしはB班で班の名前はホウジロという鳥の名前でした。ほおが白いので、ホウジロというそうです。担当の足利さんは楽しいクイズを出してくださり、ペースもゆっくりで美しい風景や植物の観察を存分に楽しむことができたのが、とても心に残っています。ハナショウブとカキツバタはとても似ています。見分け方は花の部分に黄色がかかっているのがハナショウブで、花の部分に白がかかっているのがカキツバタだと教わりました。

民泊家庭にもどり、夕飯はハンバーグでした。なんと！ご飯をかまどでたきました。アツアツのご飯におこげがまじっていて、すいはんきでたくご飯とは一味ちがってとてもおいしかったです。また、夕食の後花火もしました。お孫さんともすっかりうちとけることができました。またまたなんと！お孫さんのお父さんが星にくわしいと聞いたのでさっそく大きな天体望遠鏡で夜空の星を見ました。夏の大三角や人工えい星、木星、土星などを見ました。おとめ座は木星の近くにありました。

4日目は、アマゴのつかみどりをしました。大暮養魚場には三種類の魚がいるそうです。レモンサーモン、アマゴ、ヤマメだそうです。わたしは、レモンサーモンとアマゴのつかみどりをしたことがあります。アマゴとヤマメはいっしょに泳ぐことはありません。わけはアマゴは瀬戸内海でおよぐ魚で、ヤマメは日本海でおよぐ魚だからだそうです。初めて知りました。命のお話を聞いて、「わたしはいろいろな生き物の命をいただいて生きているのだなあ」と改めて感じました。この後、閉会式でわたしは児童代表あいさつをする予定だったので、ドキドキしていました。つかみどりでは今回たくさんつかめる気がしていました。すると、本当にたくさんつかめて合計6匹とりました。1匹は土の穴におとして、1匹は手からはなれて落ちてしまいました。苦勞してとった魚は、塩の味がきいておいしかったです。とうとうわたしの児童代表あいさつがやってきました。とても緊張しましたが、無事に終えることができ、ほっとしました。

こうして三泊四日の民泊体験活動が終わりました。お別れ式では、他校の友達や民泊家庭の方とたくさんお話をしました。お別れはさみしかったです。わたしはこの民泊を通して、ふだん、家では自分からしない手伝いを民泊家庭で実際にすることで、自分の家に帰ってからも自分からしようと思えるようになりました。わたしは成長したと感じています。

北広島町のよさをさらに知った民泊

大朝小学校 芥子田 悠香

いよいよ民泊体験活動1日目になりました。五時間目から、民泊に行く準備をはじめ、大朝小学校を出発して大塚ふれあいセンターに着きました。

さっそくカレーづくりに取りかかりました。まず、野菜を切りました。みんなたまねぎで涙が出ていました。野菜と肉をいため、たまねぎがシナツとなったら、水を入れました。カレーの味は、母さんがつくったカレーのようにおいしくできました。その後プールに行き、いろんなゲームをしました。わたしは初めて25mを泳ぎきることができました。そして、大塚ふれあいセンターに帰り、ゼリーを食べ、みんなで寝ました。

2日目が始まりました。バスで芸北文化ホールに行きました。それから、開会式をしました。私は児童代表あいさつをしました。きんちょうして少し早口になってしまいましたが、やりとげたと思いました。開会式が終わり、班に分かれて、ゲームをしたりおべんとうを食べたりしました。他校の人とも仲良くなり、うれしかったです。次に、対面式をしました。民泊家庭の若本さんと対面し、楽しくお話をしながらお家へ行きました。民泊家庭へ着き、ご家族をしようかいしていただきました。わたし達用のかごやサンダルや麦わら帽子を用意してくださっていて、優しい方だなと思いました。三時半くらいから、農業体験をし、なすび、いんげん、きゅうりを収穫しました。その後、夕食の焼き鳥の仕込みをしました。もも肉、鳥肉、野菜をくしにさしました。さらにその後、犬のはるみの散歩をしました。すごく、遠い道のりを歩きました。夜は、焼き鳥を食べました。そして、ふとんや蚊帳の準備をしました。トトロの世界にいるようなお家の造りでした。階段の下から、「まっくろすけ出ておいで、出ないと目玉をほじくるぞ。」と大きな声で言いました。すごくおもしろかったです。

3日目が始まりました。トレッキングのとき、案内の方が自然の力でできた川などを教えてくださいました。ノハナショウブなど花の名前を教えてくださいました。トレッキングの後は、再び若本さんと合流しました。家に帰って犬の散歩をしました。これで4回目の散歩です。つぎは、近道して帰りました。今日の夜ご飯は、流しそうめんでした。きゅうりも流れてきました。その後、花火をしました。みんなで、「わぁーきれいだね」などと話しました。線香花火でだれが最後まで燃え続けるか、競い合いをしました。わたしが最後まで残りました。良い思い出です。

4日目が始まりました。アマゴのつかみどり体験をしました。最初に火起こしをしました。なかなか火が起きないので、まわりの落ち葉など燃えやすいものを入れて、小枝、大きい枝、すみの順番でやるとすぐにつきました。そして、つかみどりをしました。アマゴはぬるぬるしてつかみにくく、すばしっこいため、石にすりつけて捕りました。そして昼ごはんは、おにぎり、アマゴ、みそ汁などを食べました。おいしかったです。

芸北文化ホールでお別れ会をしました。3日間すごさせてもらった、民泊家

庭の方とお別れするのはさみしかったけど、感謝の気持ちを伝えてお別れすることができました。私は、民泊家庭の方がやさしくしてくださり、北広島町の人のよさを知りました。また、自然を生かした体験をして、北広島町は自然が豊かだなと思いました。私は改めて、将来今住んでいる大朝に住みたいなと思いました。それから、わたしはこの民泊を通してすごく成長したと思うことがあります。それは児童代表あいさつをやりとげたことです。なぜなら、わたしは今までいやなことやはずかしいことから、ずっと逃げてきたからです。練習から本番までの道のりは長かったけど、「やってみたらできる。自分を信じて、たくさんのことをやりとげていきたい。」と学びました。また、このような機会があったら、ただ「私はやりたい。だからやる。」というだけでは伝わらないと分かったので、なぜやりたいのかその理由を、みんなに伝えていきたいと思いました。みんなは、「今まであきらめてきたのに、どうして今やりたいの。」と聞いていたと思います。私は、みんなからどう言われようと絶対やりたいと思っていました。そんな中、みんなは正直にわたしに対してきびしい意見も言っていて、なみだが出てしまいました。それでもみんなは最後に、代表あいさつに私を選んでくれたので、「絶対にやりきろう。」と思いました。これからもこの体験を忘れず、生活していきたいと思います。私は心から「やれてよかった。」と思いました。

いろいろな経験をした民泊体験

大朝小学校 柏田 湊

出発式が終わりました。重い荷物を持って大塚ふれあいセンターに行きました。少しゆっくりしたら、さっそく夕食のカレーの準備をしました。ぼくは、家からズッキーニとにんじんを持って行きました。ぼくは、カレーを作るのも食べるのもとても楽しみでした。まず、ズッキーニやにんじん、じゃがいも、きゅうりなどを切りました。それぞれ切り方がちがいました。たまねぎを切ったとき、とても目にしみてなみだが出そうになりました。次に、カレーのルーや野菜を入れてにこみます。そのときなべに手があたって、すごくあつくてやけどをしてしまいました。苦労しながらやっとできたカレーは、トロトロしていてとてもおいしかったです。寝るときになってもずっとねむれず、そのまま2日目になってしまいました。

2日目の人間関係づくりでよかったと思ったのは、みんなと仲良くなれたところです。特にぼくは班長になり、みんなをまとめることもできたので良い経験になりました。他にもゲームなどをする中で、親しくなれたと思います。

その後の民泊家庭での田舎暮らし体験では、山へわらび採りに行ったり、木登りをしたりしました。ぼくが一番楽しかったのは木登りです。学校で登る木より高く、一直線で手では登れない木でした。そこで木登り用の道具を使いました。機械をつかったわけではなく、自分の足と手を使って登る道具だったので、とてもつかれました。そして、次は宮本さん家の木とちがう人の家の木を見比べると、宮本さん家の木は大きな葉がいっぱいついているため、土砂くずれがしにくいと

いうことも教えてもらいました。とても良い勉強になりました。そして最後にまきわりをしました。ぼくと中屋原さんと峰光さんは、大きなおのを使いました。大きなおのは重かったけど、ちゃんと真ん中にふりおろすときれいにわれるので、とても達成感があって楽しかったです。

2日目の田舎暮らし体験では、まずわさびを取りに行きました。この前の大雨で少し少なくなってしまったようでしたが、すごくきれいでした。次に、野球のバットにもなる木を見に行きました。ぼくは、「これがバットになるのか」と不思議に思いました。そして、この木がちゃんとしたバットのように強くなるまで、約百年もかかるそうです。ぼくは、「バットを作っている人は、苦勞して作っているのだな」と思いました。今日は、いろんなことを体験したので、とてもつかれてぐっすりねむることができました。

そして、ぼくが一番楽しみにしていた4日目が始まりました。バスに乗り、大暮養魚場へ向かいました。魚の種類の見分け方について教わりました。ぼくはヤマメとアマゴの見分け方を知らなかったので、学べて良かったです。最初はアマゴとヤマメしかいないと思ったけど、本当はもう一つの種類のレモンサーモンという魚がいることを初めて知りました。最後につかみ取りをしました。魚ははしっこの方に逃げていきました。そして何より、アマゴは速いし、ぬるぬるして手がすべり、はなしてしまうこともありました。だから、アマゴのつかみ取りはきわめてむずかしいと感じました。そして、やっとつかまえた魚は、とてもおいしかったです。みんなと食べたから、さらにおいしく感じたのかもしれない。そして、感謝して食べることができました。

この民泊体験活動を通して、魚、自然、山の植物の勉強など、いろいろなことを知ることができました。初めて体験することもたくさんあったので、良い経験になりました。

ハイタッチができたよ

新庄小学校 森田 野子

7月18日から21日まで民泊体験活動を行いました。

1日目は学校に泊まりました。放課後私達は4つの班に分かれてカレーライスとサラダを作りました。ちゃんとできるか少し不安だったけど、みんなで協力してとても上手にできました。カレーライスは初めて最初から最後まで作ることができたのでうれしかったです。自分達で作った料理はとてもおいしかったです。

夜、一日のふりかえりをしました。みんなで料理をしておしかったことや一緒にお風呂に入ったこと、たくさんおしゃべりしたことなど書きたいことばかりで、しおりの中があっという間に全部うまりました。

2日目はいよいよ芸北に移動です。朝みんなでラジオ体操をし、朝食を食べて出発です。

でも私がこの民泊で一番心配していたことがあります。それは、他の学校の人と友達になれるかどうかということでした。

芸北文化ホールでは、人間関係づくりをしたり同じ班の人達と昼食を食べたりしました。そして対面式がありました。私がお世話になる豊平の中さんはどんな

人なのか、はじめは不安でしたが、会って話をした時、笑顔で声をかけてくださりとてもやさしい方だったので安心しました。しかし私はこの日、誰とも話ができなくて結局友達ができませんでした。

中さんの家に着いて、みんなで夕食を作りました。水ゼリーという透明なゼリーやだんご汁などを作りました。私にとっては初めての体験で新鮮でした。食べて見ると、とてもおいしくて思わず蒸し暑さがふっ飛びました。

私は中さんに思い切って今日友達ができなかった話をすると、「少し勇気がいるけど、がんばって話しかけてみたらどう？だいじょうぶだよ。」とアドバイスして下さいました。

3日目の朝、自分達でたまご焼きを作って食べ、再び芸北に向かいました。この日は八幡湿原でトレッキングです。暑い中を長袖・長ズボンで歩いたので、その倍も暑く感じられました。でも、見るもの触るものがすべて珍しいものばかりで、芸北にはこんな生き物がたくさんくらしているのかと驚きました。

トレッキングをしている時、私は中さんに言われたことを思い切ってやってみました。すると、一言声をかけただけで、次々に相手から話しかけてくれるようになったのです。友達ができました。わたしは嬉しくて嬉しくて心の中で、「やったあ。」と叫びました。

豊平に帰って中さんにさっそくそのことを話すと、「それはよかったね。」とニコニコしながら聞いて下さいました。

3人でクッキーという名前の犬の散歩に行き、みんなでお風呂に入ってさっぱりした後、広島風お好み焼きを作りました。ナムルやスープなどもありました。寝る前には花火もしました。ねずみ花火、はち花火、それに線香花火。どれもきれいでした。中さんは星座の話や干支の話もして下さいました。

民泊体験活動最後の日になりました。この日は川魚のつかみ取りをしました。でも昨日とちがって、私の心の中はずいぶんウキウキしていました。

私は魚が苦手なので、先生が取って下さった魚をもらって焼きました。さっきまで生きていたところを見ていたので、少し食べにくかったけど、食べてみると意外においしかったです。新しくできた友達とも楽しく話ができました。

そしてついに中さんとお別れの時間になりました。中さんはとても優しく料理もおいしくて、犬のクッキーもかわいくて最高でした。でも、もうお別れしないといけないかと思うと、とてもさみしく感じられました。豊平での3日間で私の家では絶対にできない体験をたくさんさせてもらいました。最後の最後に中さんとお話をして、野外活動で楽しかったことも全部伝えることができました。私はさみしくて泣きたい気持ちになりました。

バスに乗りました。泣いている人もいました。バスから下りる時、私は新しく友達になった人とハイタッチをしました。そして新庄小の5年生のみんなで思いっきり手をふりました。

本当に本当に楽しい4日間でした。この4日間で私はみんなと協力するということを学びました。みんなでやると、何もかも倍に楽しさが感じられたからです。そして、友達ができよかったです。勇気を出してみるということも学びました。新しくできた友達を大事にしていきたいです。

初めての民泊体験活動

新庄小学校 栗栖 柊威

7月18日から21日まで、ぼくは民泊体験活動に参加しました。

1日目は、学校に泊まりました。夜ご飯はカレーライスでした。友達と作った料理はとてもおいしかったです。夜はお風呂に入っていい気持ちになりました。

2日目、まず芸北文化ホールで開会式がありました。学校紹介で自分が言う時に少しきんちょうして、あまり声が出せなかったけど、周りのみんなが大きな声を出していたからすごいなと思いました。今度はもっと大きい声で言ってやろうと思いました。

人間関係づくりでは、班ごとに行動するので、初めて会う人がたくさんいてとてもきんちょうしたけど、少し話をしたらすぐに仲良くなれたのでよかったです。

対面式をした後、豊平の中尾さんの家に行きました。行く時に2つの場所に連れて行ってもらいました。一つ目は分水嶺です。ぼくはどんな所なのか知らなかったけど、ここが、日本海に流れる川と瀬戸内海に流れる川の境目であることを教えて下さいました。もう一つは吉川元春のお墓や城跡がある場所です。ぼくは歴史のことはあまり知らなかったけど中尾さんが、北広島の昔のことをたくさん教えて下さったので、とてもよくわかりました。

中尾さんの家に着くと野菜の収穫体験をしました。きゅうりやなすび、ズッキーニなど、たくさん実っていました。

ぼくたちはまず最初にきゅうりを取りました。ほとんどが大きなきゅうりでびっくりしました。次になすびです。なすびはまだ小さいものもあったけど、中にはかなり育っているものもあり、スーパーで売られているものよりも大きかったです。次は豆取りです。豆は、きゅうりやなすびに比べると少なかったけど、少しは収穫できました。そして最後はズッキーニを取りました。ズッキーニは、きゅうりの大きさとほとんど同じだったので、びっくりしました。かごに野菜を入れて持ったら、とても重たかったので持って帰るときに大変でした。

晩ご飯は、その日に取った野菜を食べました。ぼくは、ズッキーニを食べたことがなかったので、食べることができてよかったです。思ったよりもおいしかったです。

3日目は、芸北の八幡湿原でトレッキングをしました。ぼくはトレッキングをしたことがなかったので、どんなことをするのか楽しみでした。トレッキングでは、ぼくが知らなかった生き物や植物がたくさん見られたのでよかったです。ここでは、他の学校の人とおしゃべりしながら歩きました。たくさんの人と仲良くなれたのでよかったです。

トレッキングが終わって中尾さんの家にもどると、桜の木の苗を植えました。中尾さんの家を訪れる民泊児童は記念としてみんな植えるそうです。穴をほる時に二人で穴をほって、一人が石をどかす仕事を交代でしました。穴をほる時すぐに汗をかいたし、石をどかすときは大きな石がたくさんあったので大変でした。でも終わった後は、気持ちよかったです。ぼくたちの植えた桜の花が咲く、何十

年後かが楽しみです。

4日目は、魚のつかみ取りをしました。ぼくは一人で5ひきもつかまえました。でも、近くいた友達は、10匹きくらいつかまえていたので少しくやしかったです。つかみ取りをした魚を焼いて食べたら、とてもおいしかったです。

ぼくは、この4日間の民泊体験活動で、魚のつかみ取りをしたり桜の木を植えたり、今までやったことがなかったことに、ちょう戦することができました。また、北広島のめずらしい生き物や花を見たり歴史のことを知ることができて、とてもいい体験になりました。

体験活動でお世話になった人や民泊家庭の中尾さんにありがとうございましたと、言いたいです。

思い出いっぱいの民泊体験活動

新庄小学校 大島 夕奈

7月18日から21日まで民泊体験活動をしました。私は前からその日をずっと楽しみにしていて、ドキドキワクワクが続く日を過ごしていました。

1日目。待ちに待った民泊当日。朝から早く放課後にならないかと待ち遠しくしていました。そして、ついに放課後。私達は最初に夕食の準備をしました。メニューはカレーライスでした。班の友達で役割分担して、にんじんやじゃがいもを切ったりサラダを作ったりしました。そして、オリジナル料理が完成しました。食べてみると、家で作るのとは少し味がちがっていてとてもおいしかったです。やっぱりみんなで作って食べると、もっとおいしくなるんだなと思いました。その後、グリーンヒル大朝にお風呂に入りに行き、寝る時間になった頃、友達といろいろなことを話しました。学校で寝るのはもちろん初めてなので、なかなか眠れず10時過ぎまで起きていました。

2日目。ちゃんと6時に起きることができました。着替えをしたりふとんをかたづけたりして朝食を食べました。メニューはチャーハンとスープでした。チャーハンは量が多くて残してしまっただけおいしかったです。

バスに乗って芸北文化ホールに着きました。新庄小学校の他には、川迫小学校、壬生小学校の人がいました。

学校紹介が終わって、8班に分かれました。私は1班でした。1班は壬生小4人、新庄小2人の班でした。目標を決めたり、班長、副班長を決めたりしました。私は副班長になりました。班長のサポートをがんばろうと思いました。

対面式になりました。私は豊平の若本さんの家に民泊させてもらうことになりました。どんな人かなとずっと思っていたのですが、対面式で若本さんの顔を見ると、とてもやさしそうな人でした。早くおうちに行きたいな、とうずうずしながら車に乗りました。

若本さんは鳥の観察が大好きな方で、途中でめずらしい鳥や北広島のきれいな景色をたくさん見せて下さいました。

若本さんの家に着きました。さっそく私達にくつ、帽子などを用意してくれていました。とても大きな家で母屋とはなれがあり、私達ははなれに荷物を置きま

した。

その日の夕食は焼き鳥で、私達はくしに野菜やお肉をさすお手伝いをしました。焼いて食べると、すごくおいしくて思わずみんな笑顔になりました。

3日目。その日は八幡湿原のトレッキングでした。湿原に着くとトレッキングが始まりました。危険な植物やめずらしい生き物や花など、ガイドの方から湿原のお話をたくさん聞かせてもらいました。私が3年生の時、夢プロジェクトで行ったことのある「おーいの丘」にも行きました。みんなで大きい声で「おーい。」とさけんだら、ひびいたりひびかなかったりして、とてもおもしろかったです。

その日の夕食は流しそうめんでした。次々に流れてくるそうめんをとったりそうめんと一緒に流れてくる具をとったりしましたが、とれたりとれなかつたりで、なかなかおもしろい体験ができました。最後にはデザートのおぶどうも流れてきました。たくさんとって口の中に3人全員がぶどうをつめ、「ハイチーズ」で写真をとってもらいました。写真を見ると、3人とも顔がとてもおかしくて、大笑いしました。

4日目。民泊体験活動最後の日になりました。その日は芸北大暮養魚場でのつかみ取り体験でした。まず、あまごの特ちょうや火のおこし方などを教えてもらいましたが、私は命をいただくというお話がとても心に残りました。

いよいよつかみ取りが始まりました。私は学校の行事でつかみ取りをやったことがあります。ここでは石や岩があって大変で、石のすき間に手を入れて無理やりつかんだりしました。触ったときのぬるぬる感がたまりませんでした。そして、やっと3匹ほどつかまえることができました。3匹だけでもつかまえられるうれしかったです。

つかまえた魚の内臓をとったりわりばしをつきさしたりするのが難しかったです。そして、班ごとに火おこしをしました。自分達だけで火をおこすのは、思っていたよりも大変でした。私は副班長なので、魚を焼いて焼き加減も見たりしました。どれがいい焼き具合なのか見分けるのが難しかったけど、食べてみると、とてもおいしかったし班の人にも喜んでもらえてよかったです。

芸北文化ホールで若本さんとお別れするとき、写真と手紙をもらいました。その写真には「ジョウビタキ」いう鳥が写っていてジョウビダキの特ちょうが書かれていました。とてもかわいい鳥でした。その写真を見て私は若本さんとの3日間の思い出が次々と頭にうかんできて、あんなに楽しかった場所から離れていくのかと思うと、いっそうさみしくなりました。でも、ぜひまた友達と一緒に豊平を訪れてみたいです。

今回の民泊体験活動で、私はこれまでやったことのない経験をたくさんさせてもらうことができました。いい思い出がいっぱいできました。町内の美しい自然や景色にふれたり、温かい人と交流することがたくさんできました。またいつかみんなで民泊体験をしたいなと思いました。

楽しかった民泊体験

川迫小学校 新宅 萌華

1日目は、学校に泊まりました。まず、お買い物です。私は、計算係だったので、間違わないように頑張りました。

1日目のメニューは、肉じゃがと、鮭の塩焼きでした。味がしみ込んでとてもおいしかったです。

2日目は、いよいよ民泊家庭の人とご対面！その前に、一緒に体験する、小学校の子たちとご対面、自己紹介をしたり、遊んだりして交流しました。でも、深く交流できなかつたので3日目は、もっと頑張つて交流しようと思いました。

さて、交流会の後は、待ちに待った民泊家庭の人との対面！私たちは、竹本さんという人の家へ、泊まりました。竹本さんは、とてもやさしそうな方でした。

晩ご飯は、カレーライスでした。畑でとれた野菜を使って作りました。新鮮な野菜がカレーと混ざりあつておいしかったです。

3日目は、八幡高原を、歩きました。めずらしいチョウを見ました。名前は、覚えていませんでしたが、後から聞いて、アサギマダラという名前だとわかりました。それから、ミヤマカラスアゲハというチョウを見ました。真っ黒で、黒い女王様みたいでキレイでした。

その日の夕食は、手作りギョウザでした。一度作った事があつたので、簡単にできました。自分で作ったギョウザは、とてもおいしかったです。夜には、花火をしました。楽しかったです。

4日目は、いよいよ最終日、アマゴのつかみ取りです。民泊体験の中でアマゴのつかみ取りが、一番楽しかったです。

大暮養魚場という所で体験しました。

まずは、火おこしです。私はA班で、みんな上手だったので、一番早く火がつきました。

そして待ちに待った、つかみ取りです。ぬれてもいい靴にはきかえて、小川に入りました。とても冷たかったです。岩の下に、手を突っ込んで隠れているアマゴを、ギュッとつかみました。ヌルッとして逃げられそうだったので、さらに力を入れてやっと捕まえることができました。

次は、塩焼きにするための準備です。やっぱりみんなが嫌がるのは、内臓のとり出しです。えらの間に、割り箸を突き刺して引っ張ると腸などの内臓が、一気に出てきて面白かったのですが、少しかわいそうでもありました。

そして、いよいよ焼く時です。「さあ焼くぞ！」焦げがついたからもういいかな、というところでいただきました。塩がよくきいていて、とてもおいしかったです。

ここでは、一つの生命をいただくということの大切さについて、教えていただいたので、せっかくいただいたアマゴを、最後まで綺麗に食べることができました。

そして、民泊家庭の人とお別れです。スクリーンで活動の様子をまとめたものを見たり「ビリーブ」を歌ったりしました。お別れ会を終えて、バスに乗って

帰りました。もう終わってしまうのかと思ったら、少し悲しくなりました。

この3日間、八幡高原トレッキングや民泊家庭での田舎暮らし体験などもでき、とても楽しかったです。北広島町のよさを発見できた、体験活動になりました。この体験のおかげで私は、勇気をもらうことができました。早く六年生になって修学旅行に行ってもっとたくさんの友達を作りたいです。

お世話をしてくださった、たくさんの方々のおかげでこの体験活動ができました。本当にありがとうございました。

思い出に残った民泊体験

川迫小学校 崎原 彩心

民泊1日目は、5・6時間目にマンソーに行きました。「肉じゃが」と「鮭の塩焼き」の材料を買いました。計算機で計算をしながら買い物をしました。まだお金が残っていたので、デザートも買いました。

夜ご飯は、みんなと、協力して作りました。「肉じゃが」は、じゃがいもに味が染み込んでいて、とてもおいしかったです。鮭の塩焼きは、塩加減がきいていておいしかったです。多川教頭先生が、サービスでやまびこ学級が育てたヤングコーンを作ってくれました。とてもおいしかったです。

夜は、水川さん・新宅さん・炭村さんと一緒に保健室で寝ました。

民泊2日目の朝ご飯は、お湯を入れただけで作れるチャーハンとスープとフルーツポンチと乾パンでしたが、まだ夜ご飯がお腹に残っていたので、そんなに食べられませんでした。

9時に学校を出て、バスに乗って芸北文化ホールに行きました。壬生小学校や新庄小学校の人たちと一緒にでした。

人間関係づくりグループの班に分かれて自己紹介や班長や副班長を決めました。私は、副班長になりました。班長は、壬生小の和泉さんという人になりました。班のみんなと協力して活動していたらだんだん仲良くなっていたので、よかったです。

昼からは、民泊家庭の竹本さんと会い、民泊家庭に行きました。ログハウスみたいな家で、可愛い家でした。その日に、竹本さんの子供の、ののかちゃんを保育所にむかえに行って、家の近くの川に入りました。冷たくて気持ち良かったです。夜ご飯は、夏野菜カレーでした。とてもおいしかったです。夜は、新宅さんと寝ました。

3日目は八幡湿原でトレッキングをしました。歩きながらいろいろな植物の勉強をしました。クイズをしながら危ない植物や木の年齢などを学びました。

お昼には、昔の家の中でお弁当を食べました。たくさん歩いたのでおいしかったです。お弁当を食べた後、グループごとに反省会をしました。みんないろいろな反省を言っていて最後には、トレッキング証明書をもらいました。

活動が終わると、竹本さんにむかえに来てもらいました。竹本さんの家の玄関にハチの巣があっけい暴れていると聞いたので、家で遊ぶのではなく、近くの、戦国の庭歴史館にある川で遊びました。最初に新宅さんがつまづいてこけてビッ

ショぬれになりました。そしたら水川さんと炭村さんもビッショぬれになり、最後にはみんなにビッショぬれにされました。暑かったので、とても涼しくなりました。

この日の夜ご飯は、手作りギョーザです。一から全部手作りのギョーザはとてもおいしかったです。その夜は、とてもつかれていたのぐっすり寝ました。

4日目は、アマゴのつかみどり体験で芸北の大暮養魚場に行きました。最初に魚の勉強をしました。広島レモンサーモンのレモンは、出荷する前にレモンのエキスが入ったエサを食べさせるので広島レモンサーモンと言うそうです。

次に養魚場にいらっしゃる方から、命をいただくという話を聞きました。アマゴは、自分の命を守るために石の下にかくれると聞きました。アマゴも食べられるのが分かっているんだなと思いました。そして楽しみにしていたつかみどりです。つかみどりはやったことがあるけど、1回も取ったことがないのでリベンジしました。そしたら3匹中1匹取りました。その他の2匹は、逃がしてしまいました。次にアマゴの内臓の取り出しをしました。全然うまくいかなかったので、ほとんど新宅さんにやってもらいました。そしてお昼は、自分たちが取ったあまごとおにぎりでした。一番アマゴの塩焼きがおいしかったです。

最後に芸北文化ホールに帰ってお別れ会をしました。竹本さんとののかちゃんが来て、この3日間をふりかえった映像を見ました。トレッキングやアマゴのつかみどりの写真がでてきてこの3日間をしっかりとふりかえられました。最後に竹本さんにお礼を言って帰りました。

いろんなことが勉強できたいい思い出になりました。お世話をしてくださった方々に感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

わすれられない思い出の民泊体験

川迫小学校 水川 乃音

民泊1日目は、学校に泊まりました。最初は、お買い物から始まりました。「マンソー」で買い物をしました。「マンソー」に行ったら係を決めました。新宅さんは計算係、古本君と崎原さんは、かごを持つ係。私と炭村さんは、食材を持ってくる係でした。きちんとみんな、係のしごとをなすとげていました。デザートも買ってもらいました。とてもうれしかったです。

学校に帰って、いったん家に帰りました。お風呂に入ってから、また学校にきました。ほとんど、みんないました。エプロンをつけて、さっそく料理にとりかかりました。作るご飯は、肉じゃがとさけの塩焼きとやまびこ学級が、育てたとうもろこしとごはんでした。古本君・炭村さん・私と新宅さん・崎原さん・梅田先生と二組でやりました。私たちの班は、古本君はさけの塩焼きを作って、私と炭村さんは、野菜を切りました。作るのがすごく楽しかったです。全部やるのが終わったら、フルーツポンチを作りました。すごくおいしそうでした。全部でき終わったら、中庭にでてご飯を食べました。一番肉じゃがが、おいしかったです。さけの塩焼きは、おいしかったけど、骨があったので苦労しました。食べる

のが、一番、私と崎原さんが遅かったです。その後は、アイスを食べながら、ダンスをしました。楽しかったです。夜は、保健室で寝ました。涼しかったです。

二日目は、まず、最初に、ラジオ体操をしました。目が、パッチリしました。その後は、ご飯を食べました。チャーハンとたまごスープとフルーツポンチでした。飲み物は、牛乳とフルーツジュースでした。私は、健康にいいので、牛乳にしました。チャーハンは、残しました。たまごスープも飲んでもう、お腹いっぱいだったけど、頑張っ、フルーツポンチを食べました。マンゴーが、あまり美味しくなかったです。九時になったら、バスが来て出発しました。バスには、壬生小が乗っていました。それから、歌を各学校で歌いました。私たちは、「世界中の子供たち」を歌いました。後から乗った、新庄小は「ビリーブ」を歌っていました。

芸北文化ホールでの開会式で、各学校の紹介をしました。私たちは、そんなこと初めて聞いたのでびっくりしたけど、梅田先生に言われたことを言って、なんとか乗り切りました。その後は、人間関係づくりをしました。知らない人ばかりで緊張したけど、副班長になったことで、みんなと仲が深まりました。それに班の紹介でも壬生小の先生にもほめられました。うれしかったです。

そして、いよいよ・・・民泊家庭の人とご対面しました。とてもきれいな方で民泊家庭の中で一番若くて子供もいました。民泊家庭の名前は、竹本ちひろさん・竹本ひでゆきさん。子供は、竹本のののかちゃんでした。ののかちゃんの、ニックネームはのんちゃんでした。

まず、夜ご飯を作りました。まずは、畑に行って野菜を取りに行きました。いっぱい野菜がありました。トマトやキュウリやナスを取りました。それから、料理に取りかかりました。夜ご飯は、野菜カレーとキュウリの浅漬けでした。美味しそうだったけど、私の苦手な野菜が入っていたので食べられるか心配だったけど、頑張っ、食べようと思いました。夜ご飯作りが終わったら、のんちゃんのお迎えに行きました。保育園に行く途中に偶然、はとこに会いました。すごくびっくりしました。

お迎えが終わったら、時間があつたので川で遊びました。気持ちよかつたけど砂がサンダルの中に入って取るのが大変でした。たっぷり遊んだら、家に帰りました。家に帰ったら最初にお風呂に入りました。気持ちよかつたです。お風呂から、上がったら、のんちゃんのお父さん、竹本ひでゆきさんが帰っていました。そして、夜ご飯の準備をしました。すごく、多かつたです。夜ご飯を食べて、遊び終わったら寝ました。私は、滯那ちゃんと寝ました。布団が、気持ちよかつたです。

3日目は、朝起きてまず、朝ご飯を作りました。朝ご飯は、ご飯とみそ汁と卵焼きとウインナーでした。私は、卵焼きを作りました。思ったよりきれいにできました。朝ご飯を食べ終わったら二階に上がって着替えをして、時間があつたので音楽を聴きました。時間になったら、竹本さんがバスまで送ってくれました。バスが来るまでしりとりをしました。バスが来てバスに乗って、八幡湿原に行きました。A班・B班・C班にわかれしました。私は、B班で滯那ちゃんと一緒でした。出発して、いろいろの植物や昆虫などがいました。ならんでいる順番を変え

ながら行きました。一番前が聞きやすかったです。

トレッキングが終わったら、昔の家の中に入りました。とても昔の気分があじわえました。次は、お昼ご飯を食べました。私の好きなものばかり入っていたので、班の中で一番食べるのがはやかったです。お昼ご飯が食べ終わったら、班で反省をしました。緊張したけど、ちゃんと言って良かったです。

今日は、この行事で終わったので早く帰れました。ひでゆきさんも帰っていたので、車でドライブをしました。戦国の庭歴史館に行きました。私たちだけだったので、いろいろな所をまわりました。かくれんぼなどして楽しかったです。帰っていたら川があったのでそこで遊びました。最初は、水遊びだけだったのですが、萌華ちゃんたちが、石で滑ってずぶ濡れになってしまいました。続けて私も、深いところに入ってしまい、服がびしょびしょになってしまいました。でも、それはそれで楽しかったので泳いだりしました。しかし、一人だけ濡れてない人がいました。それは、彩心ちゃんです。だから、思いっきり引っ張って、なんとか彩心ちゃんを川に「ドブーン」と落とすことが出来ました。とても楽しかったです。

帰ったら、びしょぬれだったので、まずお風呂に入りました。とっても気持ちよかったです。お風呂に入った後は、ひでゆきさんと一緒に夜ご飯を作りました。夜ご飯は、餃子でした。二種類の餃子を作りました。一種類は普通の餃子ともう一種類いろいろな野菜が入った餃子でした。餃子を一から作るのは、初めてだったのでごく大変だったけど自分たちで作った、餃子はとても美味しかったです。夜ご飯を食べ終わったら、アクアビーズのようなのを使って、自分の好きな形に作りました。私は虹色の星形を作りました。作り終わった後は、梅田先生の家に行きました。梅田先生は、カープの試合を見ていました。その後は、竹本さん家の近くをお散歩しました。歩いたらホテルがいたので捕まえました。つかまえたホテルは、のんちゃんにあげました。竹本さんの家に帰ったら歯磨きをして寝ました。ぐっすり眠れました。

4日目は、いよいよ民泊体験最後の日です。この日は、大暮養魚場に行きました。A班・B班・C班で別れて行動しました。最初は、火をおこしました。子供たちだけでおこすので、どうおこすか考えるのも大変でした。でも、無事火をおこすことができました。次はアマゴのつかみ取りです。でもアマゴが取れても、すぐ逃げられてしまいました。だから梅田先生に取ってもらい、それをカゴの中に入れました。取り終わったら、アマゴの内臓をとる仕事にかかりました。私は、内臓じたい取り出すことが無理だったので男子に全部任せました。内臓の取り出しが終わったら、いよいよアマゴを焼くときがやってきました。焦げがつくまで、ずっと焼いて焦げがついたらそこでいただきました。ほねがあって、たべにくかったけど味は美味しかったです。食べ終わったら、かたづけてバスに乗って芸北文化ホールで閉会式をしました。のんちゃんも来てくれました。そして「ビリーブ」を歌ってお別れの言葉を言ってバスに乗って帰りました。三日間はあっという間で、別れるのは少し寂しかったけどまた、会えるのを楽しみにして待っています。この三日間本当にありがとうございました。

またもう一度行きたいな 民泊体験

八重小学校 田中 蒼空

ぼくはこの民泊体験活動をととても楽しみにしていました。また、きんちょうもしていました。

1日目は、人間関係づくり、対面式、学校しょうかいなどをしました。学校しょうかいでは、ぼく達八重小学校が最後だったので、大きな声を出さないといけないと思いました。順番にセリフを言っていき、ぼくの番が来たとき頭が真っ白になるかと思いました。自分で声の大きさは、80点ぐらいだと思います。でもはっきりとすることができました。

学校しょうかいが終わった後、川魚のつかみ取りの班長と副班長を決め、フラフープゲームとウルトラマンゲームをしました。フラフープゲームは、となりの人と手をつないだままでフラフープをわたしていくゲームです。内側と外側を向いて2回やりました。内側を向いてやる時は、一番速くできてかんたんでした。外側を向いてやる時は、一番速くできたけれどとても大変で、内側よりむずかしかったです。ウルトラマンゲームは、伝言ゲームのような遊びです。順位は三番で、言葉を伝えるのに大声を出してとてもものがいたくなりました。

対面式では、民泊家庭の方と初めて会うのでとてもきんちょうしました。

2日目は、トレッキングと田舎ぐらし体験をしました。トレッキングでは、3時間しか歩かないんだと思っていたけれど、3時間歩くのはとても大変なんだと知りました。

ガイドさんは西村さんで、班の名前は「カラコギカエデ」という名前になりました。ぼくが一番心に残っている植物は、班の名前にもなっている「カラコギカエデ」です。理由は、種が落ちるとき種がプロペラみたいに回りながら落ちていくのが印象に残っているからです。

田舎ぐらし体験では、コースター作りと大根の種まきをしました。コースターは、木をコースターの形にけずってもらって、やすりをかけます。火で少しあぶって岡田さん（お世話になった民泊家庭の方）にサインしてもらい、自分の名前も書いてもらいました。大根の種まきは、赤い大根の種を3こずつ植えていって、「冬になったら食べにおいで」と言われました。冬にも行けるなら、岡田さんの家に食べに行きたいです。

3日目は、川魚つかみ取り体験とお別れ式をしました。川魚のつかみ取り場で、いろりの火おこしの1回目はうまくできたけれど、先生達用に2回目をやったときはなかなかうまくいきませんでした。命のお話では、命をもらって食べていると改めて感じました。つかみ取りは、四ひきつかまえました。初めは岩の中にいる魚をとるのがこわかったけれど、勇気を出して手を入れてつかまえることができました。

つかまえた魚の調理で内ぞうをとるときは、手がすべってとるのが大変でした。くしをさすのは、藤田君がとても上手でした。食べるととてもおいしかったです。しっかりと、大事に食べました。

お別れ式では、また岡田さんに会えたらいいなと思いました。

この民泊体験活動で自分のことを自分でやってみて、いつもぼく達の世話をしてくれている親の大変さが分かりました。

楽しかった3泊4日の民泊体験

八重小学校 流光 結衣

わたしは、この3泊4日の民泊体験活動では、楽しかったことばかりでした。

1日目は学校に泊まりました。夜ごはんはみんなで作ったカレーとツナサラダです。みんなで作るとすごくおいしかったです。学校でねる時は、夜こわくてなかなかねむれませんでした。それでも時間がたつと、なんとかねむれました。

朝起きると大雨がふっていてびっくりしました。大雨のため民泊が中止になってしまい、残念だったけれど、8月31日からまた民泊に行けることになりとてもうれしかったです。

2日目の人間関係づくりでは、本地小・豊平小の5年生と出会いました。ちょっとしたゲームや学校しょうかいなどいろいろなことをしました。次は対面式です。民泊先の方達と初めて会いました。とてもやさしそうな人でした。お名前が「徳永さん」という方のおうちに泊まらせていただきました。

徳永さん家に着くと、まず農作業でトマトのしゅうかくをしました。トマトの種類が多さにびっくりしました。オレンジ・黄色・赤・むらさき・ピンクの5種類のトマトを作っていました。しゅうかくが終わってトマトを食べてみると、どの色もすごくおいしかったです。この他に、カブとダイコンの種まきをしました。

夕食作りでは、天ぷらと五目ちらしを作りました。天ぷらをあげていただいている間に、わたしたち3人でおふろに入ってきました。おふろから上がってからちらしずしを作りました。天ぷらとちらしずしをお皿にもって食べると、ものすごくおいしかったです。

ねる時になるとだんだんこわくなり、3人でひっついてねました。すきま風の音がとてもこわかったです。

3日目は、八わた高原でトレッキングをしました。トレッキングで歩くきよりはけっこうありました。トレッキングをしながら、ガイドの方が花や木の説明をしてくださいました。トレッキングをしながら、新しい豊平小の友達もできました。

その後民泊家庭にもどり、農作業でピーマンやキュウリなどの野菜をしゅうかくしました。夜になると花火もさせていただき、とても楽しかったです。

4日目は川魚のつかみ取り体験です。魚についての勉強をしたらつかみ取りに行きました。つかみ取りでは、何度かつかめたけれどにげられてしまいました。その後自分で魚の内ぞうを取り、塩で味付けして焼いて食べました。とてもおいしかったです。

閉会式では、豊平小・本地小のみんなともお別れです。お別れ式では、徳永さんとの最後の対面でした。泣きそうになったけれど、こらえて笑顔でいました。でも、心の中では大泣きしていました。

この3泊4日をふりかえると、いろいろな体験ができたし、他の学校に友達もできてとてもうれしかったです。また民泊体験がしたいです。

思い出の民泊

八重小学校 山下 惟華

民泊1日目の朝、わたしは楽しい民泊にドキドキしながら学校に行きました。学校に着くと、クラスみんなは、楽しそうに民泊のことや準備のことなどを話していました。そんなことをしていると、なんだか時間が経つのをわすれてしまい、あっという間にむかえのバスがとう着しました。みんなは少しドタバタしながらバスに乗りこみました。

バスの中は、学校しょうかいの練習でとてもうるさくなりましたが、目的地に着くとそんなことはわすれてしまいます。交流会のホールには、ざっと50人くらいでしょうか。他の学校の5年生がたくさん集まっていました。

その後、ホールで班のルールを決めたり、フラフープを使った遊びをしたりしました。すると、さっそく平さんと畑中さんという友達ができました。

次に、民泊家庭の方との交流です。わたし達のグループは、新谷さん、岡田さん、松本さん、わたしの4人です。泊めてくださったのは「かみおか民宿」の小川さんという方でとてもやさしくてほっとしました。

ホールから民泊家庭へ行くと、わたしはびっくりしました。そこはとても大きな民宿で、お部屋は何と12部屋もありました。

そして、さっそくお手伝いをたのまれました。お茶作りです。わたし達はお茶っ葉をつみ、細かく切った葉をもみました。するとみんなが、

「先生、こういうとき写真をとりにくればいいのにな〜。」

と言いました。そうこうしている内にすぐ仕事は終わりました。次は夕飯です。夕飯は、コロッケ、ポテトチップス、冷めんを作り、食後にはみんなでカラオケをしました。

2日目は、朝にきのう作ったお茶をいただきました。今日は小川さんがいないので、ご近所の方に送っていただき、わたしはバスに乗りました。トレッキングの場所に着くと、すでに30人は集まっていました。

トレッキングが始まると、わたしの目の前は不思議なものばかりです。カンボク・アカツメクサ・トリカブト・カラコギカエデなどの植物を知ることができてとても楽しかったです。

帰るとわたし達は、他の民泊家庭のみんなと、スキー場に行きました。草の上をころころ転がると、とてもいい気分になりました。民宿にもどると夕飯をつくりました。今日は夏野菜のてんぷらやピーマンの肉づめなどでした。

3日目、民泊最後の朝です。思い返すと、もっと話しておけばよかったと、今でも思います。朝ごはんを食べると、お手伝いにシーツの入れかえなどをした後、送っていただきバスに乗りました。

魚のつかみ取りの会場に着くと、わたし達は魚の説明や炭の起こし方などを学びました。魚のつかみ取りでは、わたしは9ひきつかまえました。内ぞうをとるのは気が進みませんでした。焼いた魚はとてもおいしかったので、「とってよかった」と思いました。

その後、お別れ会の会場に行きました。民宿の方は、とてもやさしく見送ってくださいました。他の学校の友達も、また会うと約束して見送りました。

わたしはその後、バスが見えなくなるまで手をふり続けました。また1秒でも早く会いたいです。

楽しく活動できた民泊体験活動

八重東小学校 大石 命

わたしは、この4日間でたくさんの体験をして、たくさんのことを学び、たくさんの思い出を作ることができました。

中でも、特に心に残っていることが3つあります。

1つ目は、民泊家庭での料理作りです。お米は炊飯器で炊くのではなく、なんと“釜”で炊くのです。これまで経験のないことだし、本物の釜を見たことがなかったの、ととてもうれしかったです。その釜は、家にある炊飯器よりずっと大きく、とてもどっしりしていました。お米を炊いている時、釜からだんだんといにおいがしてきました。釜で炊いたご飯は、何の味付けをしなくても、お米の味がしっかりと付いていて、本当においしかったです。特に、少し茶色く、キツネ色になっていたところがすごくおいしかったです。

2つ目は、民泊家庭での畑仕事です。その畑では、ジャガイモほりをさせてもらいました。大きなイモや小さなイモがありましたが、大きなイモをたくさん収穫することができたので、とてもうれしかったです。イモほりは、わたしの家でもしたことがありましたが、直径が10cmほどもあるイモをほり出したときは、とてもおどろいたし、うれしかったです。そんなイモの中には、赤いイモがあっておどろきました。今まで見たことがなかったし、赤いイモがあるなんて想像していなかったからです。聞くと、イモはイモでも、品種がちがうイモを植えておられたそうです。こんな体験をさせていただいた民泊家庭のみなさんには、とても感謝しています。

3つ目は、川魚のつかみ取り体験です。一人2匹ずつ食べることになっていたの、がんばってアマゴをつかまえました。アマゴは、石と石の間に身をひそめていることが多かったの、そこを特に意識して探しました。浅い池の中で泳ぎまわるアマゴはとてもすばしっこいし、体がヌルヌルしているうえ、手でつかむと逃げようとしてはげしく動くので、つかまえるのにすごく苦労しました。周りからは「がんばろう。」「やったあっ！」という声がたくさん聞こえてきたので、わたしもがんばろうと思いました。そして、何とか2匹のアマゴをつかまえることができて、とてもうれしかったです。

つかまえたアマゴは、自分達で内ぞうを抜いて、塩焼きにします。さっきまで生きていたので少しかわいそうにも感じましたが、大切な命をむだにしないため

にも残さず食べようと思いました。塩焼きにして食べたアマゴは、ほねまでやわらかくて、とても食べやすく、頭以外は全部食べることができました。アマゴの命をむだにすることがなくてよかったと思いました。ここで学んだことは必ず家族にも伝えて、できれば家族みんなで、もう一度体験したいです。

このように、たくさんの体験をさせてもらう中で、民泊家庭の方とも親しむことができたし、大朝小学校や芸北小学校の5年生とも友達になることができました。

わたしの民泊体験活動での目標は、「しっかりとあいさつをする。」「みんなと協力して行動する。」「先生方や他の人が話をされるときにはしっかり聞く。」「友達をつくるために、自分から声をかける。」でした。この4つの目標はしっかり達成することができたと思っています。そしてたくさんの思い出も作ることができました。お世話になったみなさんにたくさん感謝したいと思います。できることならもう1度、民泊体験がしたいです。

感謝

八重東小学校 大野 恵伍

3泊4日の民泊で一番心に残っているのは、受け入れ家庭の村竹さんとの交流です。村竹さんは、ぼくたちにとっても優しく接してくださいました。手伝いもたくさんさせてもらえたし、草スキーも体験させてくださいました。どれも本当に楽しかったです。

村竹さんのおうちには、おばあちゃんとおじいちゃん、その息子さんが住んでいらっしゃいました。おばあちゃんには、朝ごはんや夕ごはんを作っていただきました。おじいちゃんには農作業の手伝いや草スキーをさせていただきました。息子さんには、人生ゲームを一緒にしていただいたり、足つぼマッサージをしていただいたりしました。

村竹さんの家の周りにはいろいろな生き物がいました。昼間には大きなカメを見つけました。捕まえて村竹さんに見せると、「それ、くさいカメよ。」とおっしゃったので、見つけたところに逃がしました。飼うことはできなかったけど、間近で大きなカメを見ることができてよかったです。夜にはホテルがたくさん飛んでいる様子も見ました。ぼくたちの近くにも飛んできて、石田君がつかまえました。そっと手を開くと、光っていなかったのが死んだのかと思いました。しばらく見ていると元気に飛んでいきました。ぼくたち人間がホテルにだまされたみたいで、みんなで笑いました。ここで体験したことは、どれも忘れられない思い出になりました。

芸北での体験活動では、特にアマゴのつかみ取りが心に残っています。ぼくはこれまで魚釣りに行ったこともないし、魚と触れ合った経験もあまりありません。だから、余計に心に残っているのだと思います。アマゴは、岩と岩の間にかくれているので、手さぐりで探してつかまえるのですが、体がヌメヌメして思うようにつかむことができませんでした。それでも何とか3びきのアマゴをつかまえることができました。その後で、焼いて食べました。自分でとって焼いた魚は

とてもおいしかったです。魚に触れ合える、いい体験になりました。

芸北で体験したことの中でもう一つの大きな思い出は、霧ヶ谷湿原を散策したことです。霧ヶ谷湿原では、いろいろな動植物を見ました。特に心に残っている植物はツタウルシです。ツタウルシには毒性があって、さわるとかぶれます。近くに寄っただけで症状が出てしまう人もいます、先生から聞きました。だから、ツタウルシの特ちょうをよく覚えておいて、近づかないようにしようと思いました。よく似た植物もあるので気をつけようと思います。

「高原の自然館」では、体長が 15 cm もある、とても大きなカエルを見ました。足をのばすと 25 cm くらいになると聞いて、ますますおどろきました。

芸北地域では、今まで見たことのなかったいろいろな生物を見ることができて、とてもうれしかったです。

楽しいことでいっぱい为民泊でしたが、この体験は、民泊家庭の皆さんや観光協会の方、先生方の温かい見守りや、多くの方が支えてくださったからできたことです。この体験を支えてくださった皆さんに感謝したいと思います。そして今度は、ぼく自身が児童会の本部役員としてみんなの支えになれるよう、がんばろうと思います。

たくさんのことを学んだ4日間

八重東小学校 宮庄 ひより

3泊4日の民泊体験が終わって、「他校の人と話したり、協力し合ったりできて良かった。」「命や自然はとても大切だ。」と思えるようになりました。

2日目の人間関係作りでは、芸北小学校と大朝小学校の人とゲームをしたり、好きなことや習っていることを話したりしました。人見知りで、知らない人と話すことが苦手なわたしでも、みんなが優しく接してくれたので、すぐに話しかけることができました。ゲームをしたときには「もっとこうしたらいいんじゃない?」「がんばれ!」などのよい声かけができました。

民泊受け入れ家庭の方にも優しく接していただき、すぐに話ができるようになりました。

3日目の「霧が谷湿原」の散策では、自然についてたくさん学びました。特に心に残った植物は「ヒヨドリバナ」です。ピンク色でとても可愛らしい見た目と名前が気に入りました。もう一つは「ヒメジョオン」です。ヒメジョオンも、見た目も名前も可愛らしいので好きです。

湿原の散策でいろいろな植物のしょう介をしてくださったトレッキングガイドさんは「けいちゃん」という、とても優しい人でした。

自然についてたくさん学ぶことができて、とてもよい経験でした。今度は家族で湿原を散策したいなと思いました。

最終日の「川魚のつかみ取り体験」では、命の大切さを学びました。初めに、魚についていろいろ教えてもらいました。ヤマメ・アマゴ・アユは、少しずつもようがちがうのですが、なかなか見分けることができませんでした。

次に、火おこしをしたのですが、なかなか火がつかせませんでした。そんな時、

芸北小学校や大朝小学校の人たちが「こうすればいいよ。」と教えてくれたので助かりました。

アマゴをつかみ取りするときは、アマゴの泳ぎが速いしヌルヌルしているし、岩と岩の間になげこんでいるので、つかまえるのが大変でした。やっとの思いで1ぴきつかまえたときは、とてもうれしかったです。わたしは1ぴきしかつかまえられなかったけど、5・6ぴきつかまえている人もいて、すごいなと思いました。

内ぞうをくりぬくときは、まだ生きているアマゴがいてかわいそうだなと思いました。でも、感謝して食べようと思って、勇気をもってくりぬきました。

アマゴが焼けるまでは、みんなで楽しくお話をしながら、おむすびを食べました。この時間でもみんなと仲よくなれたような気がしました。

大暮養魚場では命の大切さを学びました。わたしたちは、他の動植物から大切な命をいただいて生きています。どんなに小さな命でも、感謝の気持ちを持ってしっかり食べきろうと思いました。

この4日間でわたしが感じたことは、大きく二つあります。

一つ目は、いろいろな人と協力し合うことの大切さです。数え切れないくらいの楽しい思い出ができたのは、他の学校の人達と友達になることができたからです。初めはドキドキしましたが、優しく接してくれたことで、たくさん話をすることができたり、一緒に活動できたりして、思い出がいっぱいできました。

二つ目は、自然や命の大切さです。北広島町には豊かな自然がたくさん残っています。わたしが住んでいる千代田地域でも見ることでできない動植物を、芸北地域ではたくさん知ることができました。いつまでも守っていきたいと思いました。また、一匹の魚でも、道ばたに咲いている一輪の花でも、一つ一つに命があるということを忘れずに、大切にしていきたいと思いました。

この「民泊体験」で学んだことは、わたしの一生の宝物として大切にします。

民泊体験学習

壬生小学校 木村 飛華

民泊体験活動では、新庄小学校15人、川迫小学校5人、壬生小学校26人がいて、私の学校が一番人数の多い学校でした。壬生小と比べて新庄小の人はチャイムがないと聞き、時間を見て行動しないといけないからびっくりしました。私は、5分前行動ができ、みんなをこまらせないよう時計を見て動きました。人間関係づくりでは、「人間ちえの輪」で知らない友達といろいろな関わりがあったと思います。一番がんばったのは、班の人全員と友達になることです。

私は、むろやさんの家にとまらせてもらいました。お母さん、兄ちゃん、姉ちゃんとの三日間は会えません。だけど母さんは朝、見送りに来てくれてとてもうれしかったです。田舎暮らし体験では、夕飯などを一しよに作りました。

2日目のトレッキングでは、約1.5km歩きました。私が今まで見たことのない植物があってびっくりしました。旅のチョウというチョウは、たまに沖縄の海をこえ台わんまでいくそうです。「おーいの丘」まで上がりました。その上りが

つらかったです。そして、「お～い」と言ったら、ひびいて返ってきました。また、行くときにイノシシがほった跡が何か所かあり、木にはクマが登って降りるときのつめのあとがはっきり残っていました。そして冬にシカは来ないことも分かりました。それは、雪が2 mくらい積もると、シカの足は細いのでうまって出られなくなることもあるからだそうです。

田舎ぐらし体験では、畑の草をぬいたり、モグラのあなをほったり、にんじんや豆を取ったりしました。食事作りでは、おいしいご飯を作りました。しゃぶしゃぶ、サラダ、かきあげ、白米、ミニトマトでした。かきあげは5個あまっていて、残さず食べるということで私が全部食べました。最高においしかったです。また、班長という責任を持ってがんばれました。

3日目の川魚つかみ取り体験では、1回取ったけど、すべってこけて魚ににげられました。魚がぬるぬるして取りにくかったです。このアマゴは、焼いて食べられたくないの、石のすき間、石の下にかくれるんだと分かりました。家は川の近くにないので、めったに魚を見ることがなく、「めずらしい」と思いました。

閉会式ではとてもさみしかったです。最後のお別れではさみしくてなみだがちよっと出ました。むろやさんの家に二日とまらせてもらい、楽しい思い出になりました。上田さんは「またとまりたいな。」と言っていて、私と奥田さんは声には出さなかったけど、心の中で思っていました。

民泊体験学習を通して

壬生小学校 水越 歩実

1日目の夕食作りでは、友達が手伝ってくれたり、友達を手伝ってあげたりすることができ、協力できて良かった。自分で考えて片付けや準備ができた。班の人とも考えてすることができた。お風呂に入ったとき、周りの人にめいわくがかからないように小さな声で話したり、大きな声で話している人に声をかけたりできて良かった。少しこれから続けていけるか心配だ。

2日目は、初めて、北広島町の他の学校の人と会って交流をして、大体の人と話すことができて良かった。特に「ちえの輪」が楽しかった。それは、いろんな人が話しかけてくれたり、自分も話しかけたりすることができたからだ。

また、対面式では、民泊家庭の方が笑顔であいさつをしてくれてうれしかった。その後、梅干しを作ったり、ピザを作ったりしたことが楽しかった。梅干作りとピザ作りでは、サワコさんの孫のみーちゃんとすぐに仲良くなれた。

3日目のトレッキングは、班の人と昨日よりたくさん話すことができてうれしかった。ガイドさんの説明で色んな花の名前や名前の由来を知ることができた。

また、民泊家庭では、じゃがいもをほるとき、1つの根にたくさんついていておもしろかった。お客さんの若松さんともすぐに仲良くなり、あだ名も付けさせてもらった。声と顔がりゅうた先生に似ているから、「りゅうた先生」とつけさせてもらった。夕食作りでは、コロッケとぎょうぎを作った。コロッケは玉ねぎを切るのが楽しかった。ぎょうぎは包むのが楽しかった。それぞれ包み方がちがって

おもしろかった。その後、ランプでババぬきとぶたのしっぽとダウトをしたり、お話をしたりした。帰るのは少し悲しい。

4日目の川魚つかみ体験では、新しく友達がふえてうれしかった。アマゴのつかみどりは初めてだったけど、3ひきつかまえた。アマゴの内ぞうを取り出すとき、分からなかった友達に声をかけてあげることができて良かった。

閉会式のとき、動画でいろいろ楽しかったことを思い出すことができた。また、大変だったことも思い出せて、帰るのが悲しくなってきた。お別れ式では、受入家庭の方が笑顔で話しかけてくれて、ふだんはあまり行かない芸北だけど、また泊まりに来たいと思った。

この民泊体験活動が始まる前は、楽しみというより不安のほうが大きかったけど、終わると楽しかったなと思えることができてよかった。また、たくさんの自然にふれることができた。特に八幡湿原のトレッキングでは、植物をさわってみたり、におってみたりして、体でいろいろなことを感じられてよかった。私は、梅干作りが一番心に残っている。初めてしたけど、「梅干しの手」という、しそをもむと赤色になったのが少しうれしかった。そして楽しかった。また、新庄小学校と川迫小学校の人と話をし協力して活動することができた。この民泊では、自分のことは自分でしたり、時間を見て行動したりする力をつけることができた。

楽しかった4日間

壬生小学校 奥田 千陽

1日目の夕食作りでは、計画通りに早く作れたのでよかったです。みんなとけんかをせず、仲良くすごすことができたのでよかったです。アザレアのお風呂は、とても気持ちよかったです。サウナもあたたかくて気持ちよかったです。お風呂で大人の方がやさしくしてくださったので、千代田の人は優しいなと思いました。

2日目の人間関係づくりでは、川迫小学校、新庄小学校のみなさんと仲良くなれたし、生年月日を知ることができたのでよかったです。対面式では、芸北の人たちの家にとまるのは初めてだからドキドキしたし、芸北の人たちの家はどんなかんじかなと思って出ました。すると、やさしそうなおじちゃんに対面式にいたので、よかったですと思いました。また、むろやさんの家におじゃまさせていただくと、やさしいおばちゃんが待っていてくださったので、不安だったけど、少し安心してきたのでよかったです。

田舎くらし体験では、かった草を集めたり、夕食で使う野菜をとったり、畑を案内してくださったりしました。ぶどう、キュウリ、トマト、ピーマン、赤じそ、さといも、すいか、かぼちゃなどがありました。わたしは、夕食で使うミニトマトをとりました。夕食作りでは、ごはん、玉ねぎのスープ、コロッケ、すのもの、ミニトマトなど、野菜のこんだてで作りました。じゃがいもをゆでたり、野菜を切ったり、あらったり、まぜたりしました。コロッケは、実際に一人ずつあげたり、すのものの味付けをしたりするなどしました。さらに、おじちゃんから、もりつけや食事のマナーなどを教えてもらったり、確認したりして、改めて大切だなと思いました。安心した

一日になりました。

3日目のトレッキング体験では、約1.5km歩きました。その時、きちょうな植物や生き物を見れて、とてもうれしかったです。台わんまで旅をするちょうちょうが4ひきくらいいたので、湿原はきちょうだなと思いました。「おーいの丘」に行くと、「おーい」とみんなでさけぶと、「おーい」と返ってきたので、「おーいの丘」の名前の由来がよく分かりました。冬には2m雪が積もることを初めて知りました。

田舎くらし体験では、草を取ったり、野菜のしゅうかくをしたりしました。たくさん草が生えていました。家の庭では見ないようなかわいい草もありました。私はバケツ2つ分草を取りました。けっこう根が土にしっかりくっついていたので、ぬくのが大変でした。次ににんじんをしゅうかくしました。きれいなオレンジ色にそまってかわいいなと思いました。もぐらのあながあったので、ほつたのもぐらがいなかったのが残念でした。食事作りでは、しゃぶしゃぶ、サラダ、ごはん、かきあげ、ミニトマトのメニューでした。私たちは、サラダを作りました。だいこん、にんじん、ちくわ、さけるチーズ、ちりめんじゃこを入れました。夕食は、とてもおいしかったです。ごはんを食べた後、みんなで花火をしました。色とりどりの花火があってとてもきれいでした。民泊最後のいい思い出になりました。とても楽しかったです。また、むろやさんの家にとまりたいです。とても楽しい2泊3日になりました。

4日目の川魚つかみどり体験では、アマゴとヤマメの見分け方を勉強しました。アマゴは、赤い点があるけど、ヤマメは赤い点がないということが分かりました。つかみどりでは、ぬるぬるしてとりにくかったけど、2ひきつかまえることができたのでうれしかったです。

お別れ式では、むろやさんのおばちゃんとおじちゃんとお別れしないといけなかったから、とても悲しかったし、さびしかったです。いつも、おいしくて、ごうかなごはんを作ってくれたり、やさしくしてくださったりしたので、ありがとうございましたと言いたいです。住所も聞いたので、手紙を書きたいです。

班で協力した民泊体験

本地小学校 河内 心美

私は、この民泊体験で班のみんなでがんばったと思うことが5つあります。

1つ目は、1日目のカレー作りです。がんばったことは、自分の担当したことをみんな積極的に取り組んでいたことです。まずは、班でカレー作りの役割分担や手順の流れを決めました。みんなで力を合わせて「これあれだったよね。」などの声かけで流れはすぐにできました。私は逆に不安もありました。それは「他の人がけがをしないかな。」「ケンカにならないかな。」「順番通り進んでいるかな。」などです。でも想定以上に「手伝うね。」などのプラスの声かけがあったから、仲良く、楽しく、そして協力しておいしいカレーができました。

2つ目は、人間関係づくりです。どこでがんばったかというフラフープくぐりゲームです。最初はうまくできず、順位は4位でした。でもだんだんやっていくうちに順位があがって2位になりました。班の友達と「手をあげて」など声かけをしていると知らない間に信頼関係が深まっていることに気がつきました。班でがんばって、協力ができたから私は友達をつくることができました。この人間関係づくりを通して「すごいな。」と思ったこともありました。それは、班長と副班長を決める時のことです。最初、誰もやりたい人はいなかったけど、しばらくすると、自ら「班長します。」と手を挙げた人がいました。私はその姿を見て、かっこいいなと思いました。副班長を決める時もほとんどの人が「はい。」と言って手を挙げました。私は、こういう時に手を挙げられないから、みんなすごいなと思いました。

3つ目は湿原トレッキングです。みんなで力を合わせて登ったり、トレッキングガイドの宮本さんの話を聞いたりしました。たくさんの植物があり、自然豊かでした。班のみんなでがんばったことは、声かけなどの発言です。「おーいの丘」まで行く時、班の友達と「もうちょっとだよ。」「がんばろう。」などの声かけがあったから、疲れていたのが吹き飛んで、元気になりました。だから私も「がんばろう。」と思いました。歩いていくうちにチームワークが深まったと思います。「おーいの丘」に到着した時、達成感があって、気持ちよかったです。こういう声かけがあったからこそ気持ちよかったのだと思います。これからは、私も相手がうれしいなと思う声かけがしたいです。

4つ目は、川魚つかみ取り体験です。がんばったことは2つあります。1つ目は、火おこしの時のことです。最初、シーンとしてなかなか進まなかったけど、班長が「こうしたら。」などと言って、みんなが協力して火をおこしました。途中、先生からのアドバイスもあり、火をおこすことができました。火をおこしたあと、炭を入れるときに煙が自分に来て、目が痛くなりました。そしたら、隣の人が「大丈夫？替わってあげようか？」と言ってくれて勇気が出ました。2つ目はあまごのつかみ取りのときです。班のみんなで協力したことは声かけです。私がつかまえたあまごは1匹もいません。なぜつかまえられなかったかという協力できていなかったからです。私はずっと1人であまごを追いかけていました。ふと周りを見ると協力してつかまえている人がたくさんいました。どれだけ協力することが大事か実感しました。私も誰かと協力してつかまえたかったです。

5つ目は、受け入れ家庭での手伝いです。その家では、たくさんの野菜が植えられていました。主にみょうがや赤じそがたくさんありました。そのときは、赤じその葉を摘みました。民泊の班のみんなと受け入れ家庭のみさなで葉摘みの勝負をしました。勝ったのは私たちのチームです。勝てたのは協力できていたからです。でも受け入れ家庭の方もいっぱい摘んでおられました。そのあとは、みょうがとりもやりました。葉っぱでかくれているところもたくさん取って、10個以上も収穫できました。収穫したみょうがは、そうめんと一緒に食べて、赤じそは天ぷらにして食べました。とてもおいしかったです。

この民泊体験を通して学んだことは、「協力する」ことです。みんなで力を合

わせると、きっと何かに成功します。だから私は、将来、何かあった時は、友達と協力して乗り越えていきたいです。

できる喜びを感じた民泊体験

本地小学校 中島 迅斗

ぼくは、この民泊体験活動を通して、できるようになったことや学んだことが5つあります。

1つ目は1日目にカレーライス作りでお米を炊けるようになったことです。ぼくは、ご飯を炊くことを任されました。ぼくの家は炊飯器だけど、学校は鍋でご飯を炊くから「大丈夫かな。」「ちゃんとできるかな。」と正直不安になりました。お米を研ぐとき、「ここまでは大丈夫だけれど、ここから火加減や蒸す時間が大丈夫かな。」と不安だらけでした。そして「まだかなあ、まだかなあ。」と思いながら待ち、ついに鍋のふたをあける時がきました。ドキドキしながら鍋のふたを開けたら、真っ白でおいしいそうなお飯が炊けていて「やったー。」と思いました。ご飯を炊いているときに、後ろからカレーのいい匂いがしてきたから「おお、みんながんばっているな」と思い、ぼくもがんばることができました。カレーはカレー粉を入れすぎて、たくさん作りすぎてしまいました。先生たちと一緒に食べると、とてもおいしかったです。

2つ目は、対面式と人間関係づくりで初対面の人に積極的に声をかけられたことと自己紹介ができたことです。ぼくは、今まで初対面の人に積極的に声をかけることが苦手でした。でも今回は「大丈夫、絶対にできる。」と自分に言い聞かせました。すると、3人もの友達を作ることができました。この時、ぼくは「自分でもちゃんと積極的に声をかけられるんだ。」と思いました。このときの嬉しさは、表現しきれないほど嬉しかったです。初対面の人に声をかけることは、これからの将来にも関係してくるから、自分にとって大きな自信となりました。

対面式では、受け入れ家庭の方がぼくの前に座られました。ぼくは「この方は優しいのかな。それともこわいのかな。」と楽しみや不安など、いろいろな感情がわいてきました。そして、受け入れ家庭の方と握手した時、ぼくは、すぐくテンションがあがってきて、今にもはしゃぎ出しそうになりました。それは、握手した時に、優しそうなお方だと分かったからです。でも、まだ対面式だから「冷静に、冷静に。」と思いながら自分を落ち着かせました。受け入れ家庭に着いてから喜びを表現しました。

3つ目は、民泊家庭で、友達の大切さとみんなで夕食を作ったらおいしいということを学びました。民泊の家では、卓球をしました。友達と対決をしていて、変なところに球が飛んでいったりただけで、みんなが大爆笑しました。ぼくはそのとき、ちょっとしたことで笑える友達っていいなと思いました。卓球の後は料理をしました。友達はタマネギを切るのに、目がしみながらもがんばって切っていました。フライドポテトもみんなで作りました。みんなが作った夕食は今までにないぐらいおいしくて、ぼくは「がんばって作ったからこん

なにおいしいんだ。」と思いました。そしてこんなことを感じられたのも受け入れ家庭の方のおかげだと思いました。

4つ目は、大暮養魚場で片桐さんから命の大切さを学びました。ぼくが片桐さんの話で心に残っていることは「ブタやアリにも命はある。」という言葉でした。そのことを教えてもらって、ぼくは、心から「いただきます。」と言えるようになりました。

5つ目は、笑顔でお別れができるようになったことです。お別れ式では、急に色々な思い出が頭に浮かんで来て、ものすごく涙が出そうになりました。だけど、最後は笑顔でお別れをしたいから泣きたい気持ちをグッとこらえました。スライドショーでも、「こんなこともあったなあ。」「これは大変だったなあ。」とか、他の人の写真を見て、「この人はすごいな。」「大変そうだな。」など色々な感情がわいてきて、今にも泣き出しそうでした。でも、やっぱり笑顔でお別れをしたいから、泣きたい気持ちを我慢して、後でバスや家で泣こうと思いました。

この民泊体験活動で、ぼくはたくさんの方ができるようになりました。あまごをさばくのも一人でできるし、包丁も一人で使うことができます。朝の準備も一人でできます。これで、お父さんの手伝いもできるようになり、お母さんに迷惑をかけることも少なくなります。この民泊でできるようになったことは将来に生かせることばかりです。だから、「あまご食べたいな。」と思ったら、買ったり釣ったりして、一人でさばきます。包丁を使って、お母さんの料理の手伝いをします。朝の準備も一人でします。このように今から一人でできることをどんどん増やしていきたいです。

見て、聞いて、やってみて、分かったこと

豊平小学校 前 心音

私の班は、倉田さんという方の家にお世話になりました。

まず、田舎暮らし体験では、畑の野菜の収穫をしました。倉田さんの畑はいろいろな野菜が作られていて、とてもきれいだと感じました。ピーマン、なす、きゅうりなど夏の野菜がたくさんありました。それに花も咲いていました。きゅうりは、スーパーで売っているようなまっすぐな形のものだけでなく、曲がったり、文字のようにも見えるものもあって、私はワクワクしました。

夜ご飯にピーマンを使って、おかずをみんなで作りました。私はピーマンは嫌いではありませんが、少しだけ苦いのが苦手でした。しかし、この日に食べたピーマンはとてもおいしかったです。みんなで協力し合って作り、一緒に食べるということは、幸せなことだと思いました。また、とりたての野菜はとてもおいしく、残すということは、作ってくれる人、食材すべてを悲しませることだと思いました。

二日目の湿原トレッキングでは、歩きながら、自然の花や秋の七草のことを教えてもらいました。一番心に残った植物は、「カラコギカエデ」という木の種のことです。その種を上から落とすと、クルクルとプロペラの羽のように回りなが

ら地面に落ちていきます。そして、回りながら別の場所へ移動して、子孫を増やす、とてもかしこい種だと思いました。いろいろな種が移動し、鳥などに運ばれて、草や花が咲き、木が育ち、森になっていくのだと思いました。自然と生きるのは、少し大変なことだけど、森や山がないと人間や動物は生きていけないことを知りました。

三日目の川魚のつかみどり体験では、川魚を自分でつかみ、さばいて焼いて食べました。私は、生きた魚をさわったことがありませんでした。少しこわくて、1匹きもつかまえられなくてくやしかったです。魚をさばくとき、最初は包丁などでさばいて内ぞうを取り出すのかと思い、こわくなりました。でも、わりばしで内ぞうを取ると聞いて、ますますびっくりして、もっとこわくなりました。川魚は苦手でしたが、焼いて食べてみるととてもおいしくてびっくりしました。命をもらって食べることのありがたさ、全ての命の大切さをこの体験で知ることができました。

この民泊体験で、野菜の収穫の楽しさや大変さ、自然の植物にはそれぞれ個性があってそれぞれにちゃんと意味があること、なんでも挑戦してやってみることの重要性そして、みんなと協力し、やりとげることの大切さ、楽しさがわかりました。また、私たちを受け入れてくださった方の笑顔と温かい気持ちがとても心に残っています。もう一度みなさんに会いに行きたいと思います。

お母さんのように

豊平小学校 池田 愛

私は、お母さんの大変さをこの民泊体験で感じました。

私は民泊体験で、毎日、朝と夜のご飯を作りました。毎日作ることは、大変でした。なぜなら、朝早く起きて料理を作り、昼につかれたとしても、夕食を作らないといけなかったからです。

料理をするとき、作ってあるものを買うのではなく、ほとんど一から作りました。

1日目の夕食は、肉じゃが、白飯、オクラ、ぎょうざ、フランクフルトでした。4時くらいから作り始めて、約1時間かけて作りました。私の家では、餃子はほとんどもう作られているものをただ焼いていることが多いです。ですが、民泊家庭では、ぎょうざの皮に具材をのせて、スーパーなどに売ってあるように包みました。台所で作りながら、私と益井さんと宮本さんと同じ机で、

「これきれいかな。」

「これはどう。」

など話しながら、楽しく作ることができました。そして、焼きました。やっぱり自分達で作ったほうが、おいしかったです。

2日目の夕食は、ピザ、コーンポタージュ、ヨーグルトでした。ピザは、生地を一から作りました。3時くらいからピザの生地作りを始めて、生地がふっくらになるまで、民泊家庭の近くを3人で散歩をしたり遊んだりしました。4時から

いからピザ窯でまきを焚き始めました。そして、生地を棒でコロコロのばして、自家製トマトソースをたっぷりかけました。ピザ生地の上には、民泊家庭で作られている野菜をのせました。そして焼きました。生地をころころのばしているときも、

「むずかしいね。」

とか、

「これ、楽しいね。」

と話をしながらしました。だから楽しく料理をすることができました。コーンポタージュもほとんど一から作りました。生地から作ったピザは、とってもおいしかったです。でも一から作ると大変でした。だけど、手作りのほうが売ってあるものよりおいしいと感じました。

私は、今回の民泊体験で強く感じたことがあります。それは、毎日私たちの食事を作ってくれるお母さんもとってもつかれているのではないかということです。民泊は3日間だったけれど、お母さんは毎日おいしい料理を作ってくれています。だから、お母さんに感謝しながら、作ってくれたご飯を食べたいと思いました。

毎日料理を作るのは、確かに大変です。でも、料理を作るのはとっても楽しかったです。私は、民泊家庭で初めてたまご焼きを作りました。初めて作ってみて、見た目は最高においしそうでした。味も、とってもあまくておいしかったです。また、一人で作るよりもみんなで作ったほうが楽しいと思います。今回、お話をしながら楽しく料理をすることができました。

私は民泊体験をして、料理を毎日する大変さとお母さんへの感謝、そして料理をする楽しさを学びました。私が大人になって、お母さんになったら、自分の子どもに料理を作ってあげたいです。また、いつもお母さんに料理を作ってもらうとお母さんが疲れます。だから、月に1回くらいは、自分一人で、家族みんなの料理を作ってあげたいです。

あいさつって大事

豊平小学校 平野 未祐

改めて、あいさつは大事だと学びました。それは、人間関係づくりでの出来事から始まります。

私は、人の目線が気になってしまいます。そのため、友達から話しかけてくれないと話すことがふだんはできません。でも、今回は「このままで終わるわけにはいかない」と思い、

「おはよう。これからよろしくね。」

と、がんばって言ってみました。すると女の子は気持ちよく、

「おはよう。よろしく。」

と言ってくれて、私はとてもうれしい気持ちになりました。それで友達をつくる自信がわき、3人以上の友達を人間関係づくりの時間でつくることができました。

次に、民泊家庭でのことです。私はお父さんとお母さんにきびしく、そして何度も、

「あいさつをすること。」

と言われていました。だから、あいさつはとても意識していました。しかし、いざあいさつをしようとしたとき、声が出ないのです。私は冷や汗がたくさん出ました。手もブルブル震えました。でも、「あいさつしなきゃ。」という思いで、勇気を出してもう一度チャレンジしてみました。すると、

「こんにちは。」

と言えました。私がいさつすると、民泊家庭の方も、

「こんにちは。」

と返してくださり、私も民泊家庭の方も、まわりの人もみんな笑顔になることができました。このことで、「あいさつはすごいなあ。本当に相手の心を開く魔法の言葉だな。」と改めて思いました。

次は、川魚のつかみ取り体験でのことです。川魚のつかみ取りの時に、人間関係づくりであいさつをして出会った女の子が、魚のつかみ取りの仕方を教えてくれて、2ひきつかまえることができました。その時に「あの時のあいさつのおかげだ。」あらためて思いました。

最後は、民泊体験がすべて終わって、帰りのバスに乗っている時のことです。特に親しいわけではないけれど、でも、顔は見たことある人が、私に向かって手をふってくれていたのです。私は「どうしてだろう。」と思い、考えてみました。すると、思い出したのです。その女の子は、私が人間関係づくりの時に声をかけた女の子でした。その時はあまり会話をすることはできませんでした。でもその時のことを覚えていてくれたのでしょう。私は手をふってもらってとてもうれしい気持ちになり、「ありがとう。」と何度も思いました。あの時の気持ちは、今も忘れられません。

私は今、この文章を書きながら、笑顔いっぱいです。そして、民泊体験学習、本当に本当に楽しかったです。あいさつのすばらしさをあらためて感じる事ができて、とてもいい気持ちです。これからもあいさつを大切にすることはもちろん、またこういう機会があったらぜひ参加して、自分からあいさつをして友達を増やしていきたいと思えます。

6年生

夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう



北広島ふるさと夢プロジェクト事業（6年生）実施要項

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日時 平成29年10月19日（木） 9：00～14：30
 場所 千代田運動公園（総合体育館 多目的広場）
 〒 731-1515 広島県山県郡北広島町壬生 10500
 TEL 0826-72-8822

2 目的

- ㈱植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

3 対象児童 小学校6年生

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	5	6	6	0	20	8	19	7	5	76
女子	7	7	4	2	16	8	17	15	15	91
児童数	12	13	10	2	36	16	36	22	20	167

【児童の服装・持参物】

服装は通常の通学服など。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具〈あればカッパ・レインコート〉等を持参する。
 ⇒当日、雨が降っている場合は、行き来に傘を使用し、発射の時（小雨一可）にカッパやレインコートを使用する。

4 引率者

各小学校より、担任を含めて2名以上参加。八重東小学校より養護教諭が参加する。
 町教育委員会職員等が、ロケット発射時の安全確保のために参加する。

5 日程

(1) 各学校より貸し切りバスで会場への集合

- ①芸北小 [8:15 発] → <小型バス>
- ②豊平小 [8:20 発] → <小型バス>
- ③大朝小 [8:10 発] →新庄小 [8:30] → <大型バス>
- ④川迫小 [8:20 発] →八重小 [8:35] → <大型バス>
- ⑤本地小 [8:20 発] →八重東小 [8:30] → <大型バス>
- ⑥壬生小 [8:30 発] → <大型バス>

※ 9時00分に会場に到着できるように、計画をしている。

(2) 全体会・活動の流れ

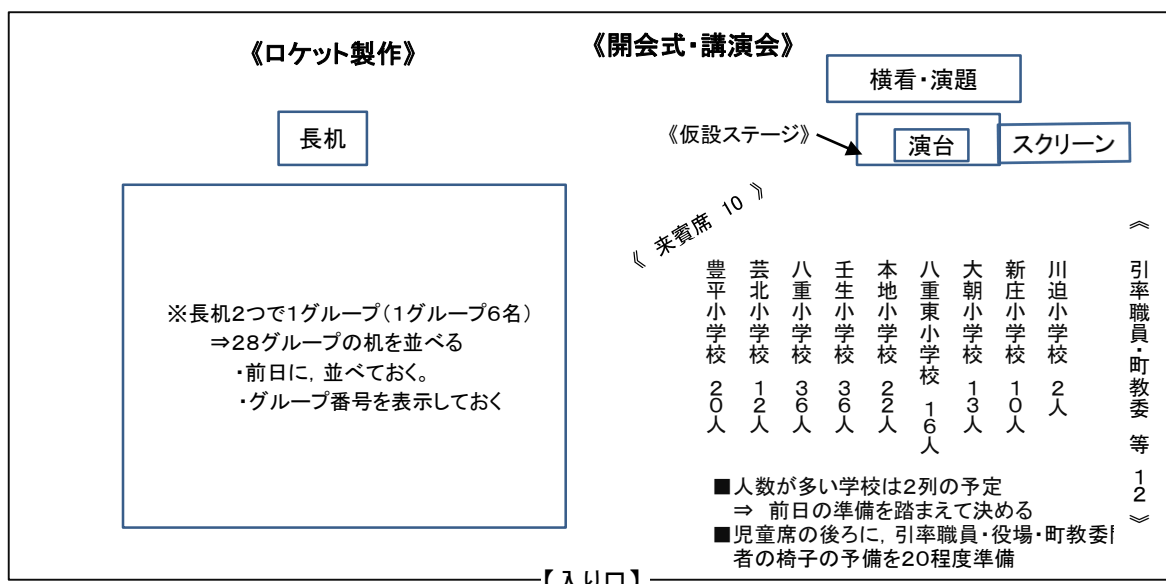
各学校よりバスで総合体育館に到着後、2階の観覧席に荷物を置いて（講演会側の前・後ろは空けておくー地域・保護者の方が参加されることを考えて）、1階のフロアに集合する。

- 持参した屋内シューズに履き替えて二階へ（くつはビニール袋等へ入れて持っておく）
- 何も持たずに1階へ。講演会はメモなどを取らない。お茶もフロアでは飲めない。

◆開会行事（9：15～9：50）ー総合体育館（講演・ロケット作りも）ー児童の並び（開会式・講演会は椅子に座って）

【流れ】

- ①開会挨拶（応援隊長ー町長 ※町教委が連絡調整をする。）
- ②校長代表挨拶（担当校長代表 [佐々木 [豊平小]]）※講師紹介を含む
- ③来賓紹介（司会者）
- ④学校紹介（各学校2分程度）<時間厳守>
 - 全員が前に並び、学校の特色ある取組とロケット作りへの意気込みなどを発表。
 - 発表の順番は、豊平小学校から並びの順にする。



- ◆(株)植松電機の植松努代表取締役の講演会（10：00～11：00）
メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。
- ◆休憩（11：00～11：10）※トイレ，水分補給等
- ◆ロケット製作（11：10～12：20）
ロケット製作をするグループ机に移動して，指導を受けて製作（グループ表示あり）。
児童の準備物は特になし。
職員は，別紙の分担に基づき，担当するグループの児童に関わり製作の支援をする。
- ◆記念写真（12：20～12：30）
講師を囲んでロケットを持って。－体育館の二階より撮影
- ※昼食（12：30～13：20）－学校ごとにアリーナの二階で弁当を食べる。
引率職員（各学校1名）は事前指導を受けて，講師のロケット点検に協力する。
- ◆ロケットの打ち上げ（13：20～14：20）－多目的広場－
帰りのことを考え，荷物を持って指示される場所に集合する。
職員は，安全に発射できるように児童に指導したり役割分担の仕事をしたりする。（児童は4グループに分かれる予定）
- ◆閉会行事（14：20～14：30）－多目的広場－
児童の並びは，開会式と同じ。
①閉会挨拶・謝辞（担当校長代表〔上本 川迫小〕）
②児童代表挨拶〔八重東小学校〕
※(株)植松電機 植松先生に最後に挨拶をしていただく（事前に確認する）
- ※閉会式後，バスのグループごとに学校へ帰る。15：00に千代田運動公園を出発する。
- ◎雨天のために，ロケットの発射ができなかった場合は，弁当を食べて13：30に千代田運動公園を出発して，学校へ帰る。学校で，後日ロケットを発射する。

6 会場・準備物等

(1) 開会式・講演会

【町教委】

- 横看板「北広島ふるさと夢プロジェクト（小6）夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」
- 演題「思うは招く～夢があればなんでもできる～」
講師 (株)植松電機 代表取締役 植松 努 先生
- 演台（パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台）
- プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など
パソコン（マック）は持参される。
(株)植松電機が指定している内容を確認して，準備をする。

【千代田運動公園総合体育館】

○音響装置（マイク・スピーカー 等） ○椅子ー200脚程度

(2) ロケット製作

【町教委】

○長机ー60台

製作に使用する道具が6人1セットで用意されているため、6人が向かい合わせで1つのグループ（2台で1グループ）になるようにテーブルを配置する。

＜28グループ⇒56台 講師・準備用の机も必要なので、最低で60台必要＞
⇒体育館には、使えるテーブルが15台位しかない（昨年度）ので、45台ぐらい、他より持って来る必要がある。

○マジック〔油性〕

■黒166本ー児童一人に一本 <町教委が購入>

■6色等がセットになっているマジック〔油性〕ー各グループ最低で2セットは必要
→各学校で事前に持ってこられる数を把握するが、足りない場合は、町教委に購入していただく。モデルロケットに絵を描くのに使う。

【学校】

○グループ分け

6人1組のグループを、28グループつくり、グループごとにロケットの製作をする。
事前に、グループ分けをしておく。

○マジック〔油性〕の持参（色が6色等セットになっているもの）

⇒全部で、最低56セットは必要。事前に学校より持参できる数を把握する。足りない場合は、町教委が購入する。箱・一本ごとに名前を書いておく。

○児童が準備する物はない。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教委】

○安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員（10人程度）

○スイッチを乗せる台（4台）を、運動公園（陸上競技場）より借りる。

(4) 予算・会計

【町教委】

《株植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別）

小学生以下・・・2800円／1人 167人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、会社規定の往復料金が必要。

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

7 報告書作成について

実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施する。アンケートのデータは、「共有フォルダ」の中にある。

次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

講演会の内容、ロケット実施の様子

＜写真入りで、概要をまとめる＞

児童の作文<各学校は人数に応じて、3人程度（川迫小は今後協議）ー400字原稿用紙で3～4枚程度>

実施後のアンケート結果

※ アンケートの集約・報告書の分担については、学校間で連携して決定する。

8 役割分担など

担当学校を中心に分担。

- (株)植松電機・講演講師との渉外（町教委・豊平小<佐々木>）
- 講師の昼食 弁当の準備
- バス会社と連携（町教委・豊平小<佐々木>）
 - ※詳細が決定したら、各バスグループで確認の連絡をバス会社へ。
- 教育委員会届出・保護者通知（各学校）
 - 9月20日（水）までに、「共有フォルダ」の中にデータを入れておきます。
 - 保護者通知は、9月28日（木）を目安に学校ごとに配付する。
- 会計（町教育委員会）
- 全体会に関わって
 - ◆全体会進行<梅田（川迫小学校）>
 - ◆開会式挨拶<佐々木〔豊平小〕>
 - ◆閉会挨拶・謝辞<上本〔川迫小〕>
 - ◆児童代表挨拶（閉会）<八重東小>

9 その他

○児童の安全について

- ◇プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させるようにするとともに、「安全なバス利用（交通安全）」「発射時の諸注意（指導者の指示をよく聞く、ロケットのとんだ先に留意する等）」など、安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。
- ◇参加する養護教諭については、想定される擦り傷などに対応できるように、応急措置ができるように準備をしておく。
- ◇不測の事態が生じた場合の対応を考えて、各学校においては保護者等へ緊急の連絡がとれる体制にしておく。
- ◇特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、引率職員体制について配慮する。

○保護者の参加について

講演会への参加は、可能<二階席で>とする。今年は、町教委より地域の方への案内が出ている（9月区長文書での地域回覧あり）。地域の方は、参加の申し込みが必要であるが、保護者の方は事前の申し込みは必要ない。ロケット打ち上げも参観自由であるが、ロケット製作に関わっては立ち入りを遠慮してもらう。

○事前の会場準備について

前日の18日（水）17時30分より、会場準備等を行う。町教委職員に加えて各学校1名以上の職員が参加して実施する。町教委よりの依頼の文書が、後日、学校へ送付される。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

10月19日（木）に、朝は小雨の降るあいにくの天気でしたが、計画通りに北広島ふるさと夢プロジェクト「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」が実施されました。この事業は、将来の「ふるさと」を担う人材の育成をめざして行われ、町内9小学校の6年生（167名）が参加しました。

【学校紹介】

各学校の自慢や頑張っていることを工夫して発表し合い、相互理解を深めました。



【植松先生の講演】

幾多の困難を乗り越えて、民間企業で宇宙開発を成し遂げられた(株)植松電機代表取締役の植松努先生の講演を聴きました。

先生の経験をもとに繰り広げられるユーモアたっぷりのお話には、子どもたちみんなが釘づけでした。勇気や元気、やる気が出る魔法の言葉をたくさんプレゼントしていただきました。



人は足りないからこそ助け合える。足りないことをバカにしないで。恥ずかしがらないで。

不安の向こうに喜びが待っている。勇気を出して。

人間は失敗する。失敗はだめじゃない。恥ずかしくない。失敗は乗り越えたら力になる。失敗をしたときに、どうすればいいのか考えよう。



【ロケットづくり】

ロケットは、グループごとに作りました。初めて顔を合わせる他校のメンバーを前に、緊張気味の子どもたち。組立説明書を読んで、自分たちの力でロケットを作っていきます。分からない所をグループの人と相談しながら作っているうちに自然と打ち解け、笑顔がたくさん見られるようになりました。



なるほし。
ありがとう。



どうやって作ればいいのかな。

困ったときには、植松先生がやさしく教えてくださいました。

パラシュートを作ったり、ロケットの中に入れたりするのが、特に難しそうでした。



こうやるんだよ。



最後に、マジックで絵や模様を描いて完成。世界に一つだけのロケットが出来上がりました。

説明書を黙々と読みながら作り始めたロケット作り。緊張していた児童も、次第に打ち解けて他校の友達と協力する姿が多く見かけられるようになりました。ロケットが形になるにつれ、笑顔も多くなり、学校を越えた友達の輪を広げることができました。

【ロケットの打ち上げ】

ハラハラ・ドキドキのロケットの打ち上げ。「3, 2, 1, 発射」の合図で、次々と打ち上げられるロケットに、大歓声が沸き上がりました。発射ボタンを押すとロケットエンジン（火薬）に火がつき、0.3秒で時速200kmを突破し高さ100mに届きます。子供たちは目を輝かせながら自分のロケットの軌跡を追っていました。基本的には宇宙へ打ち上げられるものと同様のロケットを作り、打ち上げを成功させたという夢と感動の体験を、参加児童のみんなで共有しました。忘れられない思い出になることでしょう。



やったあ。飛んだぞ。

すごい迫力だなあ。
これこそ、本物のロケットだ



上空でパラシュートがパッと開けば大成功。ロケットがふわふわと落ちてきます。キャッチできるかな??



忘れられない感動体験となりました。

講演会 宇宙へとばせるロケットづくり「思うは招く」 ～夢があればなんでもできる～

講師 株式会社植松電機 代表取締役 植松 努 先生



今日はみんなに会えることを楽しみに北海道からやって来ました。ちなみに北海道は気温が1℃でした。ちょっと高い所では雪が降っていて、もう北海道は冬です。今日はみんなに、小さなロケットを作ってもらいます。小さいけれど実際に宇宙で飛ばすことができます、本物の実験装置です。今日みんなが作るロケットは、作った人が発射ボタンを押すと、0.3秒後に時速200kmを突破します。ものすごい勢いで飛んで行った後、空で自動的にパラシュートが開き、ゆっくり

りふわふわ戻ってきます。戻ってきた後も、ロケットエンジンを取り替えると何回でも飛ばすことができます。取り替え用の電池はインターネットのアマゾンで買うことができます。今日みんなは本物のロケットを作って飛ばせる人になります。ほとんどの人は「ロケットなんて無理だよ」とあきらめています。そんな、大人があきらめていることができるわけですから、実際みんなはすごい人なのです。

今からみんなに私の話を聞いてもらいます。話の内容は、夢の話だったり、仕事の話だったり、色々あるわけですが、今日、私が話をする目的は、私の仲間を探すことです。今日の話はとっても簡単な話です。「思うは招く」という話です。中学生のとき母が話してくれた「思ったらそうなるよ」という意味です。この言葉で私は何でもできるようになってしまいました。大好きな言葉です。夢があったらなんでもできるのです。だからみんなには素敵な夢をたくさん持ってほしいと思います。

はじめに自己紹介をします。私は1966年8月17日生まれの51歳、しし座です。高校を卒業した後、ある漫画に夢中になってしまいました。プレステ3にはまり、普通のコントローラーでは満足できなくなり、全部自分で作ってしまいました。また、小さい頃からアニメが好きで、アニメから色々なことを学んできました。今も好きで、録画したり、アニメ専門チャンネルで見たりして楽しんでいます。

私は今北海道の真ん中の赤平という町に住んでいます。この町では、昔、石炭を掘っていたのですが、今はそれはなくなり、6万人いた人口が1万1千人にまで減って、今でも毎年3百人くらい減っています。町には高校がなく、仕事もないです。大人は「田舎だからしょうがない」とぼやきます。でもぼやいてもなんにもならない。仕事は作ることができるのです。だから私は、この町で生まれて初めて会社を経営しています。まさか自分が会社を経営するとは思っていませんでした。今は社長をしています。小学校の頃の通知表には集団行動ができない、落ち着きがないと書かれていました。そんな私に学校の先生が「ちょろまつ君」というニックネームをつけてくれました。「ちょろまつ君」を大切にしてくれたのが祖父です。3才の時、祖父と一緒にアポロ宇宙船が月に着陸したテレビを見ました。本屋に行って、私が飛行機やロケットの本を手にとると、祖父が喜んでくれました。祖父の笑顔が見たくて飛行機やロケットの勉強を続けると、私はロケットが作れるようになりました。ロケットは町のどこにも売っていないけれど、作ることはできるのです。

自分達が作ったロケットを飛ばすとき、失敗するかもしれない、と不安になります。でも、無事に飛んだら涙が出ます。不安の向こうに喜びがあるのです。失敗したらどうしようという気持ちに踏み込んでみてください。ほんのちょっとの勇気があればいいのです。私は、ロケットは危ないから作っちゃいけないと思っていました。そんな時、北海道大学の長田先生と出会い、お互いの足りないものをお互い

で補い合いながらロケットを作るようになりました。人と人が出会うのは、意味があります。困っているときは誰かに話をしてください。すると誰かが助けてくれます。自分でできないことは、誰かに助けてもらえばいいのです。そうやって長田先生と私は安全なロケットを作ることができるようになりました。これができなかったらだめだ、なんていうことはないのです。できないこともあっていいのです。この世にはだめな人なんていないのです。問題が解決しないとき、一人で頑張らないで、勇気を出して助けを求めるといいのです。頼られたら助けてあげてください。そうしたらみんなはずごいことができるようになります。私たちも助け合ったら、ロケットを丸ごと作って打ち上げることができるようになったのです。人工衛星も丸ごと作れて、宇宙で動いてしまいました。そして私の会社には、宇宙と同じ無重力状態を保つタワーが建っています。誰も作ったことがないから、設計図がなくて大変でした。新しいものは誰も知らないから作り方を絶対に教えてもらえないことに気づきました。

私たちがこんなに豊かな暮らしをしているのは、本があるからです。昔の人が大事なことを記録に残しておいてくれたのです。本には人間の経験が詰まっています。「キュリー夫人」の本を読んだら、キュリー夫人の人生を生きることができます。しかし、本には昔のことしか書いてありません。自分で考えて自分で試すことで、新しい世界に足を踏み入れることができます。初めはなかなか信じてもらえませんが、でも、例えばかにされても自分を信じることです。自分のことを一番分かっているのは自分です。北海道の常呂町は、1988年にアジアで初めてのスポーツ施設を作りました。カーリング場です。作る時には色々な非難を浴びましたが、頑張っていてやっていると、この町からたくさんカーリングのオリンピック選手が出たのです。奇跡を起こすキーワードがあります。「ちがう」は「すてき」です。私達は人がやらないようなことをやったのです。そうしたら、必要とされるようになりました。あこがれていたJAXAが毎月会社を訪れるようになり、色々な共同研究もするようになりました。

私の会社の本当の仕事はリサイクルに使用するマグネットを作ることです。古くなった建物を壊したのがれきを分別するときに、マグネットが必要でした。そのマグネットは私の会社しか作っていません。世界で使ってもらっています。マグネットの作り方は誰でも知っています。小学校5年生の理科の時間で習います。そのマグネットをただ大きくしただけです。発明したのです。小学校で学んだことを生かせば、会社が作れるのです。みんなも会社の社長になれます。社長になるためのコツは簡単です。いやなことがあっても、我慢をしたり、あきらめたり、愚痴を言ったり、無視したりしないことです。いやだと言っているでも何も変わりません。何でいやなのかを考えることです。そうすると人を助ける発明になります。いやな思いをしている人は自分一人ではないのです。世の中には山のようにたくさんいます。そこで勇気を出して自分を助ける方法を考えるのです。すると他で苦しんでいる人を助ける発明になっていくのです。私はリサイクルの仕事を手伝うことで危ないことをたくさん見つけました。働く人達は「仕方がない。」とあきらめていました。あきらめないで考えると発明になりました。考えるためにはあるものがが必要です。それを教えてくれたのが「トムとジェリー」でした。みんなの心にもトムのように怖い心と優しい心があります。優しい心が考えることを助けます。話し合いをするためには言葉が必要ですが、考えるためにも自分やほかの人の心を伝える美しい言葉が必要です。美しい言葉を身に付けるためには本を読むことが大切です。たくさん本を読んで美しい言葉を身に付けてほしいです。

最初は上手くロケットは飛びませんでした。爆発ばかりしていました。なんでこんなに失敗ばかりするのかと思いましたが、人間は初めてすることは失敗するのです。人間はやったことがないことに出会うのです。これから先みなさんも失敗しまくるのです。でも失敗は恥ずかしくないのです。失敗をたくさん乗り越えたら力になります。失敗しないためには色々なことを考えること、イメージすること、未来を想像することです。そうすることで安心して前に進んでいくことができます。しかし、それでも失敗はします。失敗しても失敗に罰を与えてはいけません。罰がいやだから失敗することから逃げてしまうようになります。そうすると何もできなくなります。失敗は自分のせいにはせず、「何でだろう？だった

らこうしてみたら・・・」と紙に書いてみればよいのです。失敗しないため、分からないことは調べればよいのです。工夫すればよいのです。私たちは教科書に載っていないことをやっていますが、工夫に必要なのは、興味と好奇心です。みんなも興味と好奇心を大事にすると、新しいものを生み出す仕事ができるようになります。私もそうしてロケットを飛ばすことができるようになりました。

ロケットは軽いのがよく、実は、全体が鉄より強い特殊なプラスチックでできています。プラスチックはガラス繊維やカーボン繊維のことで、どこでそのプラスチックが手に入るかというと、今ではホームセンターで買うことができます。人工衛星の精密な角度センサーは、ゲーム機に入っていました。日本が今作っているH2ロケットは30年前に作られました。かなり昔です。携帯電話も20年も経つとかなり進化し、今ではスマホになっています。科学は進歩しています。大人が「難しい」と思っていることは、意外とホームセンターに行けばできてしまうかもしれません。スマホはとても便利で、私の会社にはいろいろな国の人が来ますが、スマホに日本語で話しかけると、その国の言葉で話してくれます。100カ国に対応しています。みんなが大人になる頃には、このような機能はますます発達し、世界の壁もなくなっているかもしれません。

私は祖母から「お金は値打ちが変わってしまうから、貯金するより知恵をつけるために使いなさい。」と教えられました。だから、私は本を買いました。そして、本屋で運命の本に出会いました。「よく飛ぶ紙飛行機集」です。私は片方の耳が悪くて球技が苦手だったけれど、この本が私に自信をくれました。私の気に入っている本は飛行機を作るための設計図が書いてある本です。これを見て作った紙飛行機が体育館の端から端まで飛んだとき、自分もびっくりしたけれど、私をよく思っていなかった友達が、「おまえ、すごいなあ。」とほめてくれたのです。私はこの本の紙飛行機の作り方の計算を全部覚えました。

この頃、友達がプラモデルを作り始めたので、私も作っていたら、父は「そんなもの簡単すぎるから鉄で作れ。」と言って、無理やり電気溶接やガス切断をやらされました。みんなが遊んでいるのに、私だけ働いていると思いました。私は困りました。困ったときは本屋さんに行けばよいのです。そこで、ペーパークラフトの本を見つけました。ペーパークラフトで飛行機を作っているうちに金属でも作るようになり、近所の板金屋のおじさんが「お前は筋がいい。」と言って、専門書と道具をくれました。そのおじさんは、「どんな高価なものも実は全部普通の人が作っているんだよ。」と教えてくれました。だから、私は欲しいものに出会ったときに「値段はいくらかな？」と思わなくなりました。「どうやってできているのかな？」と考えるようになったのです。たったこれだけで、私は売っていないものも自分で作れるようになりました。それは仕事になり、会社になりました。

私が中学生になった時、素敵なことが起こりました。スペースシャトルが飛んだのです。いつか自分も乗りたいと思いました。自分は将来スペースコロニーで働くのだと真剣に考えました。日本人で最初にスペースシャトルに乗った毛利衛さんは、北海道の田舎の人でした。私も負けられないと思いました。しかし、進路について学校の先生と話をした時、私の夢を語ると「飛行機？ロケット？無理無理。」と相手にしてくれませんでした。周りの他の人も同じことを言いました。私は考えました。私にこんなことを言う人は、全員やったことがない人です。実は、やりたいことをやったことがない人に相談をすると、できない理由を教えられるだけなのです。それは夢をつぶされることになるからつらいのです。

考えなくてもよい仕事は、ロボットがやってくれるようになり、無人工場が増えました。みんなが今やりたい仕事もロボットがやるようになるかもしれませんが、ロボットにできないことをすればよいのです。それは考えることです。世界中が求めている考える人とは、「やったことがないことをやりたがる人」「あきらめない人」「工夫する人」です。あきらめないためにはどうしたらよいか、自分の夢をどんどんしゃべるのです。やりたいことをやったことがある人を探すためにも自分の夢を分かってくれる人に出会うまでしゃべり続けるのです。仲間を探し続けてください。

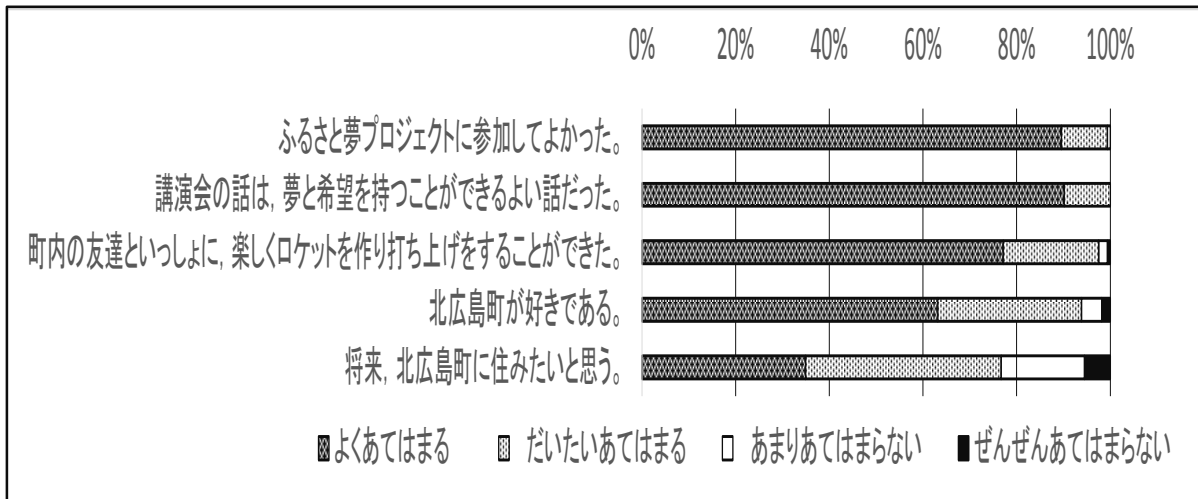
でも私の生まれた町には残念ながらロケットや飛行機を作ったことがある人がいませんでした。だか

ら出会いませんでした。しかし本があります。本はすごいところがあります。死んだ人と仲良くなれることです。私はライト兄弟と仲良くなり、ライト兄弟からたくさんのことを学びました。人生で大事なことはフライングすることです。できるだけ早く自分がやりたいことを始めてみることです。高校や専門学校を卒業するのを待たなくても、今からでもやりたいことは練習できます。実際世の中には、経験が力になる仕事がたくさんあります。身の周りにあるものを工夫してやってみるのです。その方が早く力が付きます。フライングするためには本を読めばいいのです。では、どんな本にめぐり会えばいいのか。どんな本でもいいのです。漫画でもいいのです。漫画にもたくさんいいことが書いてあります。私は本を読むことで伝記の登場人物たちから「あきらめない」ということを教えてもらいました。だから自分の好きなことをどんどんやってきました。自分でできることがたくさん増え、こうしてロケットを作ることができるようになったのです。自分の夢を叶えることができました。夢を叶えることができたのは、「勉強とは関係ないから止めなさい」と言われても止めなかったからです。止めなくて本当に良かったです。大好きなことは、必ず力になります。テストの点数が悪かったからといってあきらめることはないのです。大好きなことを取られないようにしてほしいのです。みなさん、実は誰にも、自分にも未来は分からないのです。だから、未来をあきらめる理由がないのです。みんなにはすごい可能性があります。みんなは人類の可能性を変える事ができる人なのです。好きなことをどんどんやってください。好きなことは頑張れるし、覚えます。好きなことをやっていると仲間が増えます。だから私は、自己紹介で好きなことを話したのです。そうすると一人ではできないことができるようになります。その輪っかがどんどん広がると歴史が変わってくるかもしれません。その可能性をみんなが持っています。だからみんなの命は大切です。その可能性を言葉で殺してしまうようなことを絶対してはいけません。人が一生懸命やっていることを「どうせ無理」というような言葉でつぶすようなことは様々ないじめの原因になります。

人は生きていくためには、安心、自信、自由の3つが必要です。1つでも欠けると、心がつらくなります。そんなときは、心を守ったらよいのです。心の守り方は3つあります。「いやだと言うこと」「離れる（逃げる）こと」「信頼できる人につらい気持ちを話すこと」です。必ずどこかに助けてくれる人がいるから、自分の悩みをしゃべり続けてほしいと思います。私には、「人の自信と可能性が奪われない社会を作りたい」という夢があります。みんなが仲間になってくれるとうれしいです。「どうせ無理」という言葉を耳にしたら、「だったらこうしたら？」と力を貸せる人になってほしいです。自信はお金では買えません。人に勝っても、見下しても手には入りません。自信がない人は、自分より弱い立場の人の自信を奪うことがあり、暴力や差別や、いじめになることがあります。自信はやったことがないことをやったとき身に付くものです。

これから中学校にいったら、色々な夢を持つでしょう。例えば、「医者になりたい」と思ったとき、医者になるには難しいことがあるかもしれません。でも「なぜ医者になりたいのか」を考え、「人の命を助けたい」のであれば、医者が使っている道具を作る人になるとか、勇気を持つ漫画をかく人になるとか、料理を作る人になるとか、道は無限にあります。夢と仕事は分けて考えたらいいのです。夢はいくつあってもいいです。夢がたくさんあると、一つくらいうまくいなくてもいいのです。中途半端と言われても何もしないよりいいです。自分のペースでゆっくりすればよいのです。仕事は人の役に立つことです。仕事はどんどん生まれて消えています。仕事はたくさんあるけれど、人間の本当の仕事は「よりよくの追求」です。みんなも日常の暮らしの中で、「ほんのちょっとよくなるかな」という追求を大切にしてほしいです。仕事はなくなれば作ればよいのです。悲しいこと、苦しいこと、不便なことを自分ならどうするかと考えることです。それには優しさが大切です。どんどんやったことがないことに挑戦してほしいのです。そして、誰かの夢を聞いたとき、「だったらこうしてみたら？」と言える人になってください。そうすると夢は叶うのです。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）



講演会の話についての感想や思いについて

芸北小学校

- 植松さんの言われた「夢をどんどん人に言う」ということをはじめ聞いたときには、『どういうことかな?』と思っていたけど、話を聞く中で自分の夢をどんどん言うことで、自分と同じ考えを持った人に会えるということだと感じました。だからどんどん夢を伝えていこうと思います。
- 植松さんの経験から学んだことを私たちがもらったので、このような人もいるということを広げたい。挑戦科と当てはまるところがあり、いいお話だった。
- 将来の夢に役立つ話だった。人の役に立つ仕事はとても大切なんだと感じました。
- 「人間は失敗するのが当たり前だから!」と教えてください、自分に自信を持つことができました。新しいことに挑戦し続けていこうと思います。
- これからは、自分に自信を持ってたくさん夢を持ちたいと思います。いろいろなことに挑戦していきたいと思います。
- 「人に必要のない人などいない。」という言葉を聞いて感動しました。
- 「自分の夢を人に伝えること」で夢の大切さがよくわかった。

- 植松さんが話された「夢をいっぱい持つ」という事について、今は夢があまりないので、これから夢をどんどん持っていこうと思った。
- 私はこの話を聞いて、小さい夢でも大きい夢でも、自分がなりたいと思うものに向かって一生懸命やったらできるんだということ学びました。そして自分の夢をいろんな人に言って相談したりしていこうと思いました。「人は必ず失敗するんだ。」という言葉聞いて、今は失敗した時、責めていたけど、今度からは自分を責めずに次はどうしたらいいかを考えようと思いました。
- 植松さんの話を聞いて「無理」という思いをなくすことができました。将来の夢を考え勉強したいと思いました。
- 話を聞くと、しっかり自分に自信を持つことや、「どーせ無理」ということを「こうしてみたら」と考えることなどを学びました。自分の視点を変えるだけで変わるのだと思いました。そして夢を持つ時に、夢というのは「達成しなければいけないもの」と思っていたけれどできないことでも夢と言われたから大きな夢を持ちたいと思います。
- 夢があれば何でもできるという言葉や夢はたくさんあっていいという話を聞いて夢を持つことの大切さを知りました。

大朝小学校

- おもしろく、自分も日ごろから好きなことを進んでしたいと思いました。
- ぼくは建築士になりたいんだけど、難しいと思っていました。でも、話を聞いて、建築士よりももっと難しいロケット作り成功していたので、ぼくもあきらめずがんばりたいと思いました。
- 人は失敗をするものだから、失敗しても落ち込まないで良いという言葉が心に残った。

- 「自分なんて」と考えるんじゃないんだよ、という思いが伝わってきました。
- 夢と希望を持つことが大切だと思った。
- 普段の生活にも取り入れていきたいことがたくさんあった。
- 「無理」という言葉は、人の夢をつぶすから、言うてはいけない。
- 「思うは招く」という言葉が心に残っています。

<p>○「どうせ無理」は人の可能性を奪う。「だったらこうしてみたら」という言葉に、「そうなんだ。みんなに『だったらこうしてみたら』』と言ってあげたいと思った。</p>	<p>○自分のことに当てはまる話もあり、よく分かるお話でした。将来のことも考えるきっかけになりました。 ○植松先生のお話を聞いて、夢を持つことが楽しんだと思いました。</p>
<p>新庄小学校</p>	
<p>○がんばって自分の夢をかなえようと思った。 ○やったことがない人ではなく、やったことがある人になやみを相談し、意見をもらうことが大切だと学びました。 ○自信を持つことは大切だと分かった。 ○ロケットの打ち上げを失敗する映像を見たとき、私は爆発をしたり崩れ落ちたりすることが多くて、打ち上げるのは大変なんだと思いました。 ○簡単にあきらめないことが大切だと思った。</p>	<p>○植松さんの話は面白くて分かりやすかった。夢を持つのはいいことだと分かったのでよかった。 ○植松さんは夢を持ち続けて、ロケットを作ったのでとてもすごいと思った。 ○植松さんの話を聞いて、「夢はあきらめなかったらかなう」と思った。私も希望を持った。 ○私は、パティシエになりたいという夢があります。講演を聞いて、私は自分の夢をなくしたくないと思いました。 ○将来の仕事（医者）に希望を持たた。</p>
<p>川迫小学校</p>	
<p>○自分の夢を「そんなこと無理よ。」と言われても、あきらめずに、チャレンジしていきたい。</p>	<p>○植松さんは、周りの人にロケット作りを反対されたけど、夢をあきらめずロケットを作ったので、私も夢を周りの人から色々言われても、あきらめないでいきたいと思った。</p>
<p>八重小学校</p>	
<p>○植松努先生のお話を聞いて、自分の夢に向かってがんばっていかうと思いました。 ○今でも自分の夢に向かって頑張っていることはどんどん続けていこうと思いました。 ○これからは色々なことに挑戦していくことができたらいなと思っています。 ○今まで自分が思いもしなかった考えを植松先生がおっしゃっていて勉強になった。 ○夢について考え直すことができた。 ○話を聞いてロケット作りなどに興味をもった。 ○自分は「どーせ無理」という言葉をよく使っていて、その言葉の意味を考えることができて良かった。 ○先生のお話を聞いて、まだ夢を実現していない人の話を聞くのではなく、夢を実現した人の話を聞くことを知りました。 ○自分の夢について、改めて考えることのできる良い講演会でした。 ○自分の夢を否定する人は、やったことがない人だから、否定されても色々な人に夢のことを話して、否定せずに応援してくれる人を探したらいいという話に、「そうか、友達がそんなこと無理と言っていることは、やったことがないからなんだ。否定され続けても、この夢を目指そう。」と思いました。 ○これからの自分に役立つ話をたくさん聞くことができて良かった。 ○「夢があれば何でもできる」という言葉がとても心に残った。 ○植松さんのように自分の夢を実現したいと思った。 ○自分に自信をもち、日々の生活をする。 ○自分に当てはまる事や、はまらない事があって、夢</p>	<p>○今の自分たちの年代の頃の話をしてくださって関心をもてた。 ○将来の夢があつて、それをあきらめない心をもつことが大事ということが分かった。 ○自分の将来の自信をくれたから勇気が出た。あきらめなくていいんだと思った。 ○探せば必ず仲間はいると聞いて、絶対一人ぼっちの人はいないと思った。 ○話を聞く前までは、いやなことがあつてもあきらめない気持ちがあまりなかったけど、「あきらめない」という気持ちが強くなった。 ○自分もすぐにあきらめるけど、この話を聞いてあきらめないことが良いと聞いて、自分もすぐあきらめないと決めました。 ○夢をあきらめない心が大切だということが分かった。 ○植松先生のお話を聞いて、すごく印象に残った言葉があります。それは「不安の向こうに喜びがある。」です。人生不安なことだらけだけど、その向こうには、必ず喜びがあるということを知って、参加してよかったと思いました。 ○僕もプロ野球選手になりたいと思っているので、これからも夢に向かっていきたいです。 ○自分の夢を諦めずに実現させようと努力することが大切だと分かりました。 ○これから大きくなるにつれ、思い通りにいかないことばかりだと思うけど、諦めずに、粘り強く努力することが大切だと分かりました。 ○講演会のお話を聞いて、「失敗をおそれずにチャレンジする」「自信をもつ」ということがどれだけ大切なのかということが分かりました。ためになったなと思います。植松先生のおかげで夢をもつこ</p>

<p>はたくさんもっていいという言葉が心に残った。</p> <p>○ぼくもどんなにつらかったりいやだったりしても、絶対に死を選ばず、前を向いて進んでいこうと思いました。</p> <p>○自分に自信がなかったけど、自信をもつことができた。</p> <p>○自信をなくすような言葉は相手も自分も苦しい言葉というのが分かりました。まだ人々が「できるわけない」と思っているようなことを、何とやられてもやって、成功すると自信がつくことが分かりました。自分は失敗を恐れていたけど、人間は失敗するものと聞いて、失敗を恐れなくても良いと思うようになりました。</p> <p>○何事にもあきらめなかったら、いつかは叶うということがわかった。</p> <p>○講演会の話聞いて、夢や希望などをもつことができた。</p> <p>○ふるさと夢プロジェクトに参加をして、良い体験ができた。</p> <p>○あきらめなかったら成功の道へたどりつくということを、その時に気づきました。</p> <p>○必ずいつか途中で壁があるけれど、思い切ってやるのはいいことだと知りました。</p> <p>○話を聞いて、新しい考えが生まれた。人のだれにでもある可能性をこわすことはなくしたいと思った。</p>	<p>とができました。</p> <p>○夢は体験したことのない人に言っても大体はマイナスのことを言われる。体験したことがある人からはアドバイスなどがもらえる。</p> <p>○もっといっぱい夢をもとうと思いました。</p> <p>○もしだれかに「どーせ無理」と言われたり思われたりしても、あきらめず粘り強く「できる」と思っていたらだれでもできることがわかりました。</p> <p>○植松さんはすごいなと思いました。夢をあきらめなければ叶うんだと思いました。</p> <p>○講演の中でとてもおもしろい場面があり、楽しく聞くことができました。</p> <p>○植松さんは「ぼくたちのことをよくよく分かって下さっているな。」と感じた。来年の六年生にも聞いてもらいたい。</p> <p>○植松先生も昔いろんなことを言われても、夢を捨てなかったからロケット作りができていっているというので、僕も夢を捨てないようにします。</p> <p>○「不安と恐怖の先に喜びがある。」「もう無理だと思っ てはいけない。」など、植松先生にこれから生きていくうえでとても大切なことを教えてもらい、サッカーの試合でも植松先生に教えてもらったことを生かしてプレーすることができました。いい経験をさせてもらいました。</p> <p>○話を聞いて、「人は失敗するもので、失敗するからこそ成功が嬉しい」ということがわかった。</p>
--	--

豊平小学校

<p>○私はいつもチャレンジはしているけど、失敗をすることは恥ずかしいことだと思っていました。だから、いつも絶対失敗せんようにやろうと思ってチャレンジしていました。でも、失敗はしても恥ずかしくないことなんだということが分かりました。</p> <p>○話を聞いて、夢をかなえるために努力が大事だと分かりました。私は夢はあるけど、今はどのようになかなえたらいいか、よく分かりませんでした。でも、今私にできることは何だろうと考えてみました。すると、花屋になりたいので、たくさんの花を知ろうと思いました。そう思えたのは、教えてくださった方なので感謝したいです。</p> <p>○植松先生のお話、すごく元気が出るような話でした。何事もまずは挑戦してみないと何も始まらないことが分かりました。私は、「失敗したらどうしよう。」と考えて、できるか分からないことはやってきませんでした。でも、少しずつでもいいから、新しいことにチャレンジしてみようと思えることができました。</p> <p>○ロケットで失敗してようやくできるようになっていくというので、これまで失敗してくれたから自分はできたという話を聞いて、技術の進歩はすごいことなんだなあと思いました。</p> <p>○夢をもつことは簡単だと思ったけれど、いざ考えると難しくなる。</p> <p>○私は、チャレンジすると失敗をすることを話してくださいってなるほどと思いました。</p> <p>○自分の好きなことをやっていくことの大切さを学びました。あきらめずに不安なことに立ち向かっていく</p>	<p>○自分の夢を人にたくさん話すことが、共通の人を見つけるためになることを初めて知りました。でも、夢を相談する人や相談された時に返す言葉を選ぶのは、とても難しいと思います。</p> <p>○夢は1こだけかと思ったけど、何個もあってもいいんだなと思いました。「夢があれば何でもできる。」と言っていて、本当にそうだなと思いました。</p> <p>○ぼくは、夢をかなえるためには勉強しないといけないと思っていたけど、そんなに難しく考えなくていいんだなと思いました。それと、夢をかなえるのに仲間が必要だということが分かりました。一人だと何もしないから協力することを学びました。</p> <p>○少しお話の中で難しいこともありましたが、でも「そうだなあ。」と思うところもありました。「だったらこうしてみれば。」など、「わからん。」だけでなく、考えてみることも大切だなと思いました。</p> <p>○自分でいろいろな機械などを作っていたからすごいと思いました。</p> <p>○「いやなことはすぐいやと言う。」など、今まで言えなかったことが今回の話を聞いて言える自信がもてるようになりました。</p> <p>○「だめな人間なんていない。」ということを知り、心にズキッとささりました。時々、「私はだめだな。」と思うことがあったから、これからは考え直そうと思いました。</p> <p>○この世でだめな人間なんていないと植松先生がおっしゃっていて「たしかにそうだな。」と思いました。また、自分が言った一言で人を殺してしまうこともあるので気をつけていきたいなと思いました。</p>
--	---

<p>と喜びがあると聞いて勇気をもらえました。</p> <p>○植松先生の昔のことや今は社長になっていると聞いてすごいなと思いました。私のお兄ちゃんはロケットがとても好きで私はあまり好きではありませんでした。でも、植松先生の話を知ると、いいことや後悔したことの思いを言っていて、すごくがんばってここまでロケットを作ったのがすごいなと思いました。</p> <p>○ぼくはプロ野球選手になりたいので、ロケットと全然関係ないけど、楽しかったからよかったです。なかったけど、今はロケットが好きになりました。</p>	<p>○「失敗をした方が良い」や「あきらめずがんばる」、「みんなと協力する」などたくさん学びました。特に、失敗をした方が良いということは、いいことだと思います。私は、失敗をできるだけしないほうがいいと思っていましたが、この話を聞いて、失敗をしないと考えられなくなる・成長しなくなる・挑戦しなくなるなど良くないことが起こることが分かりました。</p> <p>○植松先生が、すごく良い言葉やみんなをはげます言葉をたくさん言ってくださって、自分に自信をもてるように思った。植松先生が難しい言葉をあまり使わずにおもしろく言ってくれたので楽しかった。</p>
---	--

本地小学校

<p>○夢というのは、私達の考えよりも大きなものでした。私は将来叶えたいものや、希望や願いなどが夢だと思っていました。植松先生の話を知り、夢というのは、ずっと続き、無くならないものだと思いました。</p> <p>○植松先生のおっしゃったこと全部が良いことだったので、植松先生の話を知ってよかった。</p> <p>○夢をもっていたら、いつか大きなことをやりこなすことにつながるのかなと思った。</p> <p>○講演会でたくさん植松先生の昔の話を知り、思ったことは、「夢はあきらめない」「夢はいくつあってもいい」ということが夢で何個あってもいいんだなと思いました。</p> <p>○話を聞いて、植松先生は、自分に夢を持たせてくれるようなことをおっしゃっていて、とてもうれしく思いました。</p> <p>○植松先生の話を知り、ぼくは最後まであきらめなかったら、必ず夢はかなうことが知れて、これからの学習や生活にいかそうと思った。</p> <p>○「不安の向こうに喜びがある」という名言を知り、今まで苦しく不安だった時、ひたすらがんばれば達成感、喜びがあったことを思い出しました。だから、不安の壁をどうにか乗り越えることが大事だと思いました。</p> <p>○植松先生が「夢があればなんでもできる。」という言葉を知ったとき、私は、夢ができました。</p> <p>○夢は年をとっても、1つじゃなくて、たくさんあるようにしたい。</p>	<p>○北広島町に住んでいるぼくたちが、北海道に住んでいる植松さんの講演会を知るのは奇跡だと思います。</p> <p>○初めの植松先生のお話がぼくの考えを変えてくださいました。1番変わったことは、「夢」について考え方がたくさん夢をつかってよいのかというように思えたことです。本当にこのようなことをしてくださりありがとうございました。</p> <p>○植松さんの話を聞いて、私はすごいなと思いました。特に「どんなにつらいことがあっても死を選ばないでほしい。人生は一度しかないから。」という言葉に感動しました。</p> <p>○自分の将来の夢は、歯科衛生士で本当にこの夢がかなうのかと思っていましたが、植松さんのロケットに対しての熱い思いやロケットが空高く飛んでいくのを見て、自分の夢に自信がもてた。</p> <p>○今までだれもやしたことのないことに挑戦し、その挑戦をこれからの未来につなげていく。</p> <p>○植松先生も苦労や失敗を重ねて成功をしたんだと今回の講演を聞いて感じました。</p> <p>○植松先生の話は、分かりやすくおもしろかった。</p> <p>○今まで夢のことを考えたことがなかったけど、話を聞いて、夢について色々知ることができました。</p> <p>○話を聞く中で、植松さん本人の人生の話を聞いて、つらい話がたくさんありました。しかし、それに負けない植松さんの強い心にあこがれました。</p> <p>○夢は、みんなにばかにされてもあきらめない方がいいとわかった。</p>
--	---

八重東小学校

<p>○植松さんのお話を聞くと、自分を信じることやみんなと協力することの楽しさを学びました。</p> <p>○思うは招くという言葉を知ってよかった。「どうせ無理」ということを言わないようにしたいと思いました。</p> <p>○植松さんの話は、とてもおもしろかったし、いろいろな大事なことや言葉を教えてもらってよかったです。</p> <p>○講演の話は、「長いから嫌だなあ〜」と、最初思っていたけど、話を聞いているとすごく面白くて、夢と希望を持てる話でした。</p> <p>○植松さんの話は、おもしろく、具体的に全部分かりやすく説明をされていてよかった。</p> <p>○植松先生の話を知り、「失敗してもだめじゃない、だからこうしてみよう」と、前向きな考えになろうと思います。</p> <p>○話を聞いて、自分に自信を持つ方法も分かったし、</p>	<p>○ぼくは、植松さんお話を聞いて、努力することがとても大切だと思いました。</p> <p>○年をとっても、夢を何個持ってもいいということを知った。</p> <p>○話を聞いて、夢がたくさんあれば何でもできるということが分かった。</p> <p>○とても分かりやすく、おもしろいお話だった。</p> <p>○特に、「この世にだめな人間はいない」という、植松先生の言葉が心に残っています。</p> <p>○「失敗しても自分は悪くない、人間は誰でも失敗する」ということが一番心に残りました。講演を聞くまでは、失敗した自分を責めていたけど、これからは失敗しても、自分を責めないようにしたいです。</p> <p>○夢を持つ大切さが改めて分かった。</p> <p>○特に、「この世にだめな人間は一人もいない」という言葉が心に残っています。</p>
---	---

<p>心がとても楽になりました。とても、おもしろくてよい話だと思いました。</p>	<p>○とてもいい話でした。</p>
<p>壬生小学校</p>	
<p>○植松さんのお話を聞いて、自分の中のもやもやしていたものが軽くなった気がしました。夢が何なのか何のためにあるのか良く分かりました。「だったらこうしてみたら？」という考えが大切だなと感じました。</p> <p>○話を聞いて、自分なんてなどと思わず生きていこうと思いました。</p> <p>○失敗しても次がんばればよいことが分かった。新しいことにチャレンジしていこうと思った。</p> <p>○失敗してもいいからおもいきりやればよいんだなと思いました。話を聞いてぼくもそういう経験があったかなと思いました。</p> <p>○自分は無理と思わずに挑戦してみようと思った。</p> <p>○ロケットはだれでも作れると聞いて作ってみたいと思った。</p> <p>○いくら人に聞いてもやったことがないから、やったことがある人に聞くことがわかった。</p> <p>○少し笑いを入れながら大切なことを話してすごく分かりやすかったです。とくに、夢をあきらめないことが大切だとぼくは思いました。今後の人生に生かしていきたいです。</p> <p>○夢はたくさんあってもいいし、好きなことをあきらめないほうがいいということが心に残りました。</p> <p>○ぼくは、植松さんの話を聞いて、ダメな人間はいないなと思いました。だから、できなくても次のことを考えて生活したいと思いました。</p> <p>○ロケットは誰でも作れると思いました。植松さんは、いろいろなものを作っていると思いました。</p> <p>○ダメな人間はいないんだなと思いました。「失敗したらなぜ」などと考えることが大切だということが分かりました。</p> <p>○夢をたくさんもち最後まであきらめないということが心に残りました。</p> <p>○失敗をおそれず新しいことに挑戦していきたいと思いました。</p> <p>○今まで知っていたことでも改めて感じることができました。夢や希望はなくなっていくものではないことがわかりました。</p> <p>○ロケットを高いところまで飛ばすのにすごいがんばったことがわかりました。ぼくは、ものづくりが好きなのでこれからいろいろなものづくりに挑戦してみたいです。</p> <p>○おもしろかった。</p> <p>○私は植松先生の「自分なんて・・・」の話を聞いて、植松先生が小さいころからロケットを作るのをあきらめずにやり続けているので、私も夢を作ったら最後までやり続けたいです。</p> <p>○ぼくは、だれかにそれは無理といわれてもやればよいことが心に残った。</p>	<p>○「どんな大学へ行こうが関係ない。自分が夢をもつかどうか」という言葉が心に残りました。「周りにどれだけ無理だといわれてもやってみればよい」という言葉も心に残りました。</p> <p>○植松さんが話をしている時に「足りない所は助け合う」という言葉が心に残りました。</p> <p>○「何か困ったときは、本を読むといいよ。本を読むとそこに書いてある人の人生を自分のものにできるんだよ。」という言葉が心に残りました。私は、時々しか本を読まないけど、本をたくさん読もうと思うきっかけになりました。</p> <p>○私は、動物関係の仕事がしたいです。でも、家族(姉)から「もっと他のを選んだら？」と反対されて迷っていました。だけど、植松先生の話を聞いて他人にどう言われても自分の夢を強く持とうと思いました。</p> <p>○「ダメな人間はいない」がいい言葉だと思った</p> <p>○生きる大切さを知ることができた。</p> <p>○少しでも夢をもち、否定されてもあきらめないことがよくわかった。だから、自分もあきらめないようにしたい。</p> <p>○私は、新しい夢ができて、前の夢をあきらめたことがあります。でも植松さんの「夢はたくさん持っていていい」ということを聞いて、「たくさん夢をもとう」「あきらめなくていい」と思うことができました。</p> <p>○私はできないことや上手くできないことがあるとどうしても自分を責めてしまうけれど、植松さんの「足りない所は助け合えばいい」という言葉を聞いて、とてもうれしく思いました。だからといって、人任せにするのではなく、自分のできる最大をがんばろうと思うことができました。</p> <p>○植松先生が体験したことから、私たちに「こうしたらいいい」と、教えてくれたのでとても分かりやすかった。これからの未来に役立つと思った。</p> <p>○失敗などをおそれてはいけないんだなと思いました。周りから何か言われても最後まであきらめたらいけない。</p> <p>○私はやりたくないことはたくさんあるけど、それが将来へつながっていくかはわからないことなので、将来の夢とやりたいことは、別で考えればよいんだなと思いました。</p> <p>○難しい話もアニメにたとえて言ってくさったので、とっても納得した。たとえることは大切だと思った。</p> <p>○たくさん話を聞いていたけど、難しい話ではなく、中にはおもしろい話もあって楽しく聞くことができたのでとても楽しかった！</p> <p>○失敗をおそれず、新しいことに挑戦してみることが大切なんだなと思いました。夢をたくさん持とうと思いました。</p>

ロケット作り・打ち上げの感想や思いについて

芸北小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○初めて自分で作って自分で飛ばして達成感を感じることができました。 ○自分でも「1つのロケットを飛ばす」ということができたので、1つの自信にしていきたい。町内の6年生と関わって、楽しかった。 ○作った努力をロケットに積み込んで発射できたのがうれしかった。作ったかひがあった。 ○初めは、自分のロケットがちゃんと出来上がっているか、ロケットが上がるか不安でした。でも、いざ飛ばしたら高くロケットが上がったので、「やったー！」とつい言ってしまいました。 ○色々な学校の友達とロケット作りをして、自分で作ったロケットを自分で飛ばして高く飛んでいった時は、とてもうれしくて感動しました。 ○ロケット作りの時、話し合いながらできたのでとてもよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分からないところが出てきても、友達と話し合ったり、関係を広げることができた。だからすごくよかった。 ○他の人に教えてもらったり話しかけたりしたので、他校との交流が深まった。 ○ロケットを作る時に、少し迷っていた時に、教えてもらってうれしかったです。打ち上げの時、パラシュートが開くか心配していて、飛ばした時に開いたから安心しました。 ○ロケット作りで、打ち上げれるかどうか不安でしたが、パラシュートが開いてよかったと思いました。 ○町内の友だちとたくさん楽しく話をしながらできたので楽しかった。 ○最初は、あまり話が進まなかったけど、ロケットを打ち上げる頃には話ができて楽しかったです。
---	---

大朝小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○他の学校の子達と相談しながらできたのでよかったと思いました。 ○町内の子と仲良くなれた。 ○高く飛んだので楽しかったし、キャッチもできてうれしかった。 ○「飛ばなかったらどうしよう」という思いもあったけど、うまく飛んでパラシュートも開いて達成感があった。保育園のときの友達といっしょにしゃべれてよかった。ロケットも上手に作ることができた。 ○町内の人と仲良くなれたし、植松さんが大切なことを教えてくださってとてもよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班の人と楽しく打ち上げできたからよかった。 ○分からないところを人に聞くことができた。 ○はじめは話せなかったけど、途中から話せるようになった。みんなで3, 2, 1とかけ声をかけたりしたのもよかった。 ○ロケット作りは簡単だった。 ○町内の6年生と話をするのは難しかった。 ○ロケットを作るのは初めてだし、打ち上げたのも初めてでした。成功してよかったです。 ○いやなことがあったら、「どうせ無理」と思うけど、この話を聞いてから「どうせ無理」といわなくなりました。校内マラソン大会もがんばれました。
--	--

新庄小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○うまくパラシュートが開いてよかった。 ○ロケット作りでは、パラシュートの部分が難しかったです。ロケットの打ち上げでは、近くにいた人と楽しく話ができてよかったです。 ○難しかったけど、友だちに聞いたらできたのでうれしかった。 ○知っている友達や新しくできた友達と楽しくロケットが作れたのでよかった。 ○パラシュートがうまく開かなかったのが残念でした。でも、作るのは楽しかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロケットを作るとき、グループの人と分からないところなどを教え合えたので、よかった。 ○ロケットをちゃんと飛ばせて、最後にはちゃんとパラシュートも開いたのでうれしかった。 ○緊張して、グループの人とあまり話ができなかった。 ○ロケット作りで友達ができた。ロケットの組み立てや色ぬりを協力し合いながらできた。 ○ロケット作りで隣にいた友達が丁寧に作り方を教えてくれた。ロケットが空に打ちあがったとき、成功したんだと思った。
--	--

川迫小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○ロケット作りは、他の学校の人たちと協力して作れたし、飛ばすとけっこう飛んで、楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロケットを作るときは、班のみんなで協力してできて、飛ばすときは、すごい勢いで飛んで、パラシュートがちゃんと開いたから良かった。
---	--

八重小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○ぼくは作ることが大好きなので、いつもより楽しくロケットを作ることができたので良かったと思います。 ○また、町内の友達と一緒に何かを作ることができたら作りたいです。 ○思ったより簡単にロケットを作れた。 ○同じ机だった人と話しながら楽しく進められた。 ○他の学校の人とも協力して作ることができた。 ○ロケットを打ち上げたことについて、自分はすご 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロケット作りでグループの人と助け合い、アドバイスができた。 ○町内の友達と、ロケットを作れて良かったです。 ○ロケット作りでは、友達と一緒に助け合いながら作れました。 ○普段やらないことでも、好奇心をもって一生懸命取り組むことが大切だと分かりました。 ○ロケット作りの班のメンバーは、他の学校の人だったので、楽しく話したり、作り方を教えてあげた
---	---

<p>いことをしたと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロケットを作っている時に、「どうやって作ればいいのかだろう。」と自分で考えて、勇気を振り絞って聞いたことが良かった。 ○違う学校の友達と協力し合って、ロケットを作ることができました。 ○違う学校の友達と仲を深めることができました。 ○3, 2, 1でボタンを押して打ち上げるのに、私は3の時にボタンを押してしまって、周りのみんなが「早っ」と言っていたことが、思い出になりました。 ○他の学校の人と、よく分からない所を相談することができて、友達もできてとても楽しかった。 ○ロケット作りは意外と簡単だった。意外と高く飛んだ。 ○ロケットを簡単に作れたので、これのできるのすごいと思った。 ○ロケットの色塗りのときに、となりの席の子といっぱい話げできた。打ち上げの時は、仲の良かった友達と話をしながら打ち上げた。 ○ロケットを作り終わったあとに達成感が沸きました。打ち上げをして、パラシュートが開いたので「良かった」や「ほっとした」などの気持ちが出てきました。 ○思っていたより自分のロケットが飛んだのでびっくりした。 ○打ち上げのときは、空高くロケットが打ちあがって嬉しかった。 ○自分の夢を願って打ち上げたので、その願いが叶って欲しいと思った。 ○ロケットを作るときは分からないところがあったから、教えてもらいました。楽しくロケットを飛ばせました。 	<ul style="list-style-type: none"> り、教えてもらったりして、良いロケット作りができました。打ち上げの時も盛り上がりました。 ○ドキドキしながら、はじめて話した人とロケットを打ち上げることができた。 ○みんなと楽しくロケット作りができて楽しかったです。ロケットの打ち上げをして楽しかったです。 ○ロケットが空高く飛んで、パラシュートがちゃんと開いて着陸したので良かったです。 ○あんなに高く飛ぶとは思いませんでした。自分で作ったロケットが空高く飛んでいくことがとてもすごいことなんだと思いました。楽しかったです。 ○作り方が分からない子に教えてあげることができた。 ○ロケット作りが楽しかったです。自分のロケットが飛んで良かった。 ○打ち上げをしている時にすごいなと思いました。ロケット作りは少し難しかったです。 ○となりにいた八重東小学校の友達と協力してロケットを作り、無事に一緒に打ち上げができてとても良い思い出になりました。 ○作る時に不安だったけれど、打ち上げしてパラシュートが開いてとても嬉しかったです。 ○一番力の弱いロケットでも、すぐに時速 200km までいくなですごいと思った。 ○ロケットを作るのは思ったより簡単だなーと思った。 ○ロケットを自分でも飛ばせると知り、うれしかった。 ○貴重な体験ができて良かった。 ○ロケット作りで楽しく教え合い、打ち上げの時ボタンを押した瞬間、飛んだところがうれしかった。 ○ロケット作りでは難しいところもあったけれど、町内の六年生と協力してできたので良かった。 ○ロケットを上手く作り上手く飛んだので、とても嬉しかったので、また飛ばしたいと思った。
---	--

豊平小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○私は、ロケットを作る時に、最初はみんな無言だったけど私から話しかけてみんなもしゃべってくれたのでうれしかったです。打ち上げる時にできるか不安だったけど、芸北の人がたくさんしゃべりかけてくれたので、とても楽しくできました。 ○ロケット作りでは、班の人と教え合いながらできてよかったです。打ち上げでは、夢がかなえられたらと思ひながら飛ばしました。 ○ロケット作りの時、なかなかグループのみんなと話げできなかつたけど、だんだん話せるようになりました。打ち上げの時も、何人かの人と話げできたので良かったです。 ○他校の人と仲良く作ることができて、とても楽しかったと思ひました。 ○ロケット作り、打ち上げは他の小学校の人と一言もしゃべらなかつた。 ○「これってどうしたらいいん。」と聞かれたりして、どんどん話げすることができてよかつたと思ひます。 ○初めは、グループで作るときにあまりしゃべれなかつたけど、やっていくうちに少しずつしゃべれてよかつた。また、ロケットを打ち上げるときは他の学校の他の班の人としゃべれてよかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○打ち上げる時すごくドキドキして、でも、ちゃんとパラシュートが開いたのでよかつた。絵をかくのに、すごく悩んで、他の学校の人と「何かく？」と言えたのでよかつた。 ○ロケット作りで新しい友達ができて、協力することができたのでよかつたです。 ○最初は「飛ばなかつたらどうしよう。」と思ったり不安な気持ちがあつて、ちゃんと飛ぶように説明書を見てやりました。実際に飛ばすと、ちゃんと飛んだのでよかつたです。 ○ロケット作りのグループに、前から知っていた人も少しいました。でも、知らない子もたくさんいました。でも、ロケットを作る中で難しかったことや一人ではできないことを協力してできました。とても楽しかったです。 ○ロケットが意外と飛んで、おもしろかつた。家族にもロケットが飛ぶところを見てもらいたい。 ○ロケットがあれだけ飛ぶのはすごいけど、紙でもあれだけ飛ぶのですごい技術だと思ひます。 ○ロケット作り、打ち上げは楽しかつたけれど、他校の人とはあまりしゃべれませんでした。 ○最初は気まづくてあまり話げなかつたけど、少し
--	---

<p>○ロケット作りでは自分の好きな絵がかけたのでよかったし、楽しかったです。打ち上げでは、最初は飛ばないと思っていたけど、ちゃんと飛ばせたのでうれしかったです。</p> <p>○ロケット作りの時、班の人と話すことができたけど、打ち上げの時はあまり話せなかった。打ち上げの時は失敗せずに飛ばせたからうれしかった。</p> <p>○私はロケット作りでいろいろな絵をかけたので楽しかったです。打ち上げた時、とても高く上がったので楽しかったです。最初は上がらなかったからドキドキしました。</p>	<p>話すとたくさん話せるようになって楽しかったです。打ち上げの時に、すごく高く飛んでうれしかったし、ダイレクトキャッチができてうれしかったです。</p> <p>○最初は同じグループの人と全然話ができなくて不安な気持ちだったけど、自分から話しかけたら相手の人も話を聞いてくれてたくさんの友達できました。また、ロケットを飛ばした時も、すごく楽しくできたのでいい思い出ができました。またロケットを作りたいです。</p>
---	---

本地小学校

<p>○ロケットに対しての不安が晴れるようで、ロケットが打ち上げられた時、飛んで良かったと思いました。</p> <p>○ロケットを作るとき、パラシュートのおさめ方がよく分からなくて、打ち上げするとき、パラシュートがちゃんと開く心配だったけれど、ちゃんとパラシュートが開いてうれしかったです。</p> <p>○作ったときに分からなかったロケットのしくみが、打ち上げてから分かったので、とても感動した。</p> <p>○はじめは緊張していたけど、だんだん仲良くなって、最後には、話すことができるようになった。</p> <p>○友達といっしょにロケットを作るときこれでもいいのかなと思った時、友達が「あってるよ」と言ってくれて、友達はすごくいたほうがいいことがわかった。</p> <p>○ぼくは、ロケット打ち上げをしてパラシュートがうまく開かなかったので、うまく成功するまでチャレンジしてみたいと思った。</p> <p>○最初は打ち上げれるか、不安だったけれど、うまく打ちあがった瞬間、とてもうれしかった。</p> <p>○私の左側でロケットをつくらっていた人が、いろいろ話かけてくれて、すぐ仲良くなれました。他の人と同じ作業をしているので、他校の人たちが、打ち上げて成功した時は、私までうれしくなりました。</p> <p>○他校の人と交流してロケット作りをしたとき、分からないときお互いに助け合えてよかったと思いました。打ち上げでは自分の作ったロケットが高く飛んでいく所を見てうれしかったです。</p>	<p>○ぼくは、ロケットを製作したり、ロケットを飛ばすことがなかったから、ちゃんと成功するか心配していたけど、空高く飛んでうれしかったです。</p> <p>○ぼくの知らない他の学校の人達もロケット作りなどを通して、楽しくお話ができるまでになれたのですごく良かったと思います。</p> <p>○自分のロケットが不具合なく、しっかり飛べるか心配したけど、スイッチをおすといきおいよく飛んでいき、植松さんが講演会のときにおっしゃっていた「ロケットを飛ばす前はとても心配したが、飛ぶのに成功したら、涙が出るほどうれしい」という気持ちが少し分かったような気がした。</p> <p>○失敗をおそれずにロケットを作り、期待通りの打ち上げができた。</p> <p>○打ち上げをして感じたことは、うまく飛ばなかった人も今回なぜ飛ばなかったか研究して、また飛ばしてうまく飛んだら、その考えは正しかったということになる。誰でも失敗する。失敗をしない人はいないということがわかった。</p> <p>○ロケットを飛ばした時に、上手に発射できてちゃんとパラシュートが開いたからよかった。</p> <p>○他の学校の友達と一緒にできてうれしかった。</p> <p>○他校の6年生と話をしながら、ロケットを協力し仕上げることができました。</p> <p>○分からない事があれば、班のみんなで話し合い、ロケットを空高く、無事に打ち上げることができました。</p> <p>○自分だけで作らず、考えず、周りの人にたよったり、一緒にしたら良いと思った。</p>
---	--

八重東小学校

<p>○ロケット作りの班の人たちと、楽しくロケット作り・打ち上げをすることができました。</p> <p>○水を使ったロケットだと思ったけど、本物のロケットだったので、楽しかった。</p> <p>○ロケット作りの時に、同じ班の人に助けってもらってうれしかったです。</p> <p>○ロケット作りは難しくて、一生懸命作ったけれど、思った以上に飛んだのでよかったです。もうちょっと飛ばしたかったです。</p> <p>○町内の人は、話してくれたからうれしかった。打ち上げも予想以上に飛んだ。</p> <p>○ロケット作りや打ち上げの時に、友達と話したり、一緒に作ったり、協力することができました。</p> <p>○ロケット作りでは、町内の友達と話しながら作れたのでよかったです。打ち上げでは、隣にいた人の</p>	<p>○ロケットがうまく飛ぶかどうか不安でしたが、上手く飛んでよかったです。</p> <p>○ロケットを作る時、知らない人でもたくさん声をかけてくれたので、よかったです。</p> <p>○ロケット作りで、班の人たちは全く知らない人たちだったけど、仲良くなれたのでうれしかったです。打ち上げで、うまく飛んでいったので、よかったと思いました。</p> <p>○友達と協力して、ロケットもできて、友達も増えてよかったです。</p> <p>○ロケットを作るのが自分にもできることを知った。</p> <p>○ロケット作りで分からないことは他の学校の人と話しながらできて、楽しくできた。</p> <p>○ロケット作りを通して、知らない友達と仲良くなれたのでうれしかった。</p>
--	---

<p>ロケットを見たり、打ち上げるときは迫力があってとてもすごかったです。</p> <p>○一人じゃあ分からないところを近くにいた友達に助けてもらったのがうれしかった。</p>	<p>○思った以上に高く上がったので、びっくりしました。またロケットを作って、打ち上げたいです。</p>
<p>壬生小学校</p>	
<p>○ロケットを飛ばすまでは、本当に飛ぶのだろうか、パラシュートはちゃんと開くのかな？私のだけ落ちてきたらどうしようと不安だったけど、ロケットが空に高く飛んでいった瞬間はとても気持ちが良かったです。今日、夢プロジェクトに参加して、本当に良かったと思いました。</p> <p>○簡単に作れたのでおもしろかった。</p> <p>○ロケットを作るときに、協力してやったら仲良くなれた。</p> <p>○ロケットを作って、打ち上げをしてみて気持ちよかったです。もう1回やってみたいなと思いました。</p> <p>○自分にもできました。このことをきっかけにどんどん何かしていきたい。</p> <p>○自分で作ったロケットを飛ばした。ぼくは壬生小以外の人と一緒に活動するのはとても緊張しました。</p> <p>○ロケットを楽しく作れた。グループの人と話をした。</p> <p>○自分で作ったロケットがちゃんと打ち上がってパラシュートを開いて、もどってきて感動した。</p> <p>○ロケット作りで町内の人とも話すことができた。あまり多くの人と仲良くなれなかった。</p> <p>○とても楽しかったです。次は、もっと高く飛ぶロケットを作りたいと思いました。</p> <p>○ロケットを上手に作れたのでいいと思いました。打ち上げて上手にパラシュートを開いていたのでよかったです。</p> <p>○とても楽しかったし、無事パラシュートが開いてゆっくり落ちてきたのでうれしかった。協力してロケットを作れました。</p> <p>○自分で作ったロケットが打ち上げられて、すごいと思いました。</p> <p>○ロケットを自分の手で作って、打ち上げてちゃんとパラシュートが開いて成功したとき達成感を感じました。</p> <p>○工作は苦手だけど、ロケットを作ることは楽しかったです。ロケットを飛ばしたら空高く飛んでうれしかったです。</p> <p>○自分でもこんなにすごいロケットが作れるのだから自分の夢もかなえられるのかなと思いました。</p> <p>○ロケット作りをするのは、難しいと思ったけどすぐに作れる。</p>	<p>○思ったより良く飛んでびっくりした。</p> <p>○ロケットを打ち上げてパラシュートが開いたときの喜びがよかった。</p> <p>○新しい友達ができただけでよかった。他の学校の友達とたくさん話せた。同じ学校の人ともより仲がよくなった。</p> <p>○私のテーブルではすごく場をなごませてくれる男の子がいたので話しやすかったです。</p> <p>○友達の輪が広がった。</p> <p>○わからないところは聞きあって協力して作れた。無事ロケットが作れてよかった。</p> <p>○班の人に分からないところを聞いたり、協力して作ることができた。自分のロケットを自分で飛ばすことができた。</p> <p>○自分がつくったロケットがとても高く飛んだのでよかったです。</p> <p>○パラシュートの中に入れたり、長さをあわせるのがとても難しかったので、パラシュートができたときはとてもうれしかったです。</p> <p>○ロケット作りではあまりしゃべれなかったけど、打ち上げのときに話せた。</p> <p>○分からないところを隣の友達に聞いて楽しくロケットが作れた。飛ばしたときは、ロケットが上手に飛んでもどってきたのでうれしかった。</p> <p>○ロケット作りで友達と協力して難しいところも読み解くことができました。打ち上げでは成功したとき周りの人が「よかったね。」など声をかけてくれてうれしかった。</p> <p>○いろいろな工作を試してみたくなったから工作をたくさんやりたい。みんなとやって教えてもらったりして、楽しくできました。</p> <p>○またやりたい。</p> <p>○ロケット作りではパラシュートとロケットの先と結ぶのが難しかったです。打ち上げのとき、自分のロケットが高く上がってすごいなあと思いました。とてもうれしかったです。</p> <p>○わからないところを話し合ったりして、知らなかった人とも友達になれました。無事にロケットを飛ばせたことが一つの自信になりました。</p> <p>○ロケット作りで分かりにくかったところを町内の友達に聞いて楽しく会話ができたので、また友達に会うのが楽しみです。</p>

植松さんの言葉から

芸北小学校 片桐 杏

『ちがうは、すてき』という植松さんの言葉。私はその言葉を聞くまで、だれかとちがう事がこわかったです。理由は、みんなとやっている事が私だけちがったら、みんなに『変わってる。』って思われるかもとか『笑われたらどうしよう。』と考えてしまうからです。どうしても自分の中で勝手にそう考えてしまって、いつの間にか人とちがうことをするのをさけていました。でも、昨日の植松さんは、「ちがうことは、すてき」と言いました。私は少しおどろきました。少しだけ自分の考え方を変えてみるとちがう事が良い事に感じてきました。この考え方をすれば、少し自分に自信を持つことができると思います。自分に自信を持てることで、自分から色々な行動をすることができると思います。自分から色々行動することで、みんなの役に立て、また自分に自信がつく。こんなふうに色々なことにつながっていくんじゃないかと私は思います。考え方を少し変えてみるだけで人の役に立てるかもしれない。自分の考え方を少し変えてみるだけでだれかが笑ってくれるかもしれない。そう考えると、みんなとちがうのはこわいことじゃないと思えました。ちがう事はすごいことなんだと思えました。「ちがうはすてき」という言葉は、私に少し勇気をくれる合言葉です。

植松さんの話で、私はあることを思い出しました。挑戦科です。一回やってみて失敗しても、『自分なんて。』とか『もう無理。』じゃなくて、これからどうするのか考えてみるということです。やろうと思ったら人は何でもできる。挑戦科をやっていたから『そうだな。』と思えました。挑戦科をするまで、自分がマッチでまきに火をつけて料理をするなんて思ってもいませんでした。やったとしても自分にできるとも思っていないませんでした。でも挑戦科では、それを実際にやってみたのです。とても挑戦科に似ているなど思いました。

実際に私たちでロケットを作ることになりました。色々な学校の6年生が6人ずつ集まった班になりました。はじめは、みんな緊張で一言も話さずに、もくもくと作業をしていました。でも、男の子たちが途中で「分からない。」と言い始めました。私は、どう声をかけようかとまよいました。そこで、先週やった「ふれあい教室」を思い出しました。相手にわかりやすく説明をするにはどうしたらいいのかと考えました。そして、私はとなりにいた男の子に「こんな風にやるんだと思います。」と思い切って声をかけてみて、実際にやって見せました。するとその男の子は「ありがとう。」と言って、私がやってみたように作っていました。総合的な学習の時間で高齢者の方々と交流した「ふれあい教室」を少しだけ生かしたような気がします。

自分が作ったロケットは思ったより大きくて、本当に飛ぶのか不安でした。でも、私が作ったロケットもみんなと同じように空高く上がって行って、ゆっくりパラシュートで下りてきました。私は、私が作ったロケットを自分で飛ばしたんだと思うと心の底からうれしかったです。私の自信になりました。これからも自分に自信を持っていきたいです。そしてずっと植松さんの言葉を心に残しておきたいと思いました。

広がる夢

芸北小学校 田村 優月

「夢があれば何でもできる。」この言葉は植松さんの名言だ。夢がないと始まらない。夢

はたくさんあっていい。たくさんあったほうがいい。私は、「これ」という夢は、今は決ま
っていない。たくさんの仕事をみていく中で「あっ、この仕事をやってみよう」と思う時
がある。でも、時々、「こんなにあっていいのかな。」「決めきれぬのかな。」「私には向いて
いないんじゃないか。」と考えてしまう時がある。今回の植松さんの話は、私の不安や悩み
にぴったりの話だった。夢がこんなにたくさんあっていいのかという不安は、「夢はたくさ
んあっていい。一つだめになった時に、他の仕事に向かってがんばれるから。」という話で
消えた。私には向いていないんじゃないかという考えには、自分に自信を持つこと。これ
は今年の自転車大会の取組とつながった。そして失敗をしてもいいからやってみることが
大切ということも学んだ。植松さんはロケット作りの時、最初は爆発ばかりで何回も調整
していくうちにできるようになったそうだ。そんな植松さんでも失敗がこわくて「やりた
くない」と思う時があるという話を聞いた。失敗がこわいのはみんな一緒。新しいことに
挑戦する時、やりたくないと思う人もほとんど。でもチャレンジしてみないと分からない。

この「失敗をおそれずチャレンジする。」という事は、去年まで学んでいた挑戦科とつな
がる。他にも挑戦科とつながることがたくさんあった。その中で「夢はたくさんの人にし
ゃべることが大切」ということがつながったと思う。挑戦科で、合宿や火おこしをやった
ことを思い出すと、一番に浮かんでくるのは「協力するための声かけ」だ。しゃべりあっ
て成功するまでです。しゃべることが必要ということだ。そしてもう一つ大切なことは、
「やったことがある人にしゃべる。」ということだ。植松さんのお話で「やったことが無い
人に言うと、できない理由しか教えてもらえない。」という言葉があった。やったことがあ
る人に話すことで、自分に自信をつけることができることを知った。

もう一つ挑戦科と深くつながる名言は、『どうせ無理』より、『だったらこうしてみたら』
で考える。』です。挑戦科では、できなかった理由を考え、次の手立て、こうすればいいん
じゃないかを考えるからだ。できない理由を考えて成功するまでやる。これは将来の夢へ
生かせると思う。

いよいよロケットを飛ばす時、私は『失敗するんじゃないか。』と、またマイナス思考に
なってしまった。でも植松さんの話を思い出し、楽しみになってきた。今日、植松さんに
教えていただいたことで夢を広げることができた。将来の夢を実現させるため、日々今日
の話を思い出したいと思う。

将来の夢へ羽ばたく

芸北小学校 梶原 楓

「人はだれだって失敗するんです。」

その言葉には、植松さんの色々な感情が混ざり合ってできた大切な言葉です。

私は、植松さんのお話を聞く中で、芸北小学校や中学校の特別な授業、「挑戦科」のこ
とを思い出していました。挑戦科というのは、主に6つの力(意志力、自己回復力、協働する
力、課題解決力、安全・安心をつくる力、多面的・多角的な見方・考え方)をつけるため、
色々は事にチャレンジするというものです。その中には、目指す自分をじゃまする色々な
「さまたげ」というものがあります。そのさまたげには「不安」や「恥ずかしさ」、「失敗した
ら…。」というようなものがあります。ですが、色々な手立てを考えて、再び挑戦していき
ます。

今回の植松さんのお話には、その挑戦科とつながるところがたくさんありました。その
中でも、「人はだれだって失敗するんです。」という言葉には、私たちが挑戦科で経験した
ことと、いろんな方向からつながりました。

植松さんは、今までだれもやっていないことに次々と挑戦していき、次々と失敗していったと話してくださいました。でも、その失敗で、どこが悪かったのか、どうすればいいのかと考えるきっかけになったそうです。挑戦科でも、初めてのことを一番目で成功する人なんていませんでした。一人一人のできないことが、たくさん出てきます。でも次、成功させるためには、「どうすればいいんだろう？」と考えることもできます。そして作戦を考えやってみます。すると成功することができました。植松さんもそういう失敗を積み重ねてきたのだそうです。私は、そのことを知って、私の受けてきた授業「挑戦科」はむだではなかったと改めて感じるすることができました。そして、それが未来にどんな影響があるのか考えることもできました。

お話を聞いている中で、「教科書や参考書では、みんなが知っていて筋書きどおりにしかならない。」と言われました。「だから分からないならやってみればいい。」とも言われました。この言葉は、私の将来の夢につながっていくと思います。

そしてロケット作りに入りました。集まった人たち全員のロケットができ、いよいよロケットを飛ばす作業に入ります。私のロケットは、風を切って、空に向かい飛びました。その瞬間を見て、私はとても安心したし、とてもうれしかったです。私もこんなロケットのように、自分の夢に向かって飛んで行こうと思いました。それと同時に、そのことが自分への自信となり、夢への第一歩になっていきました。

この経験をしっかりと胸に大切にしまい、将来に希望を持って歩んで行こうと思います。

心に残った言葉

大朝小学校 妹尾 美葉

開会式に続いて始まった学校紹介のとき、他の学校が終わるたびに、私のどきどきは強くなってきました。私たちの前の学校が終わったとき、私のどきどきしている心臓の音が周りのみんなに聞こえるんじゃないかと思いました。一人ずつ語ることにしていた言葉も、無事言うことができました。みんなで歌った歌も、児童席の後ろから先生が指揮をしているのが見えると、なんだかほっと安心できました。

そして、全部の学校の学校紹介が終わってから、植松努先生のお話を聞きました。最初に自分の趣味の話をして、みんなを笑わせてくださいました。私はもうそこから楽しくなっていました。

植松先生の話は、とても私の心に残りました。「人は失敗は必ずする。」「からかわれても、いやなことを言われても、自分を信じよう。」「喜びはすぐそこにある。それを感じないのは自分が違う方へ行っているからだ。」「どんなつらいことがあっても、死のうと思うな。」「苦勞の先に喜びがある。」など、大切なことを教えてくださいました。私も、「いやだ」と思うことがあっても、植松先生のような考えを持って生きていきたいです。

次に行われたロケット作りでは、ロケットを作っている私に、植松先生が、「いいねえ、その結び方。それくらい強く結んでいけば、ほどけることはないね。」とほめてくださいました。とてもうれしくなりました。班のみんなとも、最初は話してなかったけど、話しかけてきてくれて、話せるようになりました。私のロケットは無事に飛んで、パラシュートもうまく開きました。

私は動物が好きです。だから動物園に行ったり、水族館に行ったりすると、「私もここで働いてみたい。」という思いになります。しかし、動物の世話をするには、動物について詳しく知らなければいけないし、動物が病気になったときの正しい対応の仕方も学ばな

ければならないと思います。これらのことを詳しく学ぶために、農業の学校に行って、動物のことに詳しく勉強したいです。高校から大学に進学して、大学で農業のことや動物のことを学んで、将来は、動物が快適に暮らせるように、病気になったら正しい対応ができるようにしてあげられる人になりたいです。

植松先生が話された、「未来は分からない。『そんなことできない。』と言わずに、失敗してもいい。まずやってみよう。」という言葉が心に残っています。この考えをもって、自分の夢に向かって進んでいきたいと思っています。

物づくりは楽しい

大朝小学校 上田 はじめ

ぼくは、植松先生のお話が聞けることは分かっていたけど、植松先生がどんなことをした人なのか、どんなところがすごいのかほとんど知りませんでした。でも、話を聞いて、とても感動しました。

その一つ目は、植松先生が自分の夢に向かって、誰に何を言われようとも、心がくじけることなく、前を向いて夢をかなえようとしてこられたことです。ペーパークラフトが好きだと話された時、先生の夢と関係あるのかなと思って聞いていると、植松先生の夢につながっていることが分かりました。

また、植松先生が、「お金は紙きれになってしまうから、貯金せずに、自分たちのために使え。」と祖母から言われたそうです。このことは、自分と逆の考えだなと思いました。なぜなら、ぼくはお金をあまり使わず、貯金しているからです。もしかして、これももし日本が戦争に巻き込まれることがあれば、紙切れになってしまうのかなと思いました。今は家の近くにお店がないのですぐに使うのは難しいけれど、自分のためになる本を買って自分の勉強のために使いたいです。

お話の中に、びっくりしたこともあります。植松先生が人工衛星を飛ばすために、微妙な角度を調整するものが身近にあると話されました。ぼくはどんなものかと考えていたけど、なかなか分かりませんでした。そこで植松先生が、ゲーム機のコントローラーだと教えてくださいました。ゲーム機のコントローラーはうちにもあるけど、人工衛星にも使ったりできるなんて思ってもみませんでした。

ロケット作りでは、昨年とは違う、新しいものを用意してくださったと聞いて、とてもうれしかったです。そして、班が同じ人と話ができたと、色鮮やかなロケットに仕上がったことが、よかったです。ぼくはこの体験がきっかけで、物作りの楽しさを感じることができました。

ぼくの将来の夢は、建築士になることです。ぼくは物を作ることが好きだからです。そのきっかけは、ぼくの父が、ぼくや姉の机、たななどの家具を作っているところを見たことです。僕は、「何で1mmもまちがえずにできるのだろうか」と思って見ていました。そして、父は作業をしている間、作っているものだけをじっと見て作っていたので、ぼくもそんな風に没頭して物を作ることができるようになりたいと思いました。自分は長さを測ったりする細かなことは苦手だけど、どこを工夫したら見栄えがよくなるかなど考えたりすることは好きです。ぼくがやってみたい建築士の仕事も、チームワークを大切にして、自分の得意なことを生かして、自分の役割が果たせるようになりたいです。

私の将来の夢

大朝小学校 島田 征佳

私は植松先生のお話を聞いて、考えたことがたくさんあります。夢に対して、「どうせ無理」という言葉を言うてはいけないことや、「いやだ。」と思ったら、「なぜいやなのかな」と考えて行動するとよいことが分かりました。それから、夢はたくさんあってもいいと話されました。

その後に行われたロケット作りは、他の学校の人たちと作りました。私は、友達を作ることを目標の一つにしていたのですが、あの場ではなかなか話しかけられず、友達はできませんでした。でも、「どうするん」と聞くと、やさしく答えてくれたのでうれしかったです。デザインをするとき手が止まってなかなか進まないときもありましたが、自分のロケットが完成しました。

ロケットを飛ばすとき、ドキドキしました。「1, 2, 3」と声をかけると、「シューー！」と音を出して飛んでいきました。飛び立ったときは、感動しました。

私の夢は、子どもたちに英語を教える仕事に就くことです。その理由は二つあります。その一つ目は、私の姉は得意な英語を生かしてたくさんの体験をしているのを見ていいなと思ったからです。姉は、ハワイに行ってアメリカの高校生と英語で交流したり、学校の授業で英語だけで話していたりして、私はうらやましく思っています。

二つ目は、外国の方と英語で会話ができたとき、英語はおもしろいと感じたからです。今年の夏休みに、三泊四日でオーストラリアの旅行者が私の家に泊まりに来ました。私は、オーストラリア人に英語で話しかけられても、応えられず困ってしまいました。でも、学校で習ったことを使って話してみると、通じました。二日目、三日目と英語でだんだんと話していくうちに、仲良くなり、英語で話すことにも慣れていきました。英語が通じて交流ができることは、とてもうれしいことだと感じました。

今年のノーベル平和賞を ICAN という核兵器廃絶をめざして活動をしている団体が受賞されたのを知りました。私は核兵器は地球上からなくなしてほしいと思っているので、このような活動をしている方が受賞されて本当によかったと思いました。私も将来、英語を使ってこのような活動をしている方々とも関わって、世界がもっと仲良く、そして平和になるように自分にできることを見つけていきたいです。

植松先生は、失敗してもくり返し、何度もロケットを作っていてすごい先生だと思いました。私も「どうせ無理」と考えたり、やる前からあきらめたりするのではなく、自分の好きなことにくり返し挑戦して、自分の夢をかなえたいです。

心に残った夢プロジェクト

新庄小学校 隅田 祭

ぼくは、夢プロで三つ心に残ったことがありました。

1つ目は、学校紹介です。他の学校のダンスのキレや声の大きさがすごくておどろきました。一方で、新庄小学校のときは、ぼくの声は小さかったけど、パネルを持ち上げることはうまくできたと思います。そして、一番よかったのは大内くんだと思います。理由は、声が大きかったし待っている時の態度がとても良かったからです。

2つ目は、植松さんのお話です。「言葉は人を傷つけること」と「失敗してもあきらめないこと」が自分のしていることに似ているなと思いました。「言葉は人を傷つける。悪口は

人殺しと同じ」ということについては、ぼくは、いつも弟に悪口を言ったり暴力をふるったり命令したりしていました。この言葉を聞いた時、弟が嫌な顔をしているのが一瞬見えました。だからやめようと思いました。このごろは、弟に命令されてもがまんしているので、けんかも減り、仲も少し良くなりました。「失敗してもあきらめないこと」については、ぼくは、野球をしていて、よくエラーをして、そのことを引きずっている時が多いです。父に怒られ野球をやめたいと思った時も多くありました。でも、今は失敗してもあきらめないようになってきました。そして、野球以外にも問題が分からなくて、すぐに教えてもらっていたけど、最近は自分で考えて解けるようになりました。

3つ目は、ロケットを作っている時に友達が3人できたことです。最初は静かだったけど、途中から声をかけたり、かけられたりされてうれしかったです。ロケットを打ち上げる時、パラシュートが開かなくてすぐに落ちてしまいました。でも、自分が作ったロケットが高く飛んで、パラシュートは開かなかったけど、とても楽しかったです。友達も声をかけてくれました。

植松さんの話は、自分に必要なことばかりなので参考にして、これからも活かしていきたいです。

みんなと夢を

新庄小学校 久次 祥太郎

夢プロジェクトに行くのは今年が最後だった。4年生のときはカープの2軍をおうえんしたな、5年生の時は芸北へ民泊して、朝散歩に行ったのが楽しかったなと思い出していた。今年は何をするのかな、友だちはできるかなといろいろなことを思いながら会場に行った。いざ会場に着くと、少年野球で知っている人やこの前の陸上記録会で見たことのある人もいた。

すぐ開会式が始まった。学校紹介では、学校ごとに学校の特色やいいところなどを分かりやすく紹介していた。どの学校も大きな声ではっきり言っていたので、自分たちの学校紹介がうまくいくか心配だった。ぼくは、ゆっくりと言うことに気をつけて、新庄小学校のみんなもうまくやることができてほっとした。

そして、植松さんの話が始まった。始まるまでは、絶対に長いだろうなと思った。けれど、いざ話を聞いているとおもしろくて、あっという間に時間がたった。今までに考えたこともない話なども出た。ロケットの打ち上げが失敗しても、もう一度考えて、打ち上げていることなど分かった。本を読むことの大切さなどもよく分かった。植松さんの話を聞いて、ぼくは、「どうせ無理」とか言って、知らず知らずのうちに誰かの夢をうばったり、つぶしたりしているかもしれないと思った。悪いことをしていたことが分かったから気をつけたい。

一番心配だったロケット作りが始まった。一応知っている人がいたから良かったけど、ほとんどしゃべることなく作っていた。作るのは複雑かと思ったら、意外に簡単に作ることができて良かった。色をぬるのにそのままでもいいと思ったけど、誰のか分からないから、日付と名前を書いて、後は少しぬって終わった。

弁当を食べるときは同じ学校の人とだから話すことができた。ロケットを作っていた時のことなどいろいろな話をすることができた。もう一度、下に降りて色をぬる時は、なぜかはよく分からないけど、それまで話さなかった同じグループの人と話すことができた。

前後の確認を済ませて、外に出た。ついに自分達で作ったロケットが飛ぶんだと考えると、うれしかった。試しに飛ばすロケットがきれいに空に飛んだ。ぼくも同じように飛ば

したいと思った。どんどん飛ばされるロケットの中には、パラシュートがうまく開かず落ちてくるロケットもあったから心配だった。いよいよぼくの番になった。ボタンをおしてロケットを目で追った。パラシュートが開き、くるくる回りながら落ちてきた。

6年の夢プロジェクトで、ロケットを無事に飛ばすことができうれしかった。そして、ぼくは、植松さんのように夢を持ちたいと思った。

夢のロケット 飛んでいけ

新庄小学校 岡 鮎太郎

ぼくは、夢プロジェクトに参加すると新しい友だちができるから楽しみでした。そして、参加した後は、夢プロジェクトで植松さんにいろいろなことを教えてもらったり、ロケットを作って飛ばしたり、友だちができたりと、いい経験ができたなと思いました。

最初は、学校紹介でした。とても緊張したけど、間違えずにできて良かったです。他の学校は、劇で紹介したりしていて、分かりやすいと思いました。

次は、植松さんの「思うは招く」という話でした。田舎に生まれて成績も良くなかったのに、好きなことをずっとしていれば、失敗してもあきらめなければ、そのうち夢が叶うんだなと思いました。また、自信をもつというのもとても大切だということが分かったので、これからはもっと自信をもっていこうかなと思いました。今のぼくは、これに絶対なりたいという夢はないけど、好きなことをずっとやるのはいいことだから、他にも好きなことを見つけたり、本を読んだりするといいなと思いました。あと、失敗しても自信をもっていれば大丈夫だと思いました。ぼくは、何でもネガティブに考えてしまいます。野球をやっているけど、投げる球にスピードがないのでだめだと思っています。これからは、スピードはないけどコントロールはいいから大丈夫だと思ったらいいかなと、少し楽な気持ちになりました。植松さんの話はとても参考になったので、これからも忘れないで活かしていきたいです。

その後、グループに分かれてロケットを作りました。最初は、そんなにしゃべっていなかったけど、男子どうして「女子は作るのが早いね」などと言っていると、だんだんしゃべれてきました。ロケットの作り方で、パラシュートの折り方が難しかったです。「やってもうた」とは言っていないのに、植松さんが教えてくれました。きっと、見るに見かねたんだと思います。でもやっとパラシュートをロケットの中に入れることができました。色をぬって完成できました。

そして、ご飯を食べて、ついにロケットを飛ばす時がきました。いい感じに飛ぶか心配でした。他の人たちがどんどん飛ばしていたけど、そんなに失敗もなく、いよいよ自分の番になりました。ぼくは要君といっしょでした。係りの人にロケットをわたして、ボタンをおして「3，2，1」とカウントダウンをしました。シューっと勢いよくロケットが飛んでいって、パラシュートが開くのが見えました。「おお、よかった、失敗しなかった」とほっとしました。失敗しなかったのでよかったです。自分で作ったものがあんなにうまく飛ぶんだなと思いました。また、できる時があればしたいなと思います。

夢プロジェクトで植松さんの話を聞いて、夢はもった方がいいから夢をもとう、そして、好きなことには一生懸命取り組もうと思いました。これから、いろいろなことがあると思うけど、失敗を恐れず生活しようと思いました。また、友だちを作って、いろんなことをどんどんしたいです。

ふるさと夢プロジェクトに参加して

川迫小学校 日高 咲歩

私は、先日行われた、「6年生 夢プロジェクト」に参加しました。

北広島町の6年生が集まり、北海道から来てくださった「植松電機」の植松努さんを講師に、講演会やロケット作りをしました。

最初に、開会式で学校紹介をしました。学校ごとにいろんな工夫をしていました。例えば、豊平小学校は豊平を紹介する歌、八重小学校は八重小ソーランをおどりました。どれもとてもいい学校紹介でした。川迫小学校も負けずに二人で大きな声で発表しました。緊張してすごく大変だったけど、あとからいろんな人に、「すごかったね。」と言われたのでうれしかったです。

次は、植松さんの講演を聞きました。植松さんの今までの体験や、夢や希望を持つことの大切さを学びました。植松さんの講演を聞いて、一番心に残ったことは「夢をあきらめない」ということです。植松さんはロケット作りを周りから批判されていたけど、夢をあきらめず、今では「植松電機」の社長さんになっています。植松さんは、「皆には可能性はある。好きなことをやめてはいけない。」と言われました。私はこの言葉を聞いて、好きなことをあきらめたり、やめたりしてはいけないんだと、自信ができました。これからどんな嫌なことや、言葉を言われるかはわからないけれど、私も植松さんのように、夢をあきらめないでいたいです。他にも、本をたくさん読むと、いろんなこと学べるということや夢は一つに絞らずにたくさんあるほうがいい事、「どうせ無理」という言葉は、人の夢をうばうことで、殺人と同じだということを知りました。楽しい話もいっぱいしてくださって、とてもいい講演会でした。

次に、ロケット作りです。ここでは、他の学校の人達と班になりました。その時も植松さんが教えてくださったことがあります。それは一人で作業するのではなく、グループの人達と協力して、しゃべりながら作業することです。そうすることで、みんなわからないところがあっても、班の人に教えてもらったり、協力したりすることができるからです。最初は全員知らない人で、すごくドキドキして、心配だったけど、勇気を出して自分から話しかけると、全然しゃべらなかつた男子ともだんだん話せるようになっていって、いっぱい話すことができました。雑談もたくさんすることができて、とても楽しかったです。ロケットは協力して作ることができました。失敗しそうになったらみんなで助け合って考えて、どうやるのかわからなかつたところも、班のみんなが優しく教えてくれたので嬉しかったです。みんなの協力もありロケットを完成させることができました。

最後は、楽しみにしていたロケットの打ち上げです！私は、少ししか飛ばないと思っていましたが、最初にスタッフの人が一つ飛ばすと、ものすごい勢いで高く飛んでいって、ビックリしました。そしていよいよ私たちが飛ばす番です。植松さんもおっしゃっていたように、飛ばす前は、「うまく飛ぶかな」ととても緊張しました。いよいよ順番が来ました。「3・2・1」でスイッチを押すと、勢いよく空に飛んでいきました。パラシュートもうまく開いて、最後はダイレクトキャッチもできました。「やったー！」ととてもうれしかったです。

私は、この夢プロジェクトで夢と希望を持つことの大切さを学びました。さらに、ほかの小学校の人たちと交流することもできました。

はるばる北海道から来てくださった植松さんや小学校の先生方、夢プロジェクトを企画・準備してくださった人たちに感謝して、夢プロジェクトで学んだことをこれからの小学校生活、中学校生活に生かしていきたいと思います。

夢プロジェクト ～思うは招く～

川迫小学校 本家 綺乃

先日、北広島町の6年生が集まる、夢プロジェクトが行われました。

そして、講師である植松努先生に、はるばる北海道から来ていただいて、講演をきいたり、ロケット作りをしたりしました。

まず、最初に、開会式がありました。校長先生のお話などがありました。そのあとは、学校紹介がありました。豊平小学校や、八重東小学校、八重小学校など実際に演技をしていて分かりやすかったです。とくに、八重東小学校は、自慢をクイズ形式でしていたのでいいなと思いました。川迫小学校の学校紹介は、最後でした。他の学校の人が、川迫小学校の良いところを一つでも知ってくれば良いなあという気持ちで発表しました。私の学校は、私を合わせて、二人なのですごく緊張したけど、最後まであまり嘸まずに発表できたので良かったです。

次に、講演を聞きました。講演会では沢山のお話を聞きました。その中でも、特に心に残っているのは、本を沢山読むことです。本を沢山読むことで、色々なことが学べます。それが将来などに繋がっていく、伝記の本などを読むと、昔の人と仲良くなれるなど、いいことが沢山あるから本は沢山読んだほうがいいよと植松先生はおっしゃっていました。だから私も、沢山読んで将来に繋げていきたいです。他にも、「むりー」「できな一い」などの言葉を言わないということを学びました。生まれてきたときには、「むりー」などの言葉を知っていなかったのに、今まで生きてきた中で、そういう言葉を知ってしまい、めんどくさい時や、いやだな～と思う場面で言い訳として使うようになってしまいました。だから、これからは、この言葉をあまり使わないようにしたいと思います。また、自分が相手へ、相手が自分へ、「無理でしょ」「どーせできない」と言う人もたくさんいます。そんなことがあつたら、今まで叶えようと思ってた夢も、「自分には、無理なんだな」とあきらめてしまうようになります。そんな言葉をなくすため、一人ひとりが、意識して生活していかないといけないと教えていただきました。だから私は、絶対に言わないし、言われても、へこたれません。

他にも沢山のことを教えていただきました。

講演会が終わって時計を見るともう11時になっていました。私は、「早！」って思いました。短いような長いような一時間だったけど、この一時間でとてもいいことを知ることができて良かったです。この講演会のことを忘れず、将来につなげたいです。

次に、ロケット作りをしました。その時に植松先生が教えてくださったことがあります。皆分からないことでもグループの人に教えてもらったり、協力し合えたりするから、一人で作業するのではなく、グループの人達と協力してしゃべりながら作業してくださいということです。だから、私はなるべくグループの人と相談しながらやろうと決めました。私は12班で、6人中3人ぐらい知っていたので、とても会話が弾みました。軸の柄は、皆に相談しながら描きました。

完成した後は、ロケットを飛ばしました。3・2・1の合図で、1つの台で2人ずつロケットを飛ばしました。ものすごい速さで、迫力がありました。飛ばす前は、とても緊張しましたが、無事成功しました。打ち上げたロケットのパラシュートもきちんと開いて高い空からゆっくり降りてくるのを見て、嬉しかったです。

この夢プロジェクトという行事で、沢山の人と交流ができたと思います。しかし、あまり、交流出来なかった人もいたからもっと自分から話しかければよかったなと思います。そして、この会を通して、夢を持つ大切さを知りました。この会での経験を活かし、中学

生になっても、夢を捨てず、頑張りたいと思います。

ふるさと夢プロジェクトを終えて

八重小学校 白砂 琥之

今回のふるさと夢プロジェクトを体験して、ぼくは多くのことを感じました。植松先生の講演は、一言一言全てが心に残りましたし、ロケット作りでは、自分と同世代の子達がどんな夢をもっているのかを知ることができました。ロケット飛ばしでは大きな達成感を味わえました。どれも一生忘れることのできないものでした。

植松先生の講演で一番心に残ったことは、「自分に自信をもつ。」ということです。ぼくは正直今まで、自分に自信なんてありませんでした。しかし、今回この講演を聞いて自分に自信をもつことができました。自分にも良いところがあるんだと思うと、自然と自信がわいてきました。これからは、この自信を力に生活していきたいと思います。

他にも、「自分のしたいことをあきらめない。」ということも心に残りました。「自分の夢を人に話した時に、『どーせ無理。』という言葉が返ってくるかもしれない。そんな時は、『相談する相手を間違えているだけ。』そう思いましょう。」この言葉はぼくの心にしっかりと残りました。やったことのない人にアドバイスをもらおうとしても、何の参考にもならない。そう植松先生はおっしゃいました。そこでぼくは「自分の夢をバカにされても自分の夢をあきらめないようにしよう。」と思いました。

そして最後に三つ目、「自分の夢をいろんな人に話す。」ということです。ぼくの夢は「日本をヒッチハイクで一周すること」です。少し前に、ぼくは親にこの夢のことを言いました。すると、「いや・・・無理だろう。」と言われました。ぼくは夢をあきらめかけました。しかし、今回の植松先生のお話のおかげでその夢をまた、かなえたくなりました。「一度きりの人生なのだから、周りに何を言われても関係ない」と思いました。今から夢をかなえるための努力をして、夢をかなえたいと思います。

ロケット作りは六人一班で行いました。最初は隣の子とも話せていなかったけれど、だんだん打ち解けていって話せるようになりました。少し会話をしながらロケット作りをしていると、パラシュートのところで失敗してしまいました。失敗をしたのを友達に言うと、「『やってもうたー。』って言ってみいや。」といわれたのであせりました。そうこうしていると、カメラマンさんも担任の先生も来て、言うしかない状況になってしまいました。三回声を上げて、やっとスタッフの方が来て下さいました。スタッフの方が、優しくわかり易く説明して下さい、ロケットが完成しました。嬉しかったです。ロケットに色をぬり、ロケットを発射する時間になりました。ロケットを発射する前は不安だらけでしたが、無事に空高く飛び、不安も飛んでいきました。

閉会式でのお話もとてもよい内容でした。今後に生かせる良い経験ができた一日でした。

自分にもできたロケット作り

八重小学校 三吉 亮太

ふるさと夢プロジェクトには、北広島町の九校の六年生が集まりました。北海道から植松電機の社長である、植松努さんがいらっしゃいました。

植松さんは自分の好きなことや苦手なことなどをお話されました。お話を聞いていると、植松さんの好きなことが分かりました。それは、本でした。植松さんは、「色々悩んだり困ったりしたら本屋さんに行くと良い。」とおっしゃっていました。その他にもたくさん好き

なことを話されて、ペーパークラフトのこと、そしてゲームも好きでレースゲームをするだけでは満足できずに、実際の操縦用のコックピットを作ったということも話されました。すごいなと思いました。

植松さんは言葉についてもたくさん話をされていました。「絶対無理。」という言葉が一番だめな言葉。夢をこわす言葉であるということ。植松さんはロケットが好きで、「将来ロケットを作りたいんです。」と当時の担任の先生に言うと、「絶対無理だろ。」と言われたそうです。「絶対無理に決まっとるじゃん。」という風に言われると、その夢をもち続けることがしんどくなるけれど、植松さんはそんなことを気にせずにロケット製作に励んだそうです。成功するまでに沢山失敗され、何度もエンジンが爆発して困ったそうです。その結果、植松さんはロケット作りに成功され、JAXA や海外の人が植松さんのもとを訪れ勉強されるまでになったそうです。

植松さんがロケットや飛行機を好きになった理由は、おじいちゃんがきっかけだと聞きました。アポロ11号が月に着陸したのを見たのがきっかけで、植松さんが飛行機やロケットに関する本を読んでいたら、おじいちゃんが喜ばれたそうです。そのようなことを続けているうちにいつの間にかロケットや飛行機のとりこになっていたそうです。

そんな植松さんの話された言葉の中で、ぼくが一番心に残っているものは「人間は絶対に失敗する。けれど失敗を恐れてはいけない。その代わり、何がいけなかったのか、次からはどうすれば良いのか考えることが大切。」というものです。ぼくの心にとても響きました。

そして今回、ぼくもロケットを作ることができました。ぼくをはじめ、多くの人がロケット作りは初めてでした。とても緊張した中でロケット製作は始まりましたが、とてもスムーズに行うことができました。少し小雨が降る中、ロケット飛ばしを行いました。打ち上げ後に植松さんが、「みんなロケットが壊れることなくこの会を終えることができて良かった。」とおっしゃいました。

今回植松さんからロケット作りを教えて頂けただけでなく、多くの言葉を聞くことができ、素敵な出会いができたと思いました。このプロジェクトを企画していただき、有難いと感じました。

北広島最高！

八重小学校 間処 桃加

今回の夢プロジェクトでは九つの学校の六年生が集まり、植松さんのお話を聞いたり、ロケットを製作したりして飛ばすということを行いました。

植松さんはロケットについての話を沢山されました。私自身人見知りがひどくて、自分から進んで人に話しかけることが苦手です。例え話しかけることができたとしても、何の話をしたら良いのかも分からなくてこれまで困ることが多くありました。しかし今回植松さんの話を聞いて、そんな時は自分の夢、将来のことについて話をしたら良いということが分かりました。同時に、夢や将来のことは自分で決めるものだということを改めて感じました。

植松さんは、ユーモアを交えてお話をされたので楽しく聞くことができました。植松さんの話を聞いて、植松さんの夢がかなって良かったなと思いました。植松さんの周りには、良い人、植松さんを助けてくれた人がいたということが分かりました。

ロケット作りでは、他校の六年生と一緒に一つのテーブルで作業を行いました。最初はみんな話をしなかったけれど、時間が経っていくといつの間にかお互い、進んで話しかけ

るようになっていました。説明書を読んでもよく分からなかったところは、となりの人に聞いて解決することができました。名前も伝え合って、困っていたら助け合えるようになっていました。上手く言えないけれど、何だか嬉しかったです。

打ち上げの時に、私はとてもドキドキしました。パラシュートがきちんと開くかどうか心配でした。その時に、同じテーブルの友達が「大丈夫、大丈夫。一緒にがんばろう。」と言ってくれたので、がんばろうと思いました。結果、見事にパラシュートが開いて落下し、自分の手でキャッチすることができました。パラシュートが開いて、友達も一緒に喜んでくれました。とてもうれしかったです。

私は、前日熱が出て早退しました。しかし今回無事参加することができ、そして友達までできて良かったと思います。今回の出会いが、私が中学校へ進学した時の友達づくりにつながると思いました。

植松さんは、日本でロケットは広い土地のある田舎でしか打ち上げることができないとおっしゃっていました。そのことを聞いて、市街地ではできないようなことができる北広島の良さに気付くことができました。北広島に生まれて良かったと思いました。

今回の夢プロジェクトで、一年前の民泊体験でお世話になった方に会うこともできました。北広島のよさとあたたかさに触れ合うことができた一日でした。

ふるさと夢プロジェクト

八重東小学校 川上 ゆい

千代田運動公園で町内9校の小学6年生が集まり、ふるさと夢プロジェクト「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」が行われました。

まず最初に開会式があり、校長先生や副町長さんの話を聞きました。私はその話を聞きながら、「違う学校の人と仲良くなりたいな。」とっていました。

次に学校紹介がありました。私たちの発表は6番目だったので、前の学校の発表を緊張しながら見ていました。でも、自分達の学校紹介の劇が始まると、あまり緊張せずに発表することができました。特にがんばったのは、前長さんと二人であいさつをするところです。二人で声を合わせながら大きな声であいさつをする場面を演じるのはとても難しかったけれど、練習のときよりも上手にできたのでよかったです。「これが私たちの学校の自慢です。」と、他の学校の人たちに伝えられたと思います。

その次に、植松努先生の講演「思うは招く～夢があれば何でもできる～」を聞きました。植松さんは、自分の会社を立ち上げ、社長、そして代表取締役もされながら、NASAやJAXAとも共同開発を行っていらっしゃるすごい方です。けれど植松さんは、子供の頃はいつも通知票に「集団行動ができない」「忘れ物が多い」「服がいつも後ろ前」などと書かれていたそうです。先生に叱られながらも、植松さんは自分のやりたいことに突き進み、ついには何でも作ることができるようになったそうです。「それが今の仕事に役立っているんだよ。」と話をされたとき、私は、「誰に何を言われようと、自分のことは自分自身にしか分からないのだから、自分を信じることはとても大切なことだ。」と思いました。他にも、植松さんはたくさんの心に残る話を笑いも入れながらしてくださいました。私は、植松さんに教えてもらったこと「不安の先に喜びがある」ということと「自分の考えを分かってくれる人に出会うまで考えを言い続ける」ということは、しっかり心に留めておきたいです。

その次に、ロケット製作がありました。最初はあまり話せなかった班の人たちとも、終わりの方では話せるようになりました。中でも私がうれしかったのは、ロケットを作って

いる途中、困っていたときに班の人が助けてくれたことです。一人ではできなかったのに、「助け合い」をすることでできるようになるという大切さを学びました。そして、ロケットの発射をしました。自分で作ったロケットが空高く飛んで行き、パラシュートが開いたとき、「私にもこんなことができたんだ。」と思い、大きな自信にもなりました。

最後に、閉会式がありました。児童代表の終わりのあいさつは、吉本さんでした。吉本さんのあいさつを聞きながら、「夢を語り続けることは大切。」「無理という言葉は可能性をつぶしてしまう。」と、改めて感じました。今日のふるさと夢プロジェクトを通して、私はいろいろ大切なことを学びました。このことをしっかり心に刻んで、日々生活したいです。

たくさん学んだ夢プロジェクト

八重東小学校 隅井 貴徳

10月19日に、北広島町内9校の6年生が千代田運動公園に集まり、夢プロジェクト「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」が行われました。ぼくが心に残ったことは3つあります。

1つ目は、植松努先生のお話です。ロケット作りへの思いや今までの経験を話してくださいました。その中で、一番心に残った話は、自分や友達が失敗したとき、「もうだめ。」「もう無理。」「これ絶対無理。」など、その夢や自分の可能性をつぶすようなことを言わず、「だったら、こうすれば。」「こうしてみたら。」など、人の可能性を支えたり高めたりする言葉を使うことが大切だと学びました。また、演題「思うは招く～夢があれば何でもできる～」という意味についても教えてくださいました。「思うは招く」は「思えばやってくる」、「夢があれば何でもできる」は「夢がたくさんあれば、何でもできる」ということです。大きな夢でも、小さな夢でも、たくさの夢を持てばいいということを学びました。

2つ目は、ロケット作り・ロケット飛ばしです。各班に分かれてロケット作りをしました。途中、説明書を見ても作り方が分からない所がありました。このとき、ぼくは「もういいや。」とは思わず、植松先生が言われたことを思い出し、「ここを～してみよう。」「これは～ということかな。」と考え、いろいろやってみました。すると、分からなかったことが解決できて、すっきりしました。また、同じ班の友達が、ロケットの作り方が分からず困っていたとき、「ここを～してみたら。」「こうするんよ。」などと声をかけたり、一緒に作ったりすることもできました。交流が少し深まった気がしました。最後に色をぬって、何とかロケットが完成しました。そして、そのロケットを打ち上げる時がきました。ぼくは、ロケットを飛ばしたときロケットの頭の方に入っているパラシュートがうまく広がるかどうかと、とても心配でした。しかし、周りにいる友達と、「うまく飛ぶかね。」「心配だね。」と話しているうちに、だんだん気持ちが楽になり、心配が少し安心に変わっていききました。そして、いよいよ打ち上げのときです。スイッチを押すと、勢いよくプシューッと上がり、空中でバンッと爆発し、中からパラシュートが出て、ゆっくり落ちてきました。ものすごくかっこよかったし、今までがんばった成果が出たと思いました。

3つ目は、たくさんさんの友達と仲良くなったり、もともと仲がよかった友達とさらに仲がよくなったりしたことです。ちょっとしたことから話が盛り上がり、仲が深まっていききました。ぼくは、来年から中学生です。今のうちからたくさんさんの6年生と仲良くなって、交流の輪を広げていきたいと思いました。

ぼくは、このふるさと夢プロジェクトでたくさんさんのことを学びました。「自分の可能性を広げる」「夢をたくさん持つ」「失敗してもダメではない」「全ての人に可能性がある」「今を大切にする」「命を大切にする」「出会いはとても大切」など、生きる上で大切なことを

たくさん学びました。ぼくは、これからもそれらの言葉を思い出しながら生きていこうと思いました。

ふるさと夢プロジェクト

八重東小学校 福岡 知希

千代田運動公園で、ぼくがとても楽しみにしていたふるさと夢プロジェクトがありました。テーマは、「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」でした。まず初めに、開会式があり、学校紹介をしました。ぼく達八重東小学校の順番の前、芸北小学校が学校紹介をしているとき、緊張が高まってきました。そして、とうとう順番が回ってきました。ぼくは、うまくできるかどうか心配でした。でも、実際やってみると、笑ってほしい場面で、みんなが笑ってくれたのでよかったです。

次に、植松努先生の講演会がありました。ぼくが心に残っている言葉は、3つあります。1つ目は、「失敗を怒らないでほしい。」という言葉です。確かに、人は必ず失敗をします。それを怒ってしまうと、次に何かをしようというやる気がなくなってしまいます。2つ目は、「どうせ無理などの言葉を使って、人の可能性を奪わないでください。」という言葉です。「～の学校に行きたい。」とか「こんな夢を持っています。」と言ったときに、「どうせ無理。」という言葉が返されてしまうと、誰でも自信をなくしてしまいます。それは、人の可能性を奪ってしまうことにもなります。もし、「どうせ無理。」というようなことを言われたとしても、落ち込む必要はありません。それは、話した相手を間違っているだけです。そういうときは、他の人に話しかけてみるのもいいと思います。3つ目は、「夢と仕事を分けて考えてほしい。」という言葉です。「夢」とは、その人が大好きなこと、「仕事」とは、実際にお金をかせぐことです。これをいっしょにして考えてしまうと夢が決まらないので、分けて考えることが大切だということ学びました。

講演の後には、ロケット作りがありました。ロケット作りには、かなり苦戦しました。でも、友達と協力することで何とか完成させることができました。お弁当を食べた後は、いよいよロケット飛ばしです。ぼくのロケットは、飛ぶのかどうか、パラシュートがうまく開くのかどうか、とても心配でした。そんな思いを抱えながら飛ばしたぼくのロケットはうまく飛び、無事パラシュートも開きました。その時の感動は、今でも忘れることができません。

最後の閉会式の中で今日一日のことを思い出しながら、「植松先生にもう一度会って、お話を聞きたい。」と思いました。

いい思い出になった夢プロ

壬生小学校 福岡 葉月

とても楽しかった夢プロが終わりました。私は、ロケット作りが一番楽しかったです。なぜなら、同じ班の人と楽しく話しながらできたからです。

植松先生の講演を聞きました。最初は、とても難しいお話をするのかと思っていただけ、映像を使って教えてくださったので、すごく分かりやすかったです。ときどき、おもしろい話をしてくださるので、一時間が短く感じました。そのお話の中で、植松先生が言われた「失敗をおそれない。」という言葉がとても心に響きました。なぜかというと、私は、いろいろな場面で、失敗をしてしまうんじゃないかと心配になって後ろに下がってしまう時がよくあったからです。でも、植松先生のお話を聞いて、これから失敗をおそれないよう

にがんばりたいと思えました。

ロケット製作では、難しいところがあると、近くの友だちが「ここは、こうやってやるといいよ。」とか、優しく教えてくれたのでとてもうれしかったです。男女問わずにみんな仲が良かったので、上手に作れそうな気持ちになりました。このように、北広島町内のみんなが集まって何かをするという行事があって本当に良かったと思えました。ロケットが完成したときは本当にうれしかったです。班の人が、積極的に教えてくれたから出来上がったんだと思えました。

最後に、ロケットを飛ばす準備をしました。パラシュートがちゃんと開くか試してみました。そしたら、開きませんでした。となりの女の子も開かなかったので、「開かんね〜。」と話して、一緒に笑いました。初めてしゃべったのにすぐに仲良くなれたのでよい思い出になりました。

そして、実際に飛ばす時間がきました。発射ボタンを押しても飛ばなかったのですが、2回目に勢いよく飛んでいきました。すごく迫力がありました。とても近くで飛んでいく様子を見ながら、「こんなに速く飛ぶんだ！」とびっくりしました。そして、急いで回収に行きました。どこに落ちてくるか分からなかったのが、キャッチできませんでした。

私は、陸上記録会に続いて、今日の夢プロでも北広島町内の人と話せてよかったです。これからの生活で自分の夢をつぶすような言葉を言われても、あきらめないように夢を強く持ちます。私は、将来、動物関係の仕事つく夢をもっています。必ず夢を実現したいです。また、だれかの夢をつぶすような言葉が聞こえたら、全力で止めようと思えました。

一つの思い出 夢プロジェクト

壬生小学校 水 悠吾

今回、夢プロジェクトに参加できて、ぼくは本当に良かったと思います。夢プロジェクトに参加して学んだことは四つあります。

一つ目は、植松さんの話を聞いて学んだことです。それは、生きる大切さです。今、ぼくが死んでしまったら、夢を持つことや夢をかなえるということができません。だから、生きているということがすごく大切なんだと思えました。今、ぼくが持っている夢をあきらめず、その夢をかなえたいと思えば思うほど夢をかなえることができるんだと自信を持つことができました。

二つ目は、班でロケットを作って学んだことです。それは、班が協力するということです。ロケット作りの中で一番難しいと思った場面があります。それは、パラシュートをたたむところです。そんなときに、班の人に聞くとすごく早くできたと思います。しかし、ぼくは、はずかしくてなかなかとなりの人や班の人に声かけられず、少し時間がたってしまいました。だから、家に帰って、あの時聞いていればよかったなと思えました。まだ、これからも他の学校とふれあうことは多いと思うので、そのときに声をかけたいなと思えます。

三つ目は、外で実際に飛ばして学んだことです。それは、楽しむことです。ぼくは、Eグループの一番前だったのできんちょうしていたけど、飛ばす前に楽しめばいいんだと思えました。そして、ぼくのロケットの打ち上げは大成功でした。その後、他の学校の人とも話すことができてよかったです。

四つ目は、閉会式の植松さんの話を聞いて思ったことです。それは、何度も自殺しようと思っても何も始まらないということです。もしぼくが、大人になって死にたいと思っても、その死にたいと思った気持ちをやる気や自信に変えて、がんばっていこうと思いまし

た。

今回の夢プロジェクトを今後の学校生活で生かすために、班での協力やクラスでの協力をとくに意識していこうと思いました。また、大人になったら、なんとと言われても夢をあきらめない植松さんのようになりたいなと思いました。今、仕事はどんどんロボットがやるようになっていきます。だから、勉強してロボットができないことをやっていきたいなと思いました。大人になったら、また、植松さんに会ってお話がしたいなと思います。この思いを忘れずにがんばっていこうと思いました。

夢プロジェクト

壬生小学校 竹下 翠

私が今回、夢プロジェクトで一番心に残ったことは、ロケット発射のしゅん間です。なぜかという、自分と友だちで協力して作り、デザインしたロケットを飛ばすことができたからです。植松さんや役場の方々が発射台にのせて、「準備完了です。」と言われた後、ボタンを押し、飛ばしました。とてもうれしかったです。

午前中、植松努さんがお話をしてくださいました。聞いていて、私はとても良い話だなと思いました。私が、一番心に残ったことは、「だめな人間はいない。」と「自分を信じる。」と「失敗した人も自分を責めない。」という三つの言葉です。なぜかという、まず、「だめな人間はいない。」と確かにそうだと共感したからです。そして、「自分を信じる」という言葉は、今、自分に足りないことだと思ったからです。今、私は、自分に自信がなく、発表することや年上の人と話がなかなかできません。「失敗した人も自分を責めない」という言葉は、自分も失敗が多いことを思い出しました。

植松さんのお話を聞いて、もう一度自分はなぜ、あの時失敗をしたのだろうと考えてみました。すると、あることが分かりました。それは、私は、うっかりすることが多く、一つのことに集中してしまうと、もう一つのことを忘れてしまうからだとことに気づきました。これが、失敗の原因だったのです。このことに気づくことができ、本当にうれしかったです。私は、植松さんのおかげで、自分のよくある失敗の原因に気づくことができました。本当に感謝したいです。

午前中からお昼ごろにかけてロケットを作りました。私は、班の人と少しだけ仲良くなることができました。まず、私がしたことは、説明書を読むことです。そして、作業に取りかかりました。作っている途中、班の中で少し話すことができました。そして作り終わり、次にデザインを考えました。私は、黄色とオレンジ色の星を描きました。宇宙といえば星だと思ったからです。今回ロケットを作り学んだことは、みんなで協力するということです。協力すれば何だってできるんだなと思いました。

午後からは、ロケットを飛ばしました。無事にもどってきて安心しました。

これからの学校生活で、私は、もし私や友だちが失敗したら、それを責めても何も変わらないので、なぜこうなったのかを考えたいと思います。誰かや自分が失敗しても大丈夫だといい、次のことをどんどん進めていきたいです。

そして、このことを教えてくださった植松さんへの感謝の気持ちを忘れず生活したいです。植松さん以外の方にもお世話になりました。これからいろいろな人に感謝の気持ちをもって生活します。

感謝を改めて感じた夢プロ

本地小学校 折出 真子

私は今年の夢プロジェクトで「感謝」ということを改めて感じました。今まで私はたくさんの人に出会い、そしていろいろな人に感謝してきました。今回の夢プロジェクトでは、植松先生や役場の方、先生方に感謝しました。

まず、植松先生が私たちのために北海道から来てくださったことに感謝しています。

その、植松先生のお話の中で、私は3つの言葉が心に残りました。

一つ目に、「世の中には、自分は一人しかいないのだから、毎日を一生懸命に生きる」という言葉が心に残りました。それは、私は今まで、いつもではないけれど、友達の考えに左右され、自分の考えがはっきり言えないことがありました。そんな私にとって、この言葉は、これからの私の支えであり、心の真ん中に置いておきたい大切な言葉だと思いました。これからは、自分の考えをしっかりとっていきたいです。

二つ目に、「夢をあきらめない」という言葉です。この言葉は、私の心にぴったりと合いました。私は、水泳を習っています。選手のコースなので、毎日きつい練習でつらくて、水泳を続けることをあきらめかけていました。しかし、今までの練習のこと、つらかったことを乗り越えてきたことが未来につながっていることに気づかされました。あの時、水泳をあきらめなくてよかったんだと改めて思うことができました。

三つ目に、「失敗を恥ずかしがらない」という言葉です。この言葉も、私の未来につながっているということを教えていただきました。これから、失敗はたくさんしていくと、両親から聞いたことがあります。そのことを植松先生もおっしゃっていて、両親と同じ言葉であったと気づきました。将来、失敗は何度もあるけれど、その失敗を恐れてはいけないということがわかりました。さらに、失敗を恥ずかしがってはいけないということを初めて知りました。植松先生が見せてくださった映像で、昔、飛行機を造った人がたくさんの失敗をしてきた映像がありました。ですが、今の飛行機があり、たくさんの乗客が安心して乗ることができるということは、飛行機を造ろうとした昔の人の失敗があったからこそだということを感じて、勇気をもらったと思います。

私たちが初めてロケットを製作しました。その時に、一緒に作ったのは、他の学校の知らない人たちでした。だから、はじめは話が進みませんでした。でも、一度、よくわからない所を勇気を出して話してみると、その人も私と同じ所を迷っていたので、一緒に考えました。このことから、失敗を恐れずに話し合い、助け合うとよい友達づくりになると思いました。

このように私は植松先生のお話を聞いて、たくさんの気づいていなかったことに気づかされました。だから、このような機会に本当に感謝しています。これから、この感謝の気持ちをこれからの将来につなげ、未来を創っていきたいと思います。

人生の中でとても良い一日

本地小学校 平野 日加利

ぼくは、植松先生のすばらしい講演を受け、まず、自分が「夢」についてどう思っているのか考えてみました。

「夢」というものは、できそうなことだけが「夢」なのではなく、追いかけていっているものだと思います。そして、人と人がアドバイスし、「だったらこうしてみれば」と

いう提案を言い合うことで、かなっていくものだということを学びました。このことによって、ぼくの考えは変わりました。「夢」と「仕事」は同じでなくてもよいこと。また、「夢」はたくさんあって中途半端であっても、何もしないよりはよいことも学ぶことができました。これからぼくも、たくさんの「夢」をつくることができればよいと思いました。

このことを踏まえて、一番大切だとぼくが考えたことは、人は足りないから助け合えるものだから、助け合いをしていくことが、人と関わりあっていくのにすごく大切なことだということです。これらのことができれば、みんなの「夢」が本当にかなうのではないかと思いました。それから、植松先生のお話からは、これから自分自身が自信を無くして「どうせ無理」と思ってしまった時には、今までやったことがないことをしてみるとよいと学びました。他の人が同じように「どうせ無理」と言った時には、「だったらこうしてみれば」とアドバイスできる人になりたいと思いました。

ぼくたちは、ロケット製作や打ち上げをしました。その中で思ったこともあります。製作を共にしたグループの仲間は、ほとんど話したことがありませんでした。初めはみんなだまってロケットを製作していましたが、時間が経つにつれて、話し合うことができるようになり、安心しました。そして、グループの中のみんながアドバイスなどをして、ロケットを完成することができました。ロケットのデザインなどもみんなが話し合っただけで交流を深めることができ、本当によかったです。

外に出て、打ち上げの説明が済むと、ぼくはロケットを飛ばすのがとても楽しみになり、ロケットを飛ばすことに、こんなに「夢」を感じるんだなと思いました。他の人がロケットを打ち上げたのを見るだけでもすごいなと思っていたので、自分の番になると、すごく喜びがこみ上げてきました。ボタンを押すと、ロケットが勢いよくプシューッと空高く上がっていきました。ぼくは、自分が作ったロケットがこうして上がっていくのを見て、こんなに感動するなんて思ってもみませんでした。打ち上げが終わり、植松先生の最後のお話が終わった時、ぼくはこう感じました。「今日という日がぼくにとって、ぼくの中でもよい一日だった」と。

今日という日に、夢プロジェクトで植松先生のお話を聞け、ロケットを飛ばせたことは、これから将来に生きていくと思います。それを実現するために、一日一日を頑張って生きていくことが本当に大切だということ、感じる事ができた一日でした。

感動した体験

本地小学校 辻 朔矢

ぼくは、植松先生の講演会の時、いくつか心に残った言葉があります。

まず「夢は何個あってもよい。」と言われたことです。ぼくは一年生の時、サッカーが大好きだったので、サッカー選手になりたいと思っていました。でも、三年生の時、将来の夢を聞かれたときには、他になりたいものが出てきて、どちらがいいかずっと迷っていました。あの時、迷った時間は、本当はいらなかったんだなと思いました。あの時に迷わず、両方の夢を追いかけていたらどうなっていたらと思うようになりました。一つの夢をあきらめなくてもよかったかもしれません。

もう一つは、「不安の向こうに喜びがある」と言われたことです。ぼくは、ずっと不安なことがあったら、そのことをやめていました。お話を聞いて、これからは不安に思ってもやめないようにしようと思いました。

ぼくは、植松先生の話から、夢とは何かを考えてみました。ぼくは、夢は人を成長させてくれるし、夢が無くて夢を見つけようと思うことで、夢が見つかるまで人は成長する

から、「夢は人を成長させるもの」だと思います。

次に、ロケット製作をしました。その時にもいいことが二つありました。一つは、ロケット製作でわからないことがあったとき、同じ班の人が教えてくれたことです。だから、ぼくもその人が困っている時には、教えることができました。ぼくはとても嬉しい気持ちになりました。ロケットの色を塗る時も、班の人に「君の色がきれいだね」と声をかけると、「君のもすごいね」と言ってくれました。ぼくはロケットなんて作るのはめんどくさいと思っていたけど、だんだん楽しくなっていました。

もう一つは、いろんなロケットを見たことです。昼食時間に他の班の机を見回っていると、真っ黒のロケットや赤色だけのロケットや、かっこいい模様があるのやかわいい模様があるロケットがありました。ぼくは、「なぜ、みんなあんなにかっこいいのができたんだろう。」と思いました。昼食時間だったので、本地小のみんなとその話をしていました。すると、「あの、かっこいいのだれのかな。」と友達が言いました。「あれは平野君のだよ。」とだれかが教えてくれました。平野君のロケットは、色は黒しか使っていないのに、細かい模様がたくさんあって、すごくがんばっていました。ぼくは、「そんなに長時間細かくかけるなんて、ぼくもまねしてみたい。」と思いました。

最後に、そのロケットをみんなで飛ばしました。小さいロケットだから、そんなに飛ばないだろうと思っていましたが、ぼくの予想以上に高く飛んで、パラシュートもきれいに開いていました。ぼくは、「ぼくのは、ちゃんと飛ぶのかな。パラシュートは開くのかな。」とだんだん不安になってきました。でも、植松先生の言葉を思い出して、ぼくのロケットを信じて飛ばしました。心の中で「パラシュート開け！」と思っていたら、ちゃんと飛んでパラシュートも開いてくれたので、植松先生が「ロケットが飛ぶとすごくうれしいよ。」とおっしゃっていたのがすごくわかりました。

ぼくは、最後の植松先生の言葉に感動しました。六年生は、この話を聞くことができて本当によかったと思いました。来年は聞けないかもしれないと聞いたので、五年生にこの話を伝えていきたいです。そして、このプロジェクトでできた友達を大切にして、もっともっと友達を増やしていきたいです。

夢が広がる 夢プロジェクト

豊平小学校 上田 佳乃子

今日は、北広島ふるさと夢プロジェクトがありました。町内の六年生が集まって、植松先生の話の聞いたり、ロケットを作って発射させたりしました。

私が最も心に残っていることは、植松先生の講演です。講演では、夢をあきらめないことや、自分で「どうしたらいいのだろう？」と考えて生活していくことの大切さについて学びました。また、自分がやろうと思ったことをがんばればいいこともわかりました。私は人の意見や見られ方をよく気にしてしまいます。でも自分のことは自分が一番よく分かっているから、あまり、まわりの意見は気にしなくていいのだなと思いました。でも、困ったときは頼れる人に相談してもいいということもわかりました。「一人でかかえこまないことが大切なのだ。」と感ずることができました。

植松先生の話で、特に印象的だったのは、「やりたいことは、どんどんフライングする。」ということです。私は将来、医療ソーシャルワーカーになりたいと思っています。だから、医療ソーシャルワーカーになるために、今からできることはないかなと考えてみました。今からできることは、困っている人に声をかけてあげたり、みんなのことを気にかけてあげたりすることだと思います。いっぱいフライングして、将来やりたいことができたらい

いなと思いました。植松先生の話は、なるほどと思うことが多かったです。だから、これからの生活で生かせそうなことはどんどん使っていきたいなと思います。

ロケット作りでは、自分でロケットを最後まで作ることができました。最初は、ちゃんと最後まで作ることができるかなと不安に思っていました。作り始めると、やっぱり分からないところがありました。だから同じグループの人がやっているところを、よく見てみました。見たことをまねしてやってみたつもりだったけど、上手くできませんでした。何回かやってみたけど上手くいかず、どうしようと思いました。みんなに聞く勇氣もありませんでした。そうしていると、植松先生が声をかけてくださって、次に進むことができました。みんなに聞けなかったなど、少し後悔しました。そこから先は説明書を見て進めました。みんなで写真をとるときにグループの人と少し話せたのでよかったです。次に同じような機会があったから、自分から積極的に話すことを心がけたいです。いきなりはできないと思うので、自分のできることから始めていきたいです。

ロケットの発射は、とても印象に残っています。パラシュートが開ききらなくて少し小さかったのが残念でしたが、自分が作ったロケットが空高く飛んでいったので、すごく感動しました。このふるさと夢プロジェクトでは、これから生かせる植松先生の話の聞いたり、ロケットを作ったりして、とてもいい経験になりました。

飛んだ！オリジナルロケット

豊平小学校 上野 柊

今日、北広島ふるさと夢プロジェクトで、北海道にある植松電機社長の植松先生のお話を聞いたり、ロケットを作って飛ばしたりすることができました。

先生のお話の中で、「ぜってー無理。」という相手を決めつける言葉は、夢をつぶしてしまう最低の言葉だということが一番心に残っています。先生が、中学校の先生に、「大学？そんなの勉強しないと無理。」と言われた時の「何で決めつけるのだろう。」という気持ちに共感し、自分の好きなことは、周りから何を言われても続けることの大切さが分かりました。また、人に相談されたときに返す、「でも…」や「…お金かかるんじゃない。」などの言葉は、アドバイスではないということも分かりました。私もこのような言葉を言っていたので、これからは気をつけたいです。反対に、自分の夢をみんなに話し、同じ夢を持っていて、おたがいに助け合える仲間を見つけることは、とてもロマンチックだなと思います。

お話の後に、ロケットを作りました。ロケットは、プラスチックの先たんと羽根の間に、筒をはめて、エンジンをのせたり、パラシュートを入れたりして完成です。

作っている間は他の学校の人達とチームなので、とてもきん張りました。でも、初めにすわる時、女の子が二人いたので私のとなりに座ってもらいました。すると、その女の子二人と話ができて、そのうちの一人とは、特に仲良くなりました。と中でパラシュートのたたみ方が分からなかったときは、みんなで説明書を見ながらやり、ひもの取り付け方が分からなかったときは、みんなで考えて「ああ、ストラップみたいにつけるんだ。」と解決することができました。

イラストをかく時、何をかいたら良いか分からなかったので、となりの女の子と
「これとこの色は合うよね。」
と相談して色をつけたり、
「ドットにしたら？」
と言いながら、イラストをかいたりしました。

そして、ロケットを飛ばす時は、きちんとパラシュートが開くのか、どのくらい飛ぶのかドキドキしました。発射すると、すごい勢いで、高くまで飛びました。パラシュートもきちんと開いて、落ちてきたので安心しました。落ちてくるまで、あっという間でしたが、とてもうれしく、楽しかったです。

植松先生のお話は、とてもおもしろくて、「へえ、そうなんだ。」と思うことや、明日から使えることがたくさんあったので、とても良かったです。ロケット作りは、知らない人と話したり、相談したりしながら作ることができて、6人も友達が増えて、うれしかったです。

将来につながる 夢プロ

豊平小学校 松本 愛依

今日、夢プロジェクトでロケット作りをし、飛ばしました。

植松先生の話聞いて思ったこと、学んだことが二つあります。

一つ目は、失敗はしてもいいということです。私は、今まで失敗をしたらいけないとか、はずかしいなどと、マイナスに考えていました。でも、今回の話を聞いて失敗はした方がいいことを学びました。失敗をしないと、成長しないし、何もできないし、考えなくなるからです。失敗をしないということは、チャレンジをしていないということだから、失敗をした方がいいと思いました。

二つ目は、夢があればなんでもできることです。夢があると、これから何をすればいいのかが分かるからです。なんで、その将来の夢になりたいかと考えると、いろんなことがふくらんでくると思います。ちなみに、私の夢はピアニストになることです。なぜかという、一年生のころからピアノを習っていて、ピアノをひいていると、とても楽しいからです。植松先生の話と合わせると、これから音楽の勉強やピアノの練習をたくさんすればいいということになります。植松先生の話は、将来につながることばかりなので、じっせんしていきたいです。その後、ロケット作りをしました。心に残っていることは、二つあります。

一つ目は、班の人と助け合って作ったことです。最初は、はずかしかったけど、勇気を出して、私が

「ここって、こうするんよね。」

と話しかけてみると、相手も

「こうするんよ。」

と返事をしてくれたので、だんだん打ち解けて、話せるようになりました。人と助け合うのはとても大切だなと思いました。これからも、勇気を出して話しかけて、友達をたくさん作りたいです。

二つ目はロケットを飛ばしたことです。間ちがえたところもあって、とても難しかったです。植松先生はもっと大きいロケットを作っているの、とてもすごいなと改めて思いました。最後の絵をかくときは、オリジナルの絵がかけて、とても楽しかったです。ロケットを飛ばすときは、最初は飛ばなかったりパラシュートが開かなかったりしたらはずかしいと思っていましたが、上手に飛ばせたのでうれしかったです。がんばって作ったものが飛んだので、とても達成感がありました。今度からは、少し恥ずかしくても、絶対にできると自信をもっておけばいいなと思いました。

今回の目標だった、仲良く・あいさつ・話を聞く・ロケットを完成させるの全てが達成できたと思います。でも、あいさつは、まだ完ぺきではないので、レベル5のあいさつをしていきたいです。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って

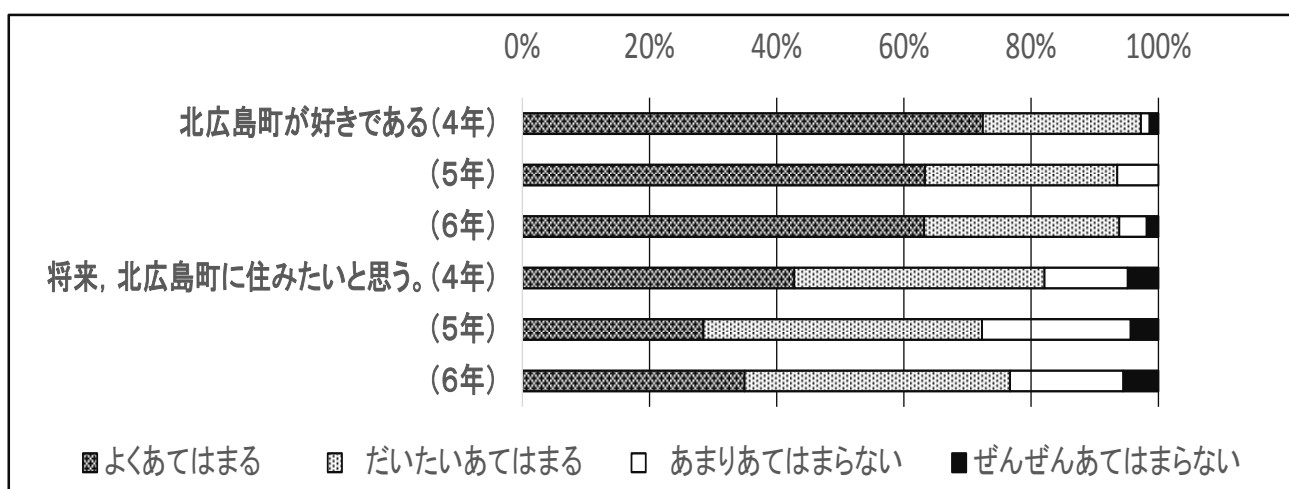
北広島町内小学校

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の3年目を終えた。

事業としては、昨年度と同様に、4年生の「北広島 お宝発見・体験ツアー」、5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」を実施した。4年と6年の事業は3年継続、5年の事業は2年継続しており、町教育委員会・関係諸団体と連携した運営も円滑にすることができている。

参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的には、「子どもに町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり、将来『北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい』という思いや考えを育てたりすることに効果的であった」といえる結果が出ている。

【ふるさと(北広島町)への愛着心等に係る「アンケート結果」について】



学年によってばらつきがあったり、高学年になるにつれ肯定的な回答が下がったりする傾向は見られるが、90%以上の児童が「北広島町が好きである」と回答し、約75%の児童が、「将来、北広島町に住みたい」と回答している。このように、肯定的な評価が高いことは、各学校のふるさと学習の充実に加えて、本事業が一定の成果を上げていることの裏づけと言える。企画・予算立てをしてくださった北広島町・北広島町教育委員会、町内関係諸団体・関係者に感謝したい。

事業実施後に、まとめた成果と改善点等については、次のとおりである。学習指導要領改訂に伴い、学校行事等の精選等を行っている中、効率的な運営を図っていく必要はあるが、北広島町の若者定住施策と連動した「北広島ふるさと夢プロジェクト」、各学校における「ふるさと・キャリア教育」の来年度以降の充実が、更に望まれる。

プロジェクト全体に関わって (成果)

- 北広島町や地域について新たな知識を得たり興味・関心が増したりして、ふるさとが好きになり誇りに思えるようになった。
- 一連の取組を通して、他者と主体的に関わろうとする力が伸びたり児童の自己肯定感が高まったりした。
- 準備や学校行事、授業時数等との関連があり、プロジェクトに懐疑的な教職員もいたが、活動を通じて児童に良い影響があることを児童の感想等から確認できた。
- 各プロジェクト実施にあたりノウハウが蓄積されてきたので、準備から実施までの流れは滞ることがなくなったと思われる。
- 継続した取組なので、保護者からの理解も得られており、誰が担任になっても見通しがもちやすくな

っている。

- 町内の同学年の児童が一堂に会して、協働活動をする事は、「ふるさと北広島」の意識付けや学校・ブロックの枠を越えた仲間づくりにつながり、小学校卒業後の中学校や地域での生活に良い効果がある。
- 充実した活動を通して、北広島の「ひと・もの・こと」にふれ、知らなかった「ふるさと北広島」の良さを実感する児童が年をおうごとに確実に増えている。
- 北広島全体が学びの場というステージイメージが、町長を隊長とした応援隊の動き、そして町行政の献身的な取組や、啓発活動により、児童・教職員のみならず地域にも定着してきた。
- 町内の施設見学や体験活動により、北広島町のよさを実感する取組となっている。
- 他校の児童との交流により、自分や学級のよさ等を再認識することができた。
- 同学年同士の交流が3年間（4年・5年・6年）継続してできるのでよい。
- 「ふるさと」を大切にするという主旨の行事は、とても意義深いものであると思う。北広島町ならではの行事は、良いことだと思う。
- 「北広島町の学校は、□年生になったら、□□ができるよ」というような、シンプルで合言葉になるような取組がいいと思う。
- 子供たちが、北広島町の様子を知ることができてよかった。
- 北広島町内の様々な所を見学したり、体験活動を行ったりすることで、北広島町のよさに気づくことができた。
- 他校の児童と交流することで、コミュニケーション力をつける機会となったり、中学校生活へのスムーズな接続となったりした。
- 学校単独での実施は難しいが、町全体での事業により実施可能となり、貴重な体験や交流などができた。継続する事で、着実に成果が上がっていると感じる。
- ふるさとを知り、地域の方と関わり、地元のよさを語れる児童が増えた。
- 町全体の方針を受け、教育委員会と管理職により概要が決まった上で、担任が具体的な計画・打ち合わせをするというやり方により、スムーズに運営できる。担任が児童への指導に重点を置くことができる。
- 町全体の取組として定着してきたことで、付けたい力や教科等との関連を明確にして、計画的に実施する等、教育課程への位置付けが明確になっている。
- 体験活動を経験した学年が北広島町のよさに気付くだけでなく、4・5・6年生になったら、こんなことができるという期待を児童が抱くことで、北広島町の学校で学んでよかったという意識の高まりに繋がっている。
- 町をあげての取組なので、単独校では経験できにくいことを経験することができる。

学年ごとの事業の振り返り（学校教職員より）

【4年生の「北広島 お宝発見・体験ツアー」について】

- 他校の児童との交流が、少しでもできたことで、友達のよさを実感する児童が多かった。
- 学校単独での実施は難しいが、町全体での事業により実施可能となり、貴重な体験や交流などができた。継続する事で、着実に成果が上がっていると感じる。
- 町内の見所について、社会見学でも行くことがないのでよい機会となっている。さらに、自分が住む地域であっても初めて訪れるという児童もいて、地域の良さを再確認できた。
- グループに分かれての開催を続けてきたが、他グループの計画を参考にすることで新たな見学場所（町内の見所）を指導者が知ることができ、社会科等の授業で活用することができた。
- 今年度の蕎麦打ち体験は、他校の児童と自然に関わることができ非常によかったと思う。
- 他校の児童との交流ができることがよい。全体交流では、他校の学校紹介の様子からよい刺激を受けた。
- ジップラインは児童の印象にも非常に残っており、他校の児童と打ち解けるのに良いと感じた。
- 芸北民俗保存芸能伝承館では、体験コーナーが良かった。また、午前中に打ち解けた他校の友達と行動したり話したりすることができていたので、自由行動の時間が確保できたことは良かった。
- ふるさとを知り、地域の方と関わり、地元のよさを語れる児童が増えた。
- 町全体の方針を受け、教育委員会と管理職により概要が決まった上で、担任が具体的な計画・

打ち合わせをするというやり方により、スムーズに運営できる。担任が児童への指導に重点を置くことができる。

- 北広島町のひと・もの・ことについて、既知の事項と関連付けながら学ぶことができた。
- 交流会では、他校の取組を知ることができ、見聞を広めることにつながった。
- 子供たちが、これまで知らなかった北広島町のよさについて知ることができた。
- 見学する、話を聞くだけでなく、実際に活動する（そばうち）場面があって、児童が意欲的に夢プロジェクトに参加できた。
- 行った場所である「戦国の庭歴史館」「どんぐり荘そば打ち体験」「オオアサ電子」とも、町内のいろいろなことを知ることができ、よかった。
- 千代田ブロックの児童が集まり交流することができたことはよかった。中学校へつながる活動である。
- ふだん中々できない体験をさせてもらえるのは、子供たちにとって貴重な体験になる。特に、歴史的な建造物や地域の事を知ることができる施設などは、家族で行く機会が少ない実態がある。町内の同学年の友達と北広島の「人・自然・もの」と関わる活動を通して共有できることが良い。
- 他校との関わりが広がると共に、子供たち自身が「北広島」を意識するようになってきた。
- 関係者の方の“熱い思い”に支えられて夢プロが開催できていることを実感している。感謝の思いでいっぱいである。子供の姿を通して、その意義を伝えることが必要と感じている。
- 北広島町の文化財や施設を巡り、すばらしさを知ったり学んだりできた。地元のもの身近すぎて知らないことが多いが、このプロジェクトを通じて、「また行きたい」と興味をもった子供もいる。
- 実際に体を動かして学んだり専門家の方から直接話を聞いたりできる活動は子供の心に残る。子供たちは楽しんで参加していた。町内を巡る活動は是非続けてほしい。
- 交流会の学校の紹介では、各校で発表する中身を考える中で自校の自慢や特色を意識できたことや他の学校について知ることができ場となった。また、他校の児童の前で発表する機会は貴重な体験となり、5年時・6年時での学校紹介に生かされている。
- 4年生で同じバスに乗り移動したり活動したりすることにより親睦が図られ、修学旅行の前の関係づくりをあえてしなくてもよい関係が築けている。
- テングシデやオオアサ電子など、全国・世界に誇れる町であることを実感できる充実した体験だったと思う。
- 各見学地がみな地域にとっての自慢の場所であり、それぞれの特色やよさを感じることができた。町内に住んでいてもよく知らない場所もあり、新しい発見がたくさんあった。貴重な学習の場となり、また行ってみたいという思いが持てた。
- 体験活動では、みんなで協力して一つのものを作り上げることができ、よい思い出とともに、満足感を持つことができた。
- 町内の同級生との交流により、他校の友達ができ、児童が喜んでいる。その後、校外で偶然出会ったときにも話ができたそうである。
- 子供達は、見学先でお話していただいたことをよく覚えていて、テングシデのすごいところも、オオアサ電子のすごいところも、しっかり自分の言葉で語れる。北広島町の良さをしっかりと理解できた内容だった。

【反省・改善点等】

- 1日でのお宝発見ツアーでは、バスでの移動に時間がかかるため、集合場所に早めに到着できる等、効率のよい日程を組むように努める。子供同士の交流の時間が短くなる等、全体会の内容が消化し切れなかったグループもあった。児童同士の交流の時間を十分に確保したい。
- 開会行事の中で、参加されている方の紹介をすることで、夢プロに関わる人や地域の人等を児童に知らせたらよいと思った。
- 事前指導と事後指導をより充実させることで、教育効果が高まるようにしなければならない。実施後のまとめ、報告等について検討の余地がある。
- そばうちは、子供達にとって大変楽しく、なかなかできない体験というよい面もあるが、アレルギー等の心配のある児童もおり、違うメニューも考えられればと思った。
- 「お宝発見・体験ツアー」とあるように、子供達が、わくわくどきどきするような体験にしていくためには、活動内容をさらに精選する必要がある。

【5年生の「『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」について】

- 他校の児童と交流したり活動したりしたことで新たな友達ができ、充実感や人間関係作りにおいて自信のついた児童が増えた。
- 北広島町内の「ひと、もの、こと」を知り、地域の方々の温かさにもふれることができた。学校ではできない体験をたくさんさせていただき、その価値付けもしてくださった。学校の教職員でもない、家族でもない人との関わりが新鮮で、温かく、大変貴重なものであった。
- 少人数での民泊体験を通して、北広島町のよさを実感する貴重な体験ができた。いけないことに対して、本気で叱っていただけることにも感謝したい。
- 本グループは、天候不良に拠る中断があったにもかかわらず、その後の体験活動を実施することができた。民泊家庭はもとより、町教育委員会、町観光協会等たくさんの方のご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。
- 民泊家庭での体験活動は工夫を凝らしてくださっていて、児童の印象に残っている。また、健康面等配慮してくださり丁寧で温かい対応に感謝の言葉しかない。
- 昨年度の反省も含めて、プログラムの順番が変わったが、児童の体力に無理がなかったので充実した4日間になったと思う。
- 大暮での魚の掴み取りで「命をいただいて生きている」という話をしてくださるのは、とても良いと思う。生活に実感を伴いにくい今、とても有意義な話で、子供たちの心に残った。
- 家族や教職員など普段関わっている大人のいない中での生活・活動である。自分で、あるいは友達と、考えたり、判断したりせざるを得ない状況で過ごしたことで、人に頼らず、自分でやることの大切さに気づき、行動できるようになってきている。
- あまごのつかみどりは、自分で捕まえて、さばいて、焼いて試食するということが体験できてとてもよい。全ての子ども達がいきいきと活動しておりとても良かった。「命をいただく」話もとても良かったと思う。
- 少人数に分かれて行う民泊体験の意義はとても大きいと思う。受け入れ家庭との交流を通して、心と心で触れ合えたり、優しさやぬくもりを感じたり、北広島町の自然に触れたり、生涯の思い出に残る日々となっていると思う。
- 自分から進んで動いたり、他者とのコミュニケーションが深まったりする。
- 北広島の自然に触れたり民泊家庭の方々とのふれあいを通したりして、北広島のことを深く知った児童が増えた。
- 体験後物事に前向きに取り組む児童が増えた。
- 先生がいない中で、児童だけで活動することができ、主体的に動く力や課題解決能力の向上につながると思う。
- 民泊体験は、親元を離れ、どうにか自分でやらなければならないという自主性を育むことができた。
- 民泊先でお世話になった方々に対し、感謝の心を育むことができた。
- 北広島町内の自然を生かした様々な体験活動ができ、北広島の良さを発見する良い機会となった。
- 民泊することで、地域の方の温かさに触れることができた。
- 親から4日離れて生活することは児童にとって貴重な体験である。
- 民泊を通して普段体験できない身近な自然に触れることができ、すばらしさに気づいた。家族や学校職員がいない中子供だけで考えたり折り合いをつけたりする場面が必然的にあり、コミュニケーション力を高めることにつながった。
- 様々な活動を通して地域の方の温かさに触れることができていた。また、生き生きと活躍されている姿を間近に見て、憧れや誇りをもった。
- 民泊家庭の方との触れ合いは、児童にとってずっと思い出に残っているようである。
- 悪天候により7月始めの活動を中断し9月始めの開催となったが、この方が学期末の成績の心配もなく余裕をもって臨めた。
- 「5年生になったら民泊ができる。□□年生になったら夢プロで～するんよ！」と子供達が夢プロをととても楽しみにしている。
- 登山や火起こし等負荷のかかる活動を共にすることで、連帯感が生まれる場になっている。

【反省・改善点】

- 天候不良のため中断となったグループがあったが、9月になって続きを実施させていただき大変ありがたかった。ただ、芸北の9月は、魚の掴み取りをするには大変寒かったので、もう少しはやくできれば、なお良かった。1日目の学校泊のことを考えると、暑くない時期の方が良い。
- 湿原トレッキングは、ガイドさんの説明が丁寧で学びも大きいですが、1列に並んで歩くことしかできない区間があり、先頭を歩くガイドさんの説明が最後尾には聞こえない。可能であればガイドさんの人数を増やして説明を聞き取りやすくするとよい。
- 「北広島のよさを満喫しよう」という趣旨を保護者にもっと浸透させることで、民泊体験をよりプラス思考でとらえられるようにしたい。
- 1泊目は学校泊であった。校舎内は暑くて寝苦しく、十分な睡眠がとりにくかったので、学校以外の施設を利用する事も考えたい（睡眠が十分確保できないと、2日目以降の活動に支障が出やすい）。
- 豪雨災害のため登山が八幡湿原トレッキングとなった。たまたま天候が悪くて登山がトレッキングとなったが、暑い夏のことなので、安全面等の配慮から、初めからトレッキングにした方が安全面でもよいのではないかと考える。
- 事前・実施中・事後に提出する書類や期限・送付先を一覧表に一括してまとめて関係職員に配布していただけるとよい。アンケート等の報告物については、精査をする必要がある。
- 民泊家庭により体験できることが違うので、帰ってきて交流する中で、差を感じてしまう児童もいた。事前の趣旨・活動等の連携を丁寧にする必要がある。

【6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

- 講演は、児童の生きかたを考えるヒントになり大変有意義であった。
- ロケット作りで児童間の交流ができた。また、実際にロケットを飛ばして感動体験が味わえた。
- 植松先生の講演から子ども達は様々なことを感性で感じ取っている。「このままの自分でいいんだ。」と自信につながっている
- キャリア教育の視点からも、自己を見つめ直し、自分の将来や夢について考えるよい場となっている。
- グループに分かれてロケットを作って、それを実際に飛ばしてみるという流れがとてもよい。ロケットが実際に飛んでいく感動は、何物にもかえがたい。
- 児童は、ロケット作りの話を聞いて、自分の将来を考えるきっかけを作ることができたと思う。
- 植松努氏の講演はたいへん分かりやすく、児童の心に響くものであり、勇気をもらうこともできた。児童は、夢プロジェクト後には、植松さんの書かれた本をよく読むようになっている。
- ロケットを製作し、自分のロケットを飛ばすという経験は初めてであり、講演と合わせて、達成感と感動がいっぱいの日となった。
- 各学校の学校紹介は工夫されており、最高学年の6年生の発表は特に見ごたえがあった。
- 他校の児童との交流が、いろいろなところであるのはよいことだと思う。
- 植松先生のお話には子供たちが引き込まれていた。とても分かりやすく、生き方について考えさせられる話で、キャリア教育の視点からも有意義であった。
- 子供たちはロケットを作る体験を楽しみながら、他校の児童との交流ができていた。
- 講演の内容もロケット飛ばしの内容も良かった。
- 植松先生の講演は、児童が夢や希望、自信をもって生きていくためにはどうすればよいか具体的な分かり、聞いていて元気が出てきて、自分もやりたいことをやってみようという気持ちになるもので、大変よかった。
- 他校の児童とグループになって、協力してロケットを作ることで、自分でやってみようとするここと、分からなかったら友達に助けを求めること、友達と協力することなどの力が身につく。
- 頑張って作ったロケットを飛ばすことで、「自分にもできるんだ。」という自信がつく。また、とても高くあがるので、感動体験となる。
- 講演「子供に夢をもつ大切さを語って下さる」というねらいに対して、植松さんは適任の方だと

思う。実際に話を聞いて、植松さんの人間的な魅力に圧倒され、子供たちは素直な気持ちで自分の行動を振り返ったり夢をもつことの楽しさを感じたりできた。

- 交流会では、各校趣向を凝らした学校紹介を行った。他校の取組を知ったり発表の態度を間近で見たりすることがよい刺激になった。
- 他校の児童と定期的に関われる機会があるため、中学校入学前に良い人間関係が作れそうである。
- 夢を持つことの大切さや将来に向けた展望をもつことについて、子供達が考える良い機会となった。
- 何度も植松さんの話を聞いていると、感動は薄れてくる。しかし、初めて聞く6年生にとっては毎回感動のある内容である。できるだけ継続できることをお願いしたい。
- 他のプロジェクトと違って、準備や片付けは全ての学校から人を出しているのではない。町教委のみなさんを始め、近隣小学校の先生方にお世話になっている。感謝している。
- ロケット作りが他校の児童と協働学習のスタイルで行われることは、子供達につけたい資質・能力を育てることにつながり、今の時代の流れに合致していると感じた。

【反省・改善点】

- 植松先生を北海道から招くにあたっては、経費が相当かかると思うが、楽しみにしている子ども達も多いので、この取組を可能な限り継続してほしい。
- 植松先生との記念撮影は各校行ってもらいたい。子ども達や保護者にとっても、よい記念となる。
- 実施時期が2学期の大きな行事が続く多忙な中であつた。講師の都合もあつて難しいかもしれないが、もう少し早い時期の実施を考えるとよい。
- 学校紹介の時間が十分にあつたが、グループ内で交流を深める時間を確保した方が、消極的な児童もより充実した時間を過ごせるのではないか。ロケット作りの際、簡単な自己紹介をしてから始めることも考えるとよい。
- 今回はロケットが改良されていてトラブルなく順調に飛ばすことができた。来年度も順調に飛ばすことができるであろう。時間に余裕ができることが予想される。色を塗って完成したロケットをお互いに見合う時間を設けることが可能であると思う。
- 帰る時刻は、バス通学の学校にとって余裕があつたと思う。そのぶん、開始時刻はもう少し下げても良いのではないかと思われる。
- 学校紹介の意義は感じつつも、指導にかかる時間の確保は厳しい状況である。5年生でもやっているのではなくてもよいのではないかと思う。

おわりに

「北広島ふるさと夢プロジェクト」は「若者定住」を教育の立場からサポートする事業としてスタートし3年が経ちます。その間、サブテーマであります～ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成～を願い、微力ながら全力で取り組んでまいりました。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業が始まり、その甲斐あってか、事業スタート以前と現在では事業に関わる各種調査において少しずつ変化が現れており、同時に成果と課題が見えてきました。地元高校への進学率が5.8%上昇していることや「北広島町が好きだ。」と答えた児童生徒の割合が9割を超えてきていることなど、北広島町への愛着が増していることがわかります。反対に中学3年生保護者で「子供は将来北広島町に住みたい。」と答えたのは35%でした。地域の方々からは事業の取組みに対し応援の言葉等をいただくのですが、この結果を受けて保護者への事業の趣旨を踏まえた広報が不十分であることがわかりました。今後の課題と真摯に受け止め活動や広報を改善していきます。

「ふるさと教育」や「体験活動」により児童生徒の心の充実が図れるということは様々な研究機関が報告されているところです。子供達が体験活動を実施することで北広島町の自然の中に身を置き、自然の偉大さ、美しさ、神秘性をたっぷり実感します。感動し、疑問を抱き、驚きを実体験し、自ら自然の一部となり、五感を働かせた直接体験は子供達の感性を豊かにします。小学校5年生が行っている「町内民泊体験活動」がまさにそのものです。また、併せて学校間の垣根を越えて「体験活動」を実施することにより町内の仲間意識の醸成も図られてきています。共に「ふるさと」を思うことでより北広島町への愛着が増しているように思われます。

童謡「ふるさと」の一節に、「志をはたして いつの日にか帰らん 山は青き故郷 水は清き故郷」とあります。その地を離れて長い年月が経ったとしても、家族や友達との思い出がふるさとの景色と共に思い出されるような、心を動かすような活動をしたいと思っています。子供達にとって忘れがたき思い出する故郷「北広島町」にしていきます。

子供達の心の中に「ふるさと＝北広島町」となりますように、今後の活動に対し多くの皆様方にご支援をよろしくお願いします。

平成30年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
副隊長 池田 庄策
(北広島町教育委員会教育長)